

萩原遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



萩原遺跡 4区 土坑群



4区1号井戸出土 柄杓曲物（平安時代）



7区覆土出土 元文一分判金

序

萩原遺跡は、群馬県太田市緑町に所在し、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴い、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）の委託を受け群馬県教育委員会の調整のもと、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成16年5月から平成17年3月（第1次調査）、平成18年11月（第2次調査）、平成19年3月（第3次調査）にかけて発掘調査を実施しました。遺跡では縄文時代から近世に至る遺構・遺物が調査されました。

整理作業は平成21年10月から22年9月にかけて行いました。本報告書で報告する萩原遺跡は、古墳時代の土坑群、平安時代の水田、近世の元文一分判金など貴重な遺構・遺物が発見されています。

古墳時代の土坑群は粘土層を掘り込んでおり、粘土を採掘した痕跡であると考えられます。平安時代の水田は、度重なる洪水を復旧しながら、継続的に営まれていたことがわかってきました。近世の元文一分判金は、伝世品がほとんどで、本遺跡のように発掘調査で発見される例は非常に珍しいことです。

こうした本遺跡で検出された資料は、当地域の歴史を究明するうえで大変貴重な発見といえます。古代史の解明と文化財保護のためには、発掘成果を着実に蓄積していくことが大切です。

本遺跡の発掘調査から本報告書の刊行に至るまでは、東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめとする諸機関並びに地元関係者の皆様に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げます。

平成22年9月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄 一

例 言

- 1 本報告書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施された、萩原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書に所収の遺跡名と発掘調査地の所在は、以下のとおりである。縄文時代から近世にわたる遺構・遺物が検出された複合遺跡である。
萩原遺跡（はぎわら）遺跡
調査面積 16,707㎡
群馬県太田市緑町
- 3 事業主体 東日本高速道路株式会社関東支社
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の実施期間と担当者は、以下の通りである。
第1次調査（平成16年度）平成16年5月1日～17年3月31日
調査担当 大塚俊和（専門員）、柚沼弘之（専門員）、須田正久（専門員）、関口博幸（専門員）、須田貞崇（主任調査研究員）、長澤典子（主任調査研究員）
掘削請負工事（株）シン技術コンサル前橋支店
委託 地上測量（株）測設、航空測量・空中写真撮影（株）シン技術コンサル前橋支店
第2次調査（平成18年度）平成18年11月1日～18年11月22日
調査担当 石塚久則（専門員）、山田精一（主任調査研究員）
掘削請負工事 須賀建設（株）
委託 地上測量（株）シン技術コンサル前橋支店、航空測量・空中写真撮影 技研測量設計（株）
第3次調査（平成18年度）平成19年3月5日～19年3月28日
調査担当 石塚久則（専門員）、山田精一（主任調査研究員）
掘削請負工事 須賀建設（株）
委託 地上測量（株）シン技術コンサル前橋支店、航空測量・空中写真撮影 技研測量設計（株）
- 6 整理事業の実施期間と担当者は、以下の通りである。
整理担当 笹澤泰史 実施期間：平成21年10月1日～平成22年9月30日
- 7 本書作成の担当者は次のとおりである。
執筆：笹澤泰史（主任調査研究員）、第6章〔1〕関口博幸（主任調査研究員）
写真撮影：佐藤元彦（補佐）
- 8 下記事項の観察
縄文土器分類・観察：山口逸弘（主席専門員）、土師器・須恵器分類・観察：神谷佳明（主席専門員）、陶磁器：大西雅弘（主席専門員）
- 9 発掘調査及び出土遺物整理にあたっては、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。（敬称略）
太田市教育委員会、阿部朝衛（帝京大学教授）、小倉淳一（法政大学専任講師）
- 10 出土遺物・図面・写真・記録などの資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 本書中の遺構番号は、発掘調査時に付したものをそのまま使用している。
- 2 本書の挿入縮尺は、以下を基本とする。
土坑・・・1/40、堅穴状遺構・・・1/60、土器・・・1/3、銭貨・・・1/1、石器・・・1/1、全体図・・・1/200
- 3 遺構図の方位記号は国家座標の北を表している。座標系は国家座標第Ⅹ系である。
- 4 本文中の遺構の位置は、国家座標Ⅹ系を用いたグリッドで表した。国家座標Ⅹ系を5m方眼に区切り、X、Y軸の交点下3桁をグリッド名とした。462-136は、X軸＝+54.462、Y軸＝-74.136を指す。
- 5 本文中で使用したテフラの記号と噴出年代は以下の通りである。
浅岡B軽石（As-B）・・・1108（天仁元）年 榛名ニッ岳伊香保テフラ（Hr-FP）・・・6世紀中葉
榛名ニッ岳川テフラ（Hr-FA）・・・6世紀初頭 浅岡C軽石（As-C）・・・4世紀初頭
As-C軽石の噴出年代については、3世紀に遡る可能性が指摘されている（若狭 徹「群馬の弥生時代が終わるとき」『人が動く・土器が動く古墳が成立する頃の土器の交流』かみつけの里博物館 1998）。

目次

序

例言・凡例

目次

挿図・写真図版目次

第1章 調査と整理の経過	1
[1] 調査に至る経緯	
[2] 調査の経過	
[3] 調査の方法	
[4] 整理の経過	
[5] 整理の方法	
第2章 遺跡の立地と環境	
[1] 位置と地理的環境	5
[2] 歴史的環境	7
第3章 基本層序	19
第4章 遺構と遺物	
[1] 古墳時代の遺構と遺物	
(1) 土坑	23
[2] 平安時代の遺構と遺物	
(1) 土坑	69
(2) 井戸	75
(3) 水田	78
(4) 溝	84
[3] 中・近世の遺構と遺物	
(1) 竪穴状遺構	88
(2) 土坑	89
(3) 溝	90
[4] 時期不明の遺構	
(1) 掘立柱建物	93
(2) 土坑	94
(3) 溝	94
(4) ビット	96
[5] 遺構外出土遺物	101
第5章 自然科学分析	
[1] 自然科学分析の経緯	107
[2] 萩原遺跡の土層とテフラ	107
[3] 萩原遺跡における花粉分析	111
[4] 萩原遺跡の植物珪酸体	118
第6章 成果	
[1] 自然科学分析の成果	125
[2] 調査の成果	131

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	北関東自動車道(伊勢崎～那城) 道路位置図	2	第47図	古墳時代4・5区土坑出土遺物	67
第2図	萩原遺跡調査区設定図	4	第48図	平安時代3・4区土坑	70
第3図	萩原遺跡周辺地形図	5	第49図	平安時代5-1区土坑	71
第4図	周辺地形と主な道路	6	第50図	平安時代5-1・5-2区土坑	72
第5図	周辺の主な道路	18	第51図	平安時代5-2区土坑	73
第6図	萩原遺跡基本土層図	19	第52図	平安時代5-2・9・11区、 9区2号土坑出土遺物	74
第8図	萩原遺跡6・7・11区基本土層図	22	第53図	平安時代4区井戸、4区1号井戸出土遺物	75
第9図	古墳時代3・4区土坑	29	第54図	平安時代4区1号井戸出土遺物	76
第10図	古墳時代4区土坑(1)	30	第55図	平安時代11区井戸	77
第11図	古墳時代4区土坑(2)	31	第56図	平安時代5-2区水田(1)	78
第12図	古墳時代4区土坑(3)	32	第57図	平安時代5-2区水田(2)	79
第13図	古墳時代4区土坑(4)	33	第58図	平安時代11区2畝水田	80
第14図	古墳時代4区土坑(5)	34	第59図	平安時代11区3畝水田	81
第15図	古墳時代4区土坑(6)	35	第60図	平安時代11区4畝水田	82
第16図	古墳時代4区土坑(7)	36	第61図	平安時代11区水田	83
第17図	古墳時代4区土坑(8)	37	第62図	平安時代3区溝	84
第18図	古墳時代4区土坑(9)	38	第63図	平安時代4区溝	84
第19図	古墳時代4区土坑(10)	39	第64図	平安時代5-1区溝	85
第20図	古墳時代4区土坑(11)	40	第65図	平安時代5-2区溝(1)	85
第21図	古墳時代4区土坑(12)	41	第66図	平安時代5-2区溝(2)	86
第22図	古墳時代4区土坑(13)	42	第67図	平安時代9区溝	86
第23図	古墳時代4区土坑(14)	43	第68図	平安時代11区溝	87
第24図	古墳時代4区土坑(15)	44	第69図	中・近世11区1号竪穴状遺構	88
第25図	古墳時代4区土坑(16)	45	第70図	中・近世11区1号竪穴状遺構出土遺物	88
第26図	古墳時代4区土坑(17)	46	第71図	中・近世11区2号竪穴状遺構	89
第27図	古墳時代4区土坑(18)	47	第72図	中・近世8区土坑	89
第28図	古墳時代4区土坑(19)	48	第73図	中・近世3区溝	90
第29図	古墳時代4区土坑(20)	49	第74図	中・近世4区1号溝出土遺物	90
第30図	古墳時代4区土坑(21)	50	第75図	中・近世4区溝	91
第31図	古墳時代4区土坑(22)	51	第76図	中・近世5-2区溝	91
第32図	古墳時代4区土坑(23)	52	第77図	中・近世8区溝	91
第33図	古墳時代4区土坑(24)	53	第78図	中・近世11区溝(1)	92
第34図	古墳時代4区土坑(25)	54	第79図	中・近世11区溝(2)	93
第35図	古墳時代4区土坑(26)	55	第80図	時期不明4区1号掘立柱遺物	93
第36図	古墳時代4区土坑(27)	56	第81図	時期不明5-1区土坑	94
第37図	古墳時代4区土坑(28)	57	第82図	時期不明3区溝	94
第38図	古墳時代4区土坑(29)	58	第83図	時期不明4区溝	95
第39図	古墳時代4区土坑(30)	59	第84図	時期不明4区ピット(1)	97
第40図	古墳時代4区土坑(31)	60	第85図	時期不明4区ピット(2)	98
第41図	古墳時代4区土坑(32)	61	第86図	時期不明4区ピット(3)	99
第42図	古墳時代4区土坑(33)	62	第87図	時期不明4区ピット(4)	100
第43図	古墳時代4区土坑(34)	63	第88図	遺構外出土遺物(1)	102
第44図	古墳時代5-1区土坑	64	第89図	遺構外出土遺物(2)	103
第45図	古墳時代4区土坑出土遺物(1)	65	第90図	遺構外出土遺物(3)	104
第46図	古墳時代4区土坑出土遺物(2)	66			

写真目次

P L 1	萩原遺跡 3区全景	P L 7	4区211・212号土坑セクション 4区365号土坑セクション
P L 2	4区全景 5区全景 (西から)	P L 8	4区350号土坑周辺 4区1号井戸全景 4区1号井戸遺物出土状況 11区1号井戸全景 11区2号井戸セクション
P L 3	8区全景 9区全景 (第3面) 11区全景 (第1面) 11区全景 (第2面) 11区全景 (第3面) 11区全景 (第4面) 3区1・2号土坑全景 3区3号土坑全景	P L 9	3区1号溝全景 3区2・3号溝全景 3区1・4号溝(西から) 3区4号溝全景 3区4号溝セクション 3区1号溝全景 3区1号溝全景 3区1号溝全景 3区6号溝全景 (東から)
P L 4	4区1号土坑遺物出土状況 4区4号土坑遺物出土状況 4区6号土坑遺物出土状況 4区7号土坑遺物出土状況 4区8号土坑遺物出土状況 4区9号土坑遺物出土状況 4区14号土坑遺物出土状況 4区16-18号土坑遺物出土状況 4区21号土坑遺物出土状況 4区28号土坑遺物出土状況 4区33号土坑遺物出土状況 4区39号土坑遺物出土状況 4区79号土坑遺物出土状況 4区95号土坑遺物出土状況 4区100号土坑遺物出土状況	P L 10	4区1・2号溝全景 4区3号溝全景 4区4号溝全景 4区5号溝全景 4区6号溝全景 4区9号溝全景 4区10号溝全景 4区8号溝全景 4区11号溝全景 4区12号溝全景 4区13・14号溝全景 4区15号溝全景 4区16号溝全景 5区4号溝セクション
P L 5	4区101号土坑遺物出土状況 4区103号土坑遺物出土状況 4区114号土坑遺物出土状況 4区158号土坑遺物出土状況 4区198号土坑遺物出土状況 4区276号土坑遺物出土状況 4区534号土坑遺物出土状況 4区287号土坑遺物出土状況 4区365号土坑遺物出土状況 4区399号土坑遺物出土状況 4区534号土坑遺物出土状況 9区2号土坑遺物出土状況 4区44・45号土坑全景 4区58・59号土坑全景 4区88号土坑全景	P L 11	4区8号溝全景 4区11号溝全景 4区12号溝全景 4区13・14号溝全景 4区15号溝全景 4区16号溝全景 5区4号溝セクション
P L 6	4区10・11・132・133号土坑全景 4区69-72号土坑全景 4区104-106号土坑セクション 4区126・127・136号土坑全景 4区150・151号土坑全景 4区159・160号土坑全景 4区220・221号土坑全景 4区303・304・307号土坑全景	P L 12	11区1-3号溝全景 11区2号溝 11区2・3・7・8号溝全景 11区3・24号溝全景 11区14・15号溝全景 11区16号溝全景 11区17・20号溝全景 11区18・19号溝全景
P L 7	4区365号土坑全景 4区395号土坑全景 4区276号土坑周辺	P L 13	5区水田面近景 11区2面 (水田面) 11区2面 (水田面) 11区3面 (水田面) 4区1号掘立柱建物 11区1号型穴状遺構 11区1・2号型穴状遺構 11区2号型穴状遺構遺物出土状況
		P L 14	4区基本土層 5区基本土層 6区基本土層 7区基本土層
		P L 15	4区土坑出土遺物
		P L 16	4・5・9区土坑、4区溝、4区井戸、 11区型穴状遺構、遺構外出土遺物
		P L 17	遺構外出土遺物

第1章 調査と整理の経過

[1] 調査に至る経緯

北関東自動車道は、高崎ジャンクションで分岐して群馬県、栃木県、茨城県へと通じる高速道路で、群馬県では高崎市、前橋市、伊勢崎市、太田市を通過して、栃木県へ至る。

北関東自動車道関連埋蔵文化財発掘調査は、高崎～伊勢崎間14.9kmと、伊勢崎～県境間17.7kmの2段階で行われた。伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmについて発掘調査が開始されたのは平成12年度である。平成12年6月12日、日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において公団・群馬県土木部道路建設課高速道路対策室・群馬県教育委員会文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者で協議を行った。公団からは用地買収等の状況、文化財調査と工事工程（カルバートボックスや橋梁等の下部工事発注）について、平成12年度に一部の道路の発掘調査について急遽8月から発掘調査の要請があった。当事業団では、残土処理場確保、側道部分の調査地の明瞭な区分等について調整し、調査の準備を行った。

各機関の検討を受け、文化財保護課の調整により日本道路公団東京建設局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者は「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日に締結した。この協定に基づき日本道路公団東京建設局と当事業団が「平成12年度北関東自動車道（伊勢崎～県境）埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、調査は同年10月から開始することとなった。

本遺跡は峯山遺跡の北西に隣接し、金山丘陵の北端部の低地部に位置する。

遺跡の調査については、平成16年5月から平成17年3月（第1次調査）、平成18年11月（第2次調査）、平成19年3月（第3次調査）にかけて行った。

[2] 調査の経過

北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う萩原遺跡の発掘調査は、3次13ヶ月行われた。

調査期間

第1次調査（11ヶ月間）

平成16年5月1日～平成17年3月31日

第2次調査（1ヶ月）

平成18年11月1日～平成18年11月22日

第3次調査（1ヶ月）

平成19年3月5日～平成19年3月28日

第1次調査（11ヶ月間） 本遺跡は金山から延びる丘陵の北端斜面部と低地部から構成され、調査開始まで宅地や水田として利用されていた。遺跡内は道路や水路により細かく分断され、これを基準にして調査区を西から東へ1区から11区まで設定した。

調査は各調査区ごとに試掘を先行し、遺跡が発見された調査区について本調査を実施した。その結果、2・6・10区については土地改良や宅地造成等により削平され、遺跡はすでに消滅していたため、試掘調査のみとなった。本調査は3区、4区、5区南半部（5区-1）、7～9区、11区について実施し、第1次調査により全て終了した。3～5区、8区は1面、9区は2面、11区は3面の調査を行った。

1区と5区北半部（5区-2）については未収去地であったため、本年度には発掘調査を行っていない。

第2次調査（1ヶ月） 第2次調査では、1区を調査した。1区の調査は谷の傾斜地で埋没土が深く、掘削深度は約3mである。調査区は峯山遺跡Ⅱ区に接している。峯山遺跡Ⅱ区では本遺跡1区に隣接して、飛鳥時代から奈良時代にかけて操業した製鉄炉の排滓場が検出されており、その続きが本遺跡1区に想定されていた。1区は谷地で、掘削深度を3mにしても平安時代の文化層（As-B）であった。調



第1図 北関東自動車道（伊勢崎～県境）遺跡位置図

26	640	萩原遺跡	太田市藤町
27	650	古米桑出水田跡	太田市藤町
28	660	二の宮遺跡	太田市藤町
29	670	八ヶ入遺跡	太田市藤町・東今泉町
30	680	大道西遺跡	太田市東今泉町
31	690	大道東遺跡	太田市東今泉町
32	700	葦原遺跡	太田市只上町
33	710	鹿島遺跡	太田市東今泉町
34	720	向矢部遺跡	太田市只上町
35	730	矢部遺跡	太田市只上町
36	740	只上郷町遺跡	太田市只上町
37	750	新島遺跡	太田市只上町
38	760	道草遺跡	太田市只上町

13	510	大原百石遺跡	新田郡東本町大原
14	520	山ノ神野田遺跡	新田郡東本町山ノ神
15	530	山ノ神野田遺跡	新田郡東本町山ノ神
16	540	新田西野原遺跡	新田郡東本町野原
17	550	西長岡塚遺跡	太田市西長岡町
18	560	島谷ノ遺跡	太田市西長岡町
19	570	西長岡原遺跡	太田市西長岡町
20	580	菅地遺跡	太田市菅地町
21	590	成塚遺跡	太田市成塚町
22	600	成塚向山古墳群	太田市成塚町・北条井町
23	610	太繁遺跡	太田市久保町
24	620	上郷ノ遺跡	太田市上郷町
25	630	臺山遺跡	太田市上郷町・緑町

番号	KT	遺跡名	所在編（調査時）
1	340	井上遺跡	伊勢崎市三和町
2	350	天ヶ上遺跡	伊勢崎市三和町
3	360	太上天遺跡	伊波郡東村上田
4	370	前遺下遺跡	伊波郡東村上田
5	380	塚下遺跡	伊波郡東村上田
6	390	上郷ノ遺跡	伊波郡東村小保方
7	400	流西遺跡	伊波郡東村田部井
8	410	下元居遺跡	伊波郡東村田部井
9	420	下田遺跡	伊波郡東村田部井
10	430	鼻原間遺跡	伊波郡東村田部井
11	440	下久保遺跡	伊波郡東村田部井
12	450	大久保間遺跡	新田郡東本町大久保

査幅が狭く、安全上これ以上の深度を求めることができなかつたが、谷地に製鉄関連遺物の広がりか予想される。

第3次調査（1ヶ月） 第3次調査では、5区北半部（5区-2）を調査した。

〔3〕調査の方法

- （1）国家座標第Ⅷ系を基準にグリッドを設定した。東南角交点下3桁をグリッド名称としている。
- （2）遺構名称は種別や区ごとに、通し番号を付した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位を基本とし、位置をとどめるものについては、その都度番号を付し、図面上に記録した。
- （3）出土遺物の取り上げに際しては完形・大破片については図化等を行ったが、小破片については埋没土層ごと一括して取り上げた。
- （4）道路や水路を基準にして調査区を西から東へ1区から11区まで設定した。
- （5）調査は各調査区ごとに試掘を先行し、遺跡が発見された調査区について本調査を実施した。
- （6）2・6・10区については土地改良や宅地造成等により削平され、遺跡はすでに消滅していたため、試掘調査のみとなった。
- （7）本調査は1、3～5区、7～9区、11区について実施した。3～5区、8区は1面、9区は2面、11区は3面の調査を行った。1区、7区では遺構が確認されなかつた。
- （8）遺構確認面は中・近世面、奈良・平安時代面、古墳時代中期面の3面を検出した。
- （9）旧石器時代の調査を行った。本遺跡は低地部のために旧石器時代の良好なテフラを検出しており、テフラと花粉を資料とした自然科学分析を行いながら、後期旧石器時代の調査・環境復元を行った。詳細は第6章

〔1〕自然科学分析の成果を参照。

〔3〕調査の方法 〔4〕整理の経過 〔5〕整理の方法

〔4〕整理の経過

整理は平成21年度から22年度までの12カ年行った。

平成21年度 平成21年度10月1日から平成22年3月31日まで行った。平成21年度の整理では遺構図のトレース原因の作成、縄文土器、土師器・須恵器などの実測を行った。

平成22年度 平成22年度は前年度に継続して遺構トレース原因の作成、土師器・須恵器、陶磁器、石器などの実測・トレース作業を行い、平成22年9月に報告書を完成させた。

〔5〕整理の方法

- （1）遺物実測図及び遺構図は2倍図版作成によるアナログ編集を主体に行った。
- （2）遺物の平面実測は写真実測を活用した。
- （3）遺構写真・遺物写真はデジタル専業班による編集作業を行った。
- （4）縄文土器、土師器・須恵器、石器、陶磁器の実測及びトレースはそれぞれの専業班で行い、遺構原因の作成及び報告書の編集作業は、萩原遺跡整理編集班で行った。



整理作業（図版作成）

第2章 遺跡の立地と環境

[1] 位置と地理的環境

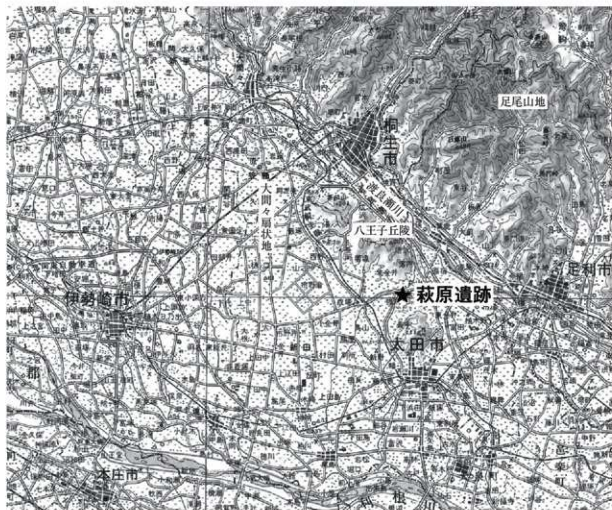
萩原遺跡は群馬県太田市緑町に所在する。遺跡は関東平野北西部に位置する金山最北端部に立地している。遺跡の北側は八王子丘陵、西側は広大な扇状地地形である大間々扇状地が広がる。東側は渡良瀬川扇状地が広がり、さらにその東側には足尾山地が聳える。金山とその北側の八王子丘陵は渡良瀬川扇状地と大間々扇状地に挟まれた平野の中に独立した低位標高の山地である。

遺跡が立地する丘陵周辺部が金山と八王子丘陵との境界となる。現在、遺跡の北側には、県道伊勢崎

足利線が走り、この県道を挟んで北側が八王子丘陵となる。遺跡の西側には大間々扇状地敷塚面、東側には渡良瀬川扇状地による沖積低地が広がる。

南西の丘陵部には峯山遺跡、さらに西側の低地部には上強戸遺跡群が隣接している。

萩原遺跡は金山に連続する舌状台地形の先端の低地部に位置する。遺跡の地形は平坦な低地で南西に丘陵地形が接している。標高は約64mである。丘陵頂部の標高は現地表面でおよそ71mである。



第3図 萩原遺跡周辺地形図（国土地理院1/20,000「宇都宮」使用）



第4図 周辺地形と主な遺跡（国土地理院1/50,000「桐生・足利」「深谷」使用）

低地と丘陵部の比高差はおよそ10mであるが、広大な沖積低地が広がるため、丘陵からは眺望の良い立地環境である。

金山から八王子丘陵周辺では、鉄生産（本遺跡の他に菅ノ沢遺跡、高太郎Ⅱ遺跡、西野原遺跡）、須恵器生産（八幡Ⅰ～Ⅴ遺跡、菅ノ沢遺跡、高太郎Ⅰ遺跡、山去窟跡群、丸山北窟遺跡）、瓦生産（萩原窟跡、吉沢窟跡、落内沢窟跡）といった生産遺跡が集中しており、古代から豊富な森林資源があったことをうかがわせる。

また、上強戸遺跡群など周辺の低地部の遺跡からは水田遺構が検出されており、萩原遺跡でも水田面が検出されている。丘陵に近い1区は、8世紀前半の箱形製鉄炉を2基検出した峰山遺跡Ⅱ区と接しており、製鉄炉の排滓場が想定される谷地形である。



金山と八王子丘陵

引用・参考文献

- 中村彦 2009『強戸遺跡群』太田市教育委員会
- 関口博幸 2009『第1節 地理的環境』『基山遺跡Ⅰ』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤泰史 2010『第2章遺跡の立地と環境』『基山遺跡Ⅱ』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

[2] 歴史的環境

本稿は古代における本遺跡周辺の最新の発掘遺跡動向を踏まえた考察が行われた「案前遺跡」2009（財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団）を引用しながら記載し、本遺跡周辺の歴史的環境の抽出に努める。

旧石器時代

本遺跡では、後世の遺構埋土中からではあるがナイフ型石器が出土している。本遺跡は早くから旧石器時代遺物の散布地として知られた雷電山遺跡のすぐ北側に当たっており、本遺跡と同じ遺跡と考えられる。雷電山遺跡は大字太田字強戸口の、金山丘陵から北東に張り出した雷電山の根上から先端部にかけての場所に立地し、槍先形尖頭器やナイフ型石器などが出土している（『太田市史 通史編 原始・古代』1995）。

『太田市史 通史編 原始・古代』（1995）には、成塚向山遺跡でも早期の土器が散布すると記すが、当事業団が北関東自動車道太田パーキングエリアの建設に先立って平成15年度から発掘調査を実施した範囲では、古墳時代前期の古墳である成塚向山1号墳の墳丘盛土中からナイフ型石器、エンドスクレイパー、削器など、石核を含め11点が出土している。これらの石器は、墳丘増築時に周辺の土を掘削した際に混入したものと考えられる。なお、この遺跡では古墳の調査が終了した後に、旧石器の確認調査を実施しているが、確認調査自体では旧石器は出土していない（『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第426集 北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 成塚向山古墳群』2008）。

八王子丘陵西麓の平地に立地する西長岡宿遺跡は、北関東自動車道の建設に伴って当事業団が平成13年度より16年度まで調査を実施しているが、包含層中から黒色安山岩製のサイドスクレイパーが出土している（平成20年度整理中）。同じく北関東自動車道の建設に伴って平成14・15年度に当事業団が発掘

調査した北西に隣接する西長岡横塚古墳群では、北側台地の斜面部分で石核やチップが出土している。

八王子丘陵と金山丘陵の接点の谷地に近い金山丘陵最北端の平尾根上に立地する強戸町～緑町～吉沢町にかけて所在する峯山遺跡では、かつてナイフ型石器、削器、抉入石器、槍先型尖頭器などが出土し（『太田市史 通史編 原始・古代』1995）、平成14年度から17年度にかけては北関東自動車道の建設に伴って当事業団が発掘調査を実施したが、浅間板鼻褐色軽石層から暗色帯上面にかけて角錐状石器やナイフ型石器など多量の旧石器が出土している（『峯山遺跡Ⅰ』2009）。また、その南側に接する強戸口峯山遺跡では後期終末の荒屋形彫刻刀が出土している（『太田市史 通史編 原始・古代』1995）。

主要地方道足利・伊勢崎線と一般県道桐生・太田線が交差する丸山交差点の西約0.5km、金山丘陵の北東に分離したの場所に位置する周囲約200m・高さ約5mほどの独立小丘陵上に所在する大字矢田掘字小丸山の小丸山西遺跡からも槍先形尖頭器やナイフ型石器が出土している（『太田市史 通史編 原始・古代』1995）。

この他、北関東自動車道の建設に伴って、平成15年7月から平成17年3月末にかけて、当事業団によって調査が行われた、東今泉町の八ヶ入遺跡からは、細石刃約370点を含む、約2000点以上の旧石器が発見されている。さらに東金井町の金井口遺跡、東長岡町の焼山遺跡からも旧石器が出土している。

縄文時代

草創期 本遺跡の南西に接する峯山遺跡は、縄文時代草創期の土器が散布していると『太田市史 通史編 原始・古代』（1995）にあるが、当事業団が平成14年度から着手した調査では、縄文時代草創期の土器は全く発見されていない。丘陵部頂上付近で早期及び前期の土器を伴う土坑跡や黒曜石製の石鏃、スクレイパー、剃片などが出土している（『峯山遺跡Ⅰ』2009）。

第2章 遺跡の立地と環境

成塚町成塚住宅団地では草創期の遺構は検出されていないが、草創期の柳葉形尖頭器が採集されている。

早期 同じく『太田市史 通史編 原始・古代』（1995）には成塚向山遺跡でも早期の土器が散布すると記されている。当事業団が北関東自動車道太田パーキングエリアの建設に先立って平成15年度から発掘調査を実施した範囲では、縄文時代の遺構は検出されていない。ただし、同遺跡から出土した旧石器同様、成塚向山1号墳墳丘盛土中に混入したとみられる早期中葉～早期後半の縄文土器片が46片出土している（『成塚向山古墳群』2008）。

東今泉鹿島遺跡は、国道122号線から北関東自動車道太田桐生インターチェンジへのアクセスルートの建設とそれに伴う国道の拡幅工事に先立つ調査であるが、早期の押型土器と鶴ヶ島台式土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない（『東今泉鹿島遺跡』2007、『向矢部遺跡』2007）。

同じく北関東自動車道の建設に伴って平成16年7月から平成17年3月末まで調査された只上町の向矢部遺跡でも遺物包含層中から縄文時代早期～後期の土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない。

このほか、西長岡町の西長岡宿遺跡からも包含層中から早期の撫糸文土器や押型土器が多数出土し、早期の屋外がらしき遺構が検出されており、北西に隣接する西長岡横塚古墳群からも早期の土器片が包含層中から出土している。さらに本遺跡の北西約2kmに位置し、八王子丘陵南麓の低地に位置する普塩町普塩遺跡でも早期から後期にかけての包含層中より土器・石器が多数出土している。

前期 本遺跡と同様、北関東自動車道の建設に伴って、平成15年2月から平成17年3月末までの間、発掘調査された、二の宮遺跡からは縄文時代前期の堅穴建物跡1棟と土坑跡4基、ピット跡3基が検出されている。また、遺物包含層からも前期の土器が検出されている。

本遺跡の南南東に近接する東今泉鹿島遺跡では、この時期の土坑跡四基が検出されており、黒浜式・

諸磯式・浮島式の土器片が出土している。

また、成塚向山古墳群では、縄文時代の遺構は検出されていない。ただし、同遺跡から出土した旧石器や縄文時代早期の土器片と同様、成塚向山1号墳墳丘盛土中に混入したとみられる前期前半の資料が90片、前期後半の縄文土器片が6片出土している（『成塚向山古墳群』2008）。

中期 本遺跡周辺でこの時期の集落が顕著に検出されたのは、本遺跡の西に隣接する大道東遺跡で、縄文時代中期後半から後半の堅穴建物跡が5棟検出されている。また、本遺跡の南側に隣接する鹿島浦遺跡では、縄文時代中期の埋設土器が1基、及び遺物包含層中から縄文時代中期の土器片が多数出土している。

東今泉鹿島遺跡では、中期末加曾利E3～E4式の土器片が包含層中から出土している。向矢部遺跡からも、遺物包含層中から縄文時代中期の土器が出土しているが、縄文時代の遺構は検出されていない。向矢部遺跡のさらに東側に接して、同じく北関東自動車道の建設に先だって平成16年5月から平成18年3月末まで発掘調査された矢部遺跡では、縄文時代中期の土坑跡が約800基検出されている。

楽前遺跡でも縄文時代中期加曾利E式期の堅穴建物跡2棟と埋設土器が8基検出されている。

後・晩期 西長岡宿遺跡では縄文時代後期の堅穴建物跡7棟、配石遺構約200基が検出されており、本遺跡周辺では縄文時代後期の遺構としてまとまった量である。配石遺構は方形のものが多く、列石、集石等、多様な形態を呈している。『太田市史 通史編 原始・古代』（1995）では、同遺跡に隣接する西長岡横塚古墳群で晩期の土器が採集されていると記されているが、当事業団が北関東自動車道の建設に先立って実施した調査範囲では晩期の遺構・遺物は発見されていない。

東今泉鹿島遺跡では、あまり多量ではないが、後期前半の称名寺式、堀之内式の土器が遺物包含層中より出土している。それらは、遺構に伴うものではない。

旧藪塚本町城北部の八王子丘陵西麓に位置する石之塔遺跡では、後・晩期の遺構が発見されている（『藪塚本町誌』1991）。石囲跡、敷石状遺構、配石状遺構、埋設土器などが検出されている。縄文時代の堀之内Ⅱ式や加曾ⅢB式期の土器が出土しているが、主体となるのは安行Ⅲa式期の土器であり、この遺跡から出土した縄文土器の大部分を占める。さらに土偶・土板・岩板・耳飾りなど特殊な遺物の出土が多い。群馬県内において数少ない縄文晩期を主体とする遺跡として著名である。

弥生時代

周辺部に展開する弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べて非常に少なく、旧藪塚本町城5箇所を数えるのみであり、いずれも旧町城東部の八王子丘陵西麓一帯である。八王子丘陵西麓の現在水田地帯になっている平地に立地する藪塚町藪塚の元屋敷遺跡からは、弥生時代中期後半の意見町式の壺型土器が出土しており、再葬墓の可能性が指摘されている。

八王子丘陵西麓すぐのところの緩傾斜地に立地する藪塚町中原の中原遺跡からも、中期後半ながら意見町式よりは若干後代の壺型土器が出土し、壺棺として使用された土器である可能性がある。

八王子丘陵西麓に接する緩傾斜地に立地する滝之入遺跡では、後期前半の樽式の壺型土器が埋土中から出土しており、町城北部の、同じく八王子丘陵西麓に接する緩傾斜地に立地する石之塔遺跡からは後期後半の土器片が出土している。

平成16年度から当事業団によって北関東自動車道及び県道国定・藪塚線並びに石田川流域調節池等の建設工事に伴って発掘調査が実施され、八王子丘陵西麓の平地の水田地帯の中に立地する藪塚町藪塚西野原遺跡では、県道国定藪塚線にかかる部分の調査と調節池にかかる部分の調査において弥生時代中期後半～後期の堅穴建物跡が計7棟検出されている（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『西野原遺跡（1）（2）』2006）。

成塚町成塚石橋遺跡では、弥生時代後期樽式土器

が出土した堅穴建物跡が7棟検出され、同型式土器出土の最東端を示している。このほか、八王子丘陵南西の支丘斜面に立地する西長岡東山古墳群では中期後半の土器が出土しており、また西長岡横塚古墳群でも後期の土器が採集されているが、両遺跡ではこの時代の遺構は検出されていない。弥生時代における本地域の全般的な動向には未だ不明な点が少ない。

北関東自動車道建設に伴って平成16年5月から平成18年3月末まで発掘調査された矢部遺跡から弥生時代中期の須和田式土器が出土しているが、弥生時代の遺構は検出されていない。

古墳時代

本遺跡周辺は東毛地域においても屈指の古墳時代の遺跡密集地帯で、古墳・集落とも枚挙に暇がない。

古墳時代の集落跡は、北関東自動車道の建設に関連して当事業団が発掘調査した緑町の二の宮遺跡、八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡、大道東遺跡、本遺跡、鹿島浦遺跡、東今泉鹿島遺跡、只上町の矢部遺跡、只上深町遺跡、楽前遺跡、峯山遺跡などから古墳時代中期から後期の集落跡が発見されている。とくに東今泉鹿島遺跡からは古墳時代前期末から中期初頭の堅穴建物跡が11棟検出されている。同様に北関東自動車道の建設に伴って当事業団が平成15年11月から平成17年3月末まで発掘調査が行われた緑町の古水条理水田遺跡では、西小丸山の小丘陵の南に接する微高地上で発見された二条の溝跡から古墳時代前期の土器片が出土している。それ以外では、古墳時代の集落が発見されているところは、すべて古墳時代後期の集落である。

昭和61（1986）年から翌62年にかけては、群馬県菅渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴い、太田市教育委員会が、楽前遺跡として28,000㎡に及ぶやや大規模な発掘調査を実施し、古墳時代後期の堅穴建物跡約100棟、奈良時代の堅穴建物跡約5棟・掘立柱建物跡13棟、平安時代の堅穴建物跡90棟、溝跡約20条、井戸跡6基などの遺構が検出され

ている（『太田市史 通史編 原始・古代』1996）。

八王子丘陵が南に向かって舌状に突出した台地上に立地する成塚町～北金井町～大鷲町にわたって所在する成塚町の向山遺跡・成塚向山古墳群では、北関東自動車道太田パーキングエリアの建設に伴って平成15・16年度に当事業団が発掘調査を実施しているが、古墳時代前期4世紀の方墳と共に前期初頭の集落跡が検出されている。

金山西北の突端部丘陵上に立地する中強戸の寺山古墳は、本遺跡の南約100mに位置する全長55mの前方後方墳で、初期古墳として著名である（『太田市史 通史編 原始・古代』1995）。また、平成15・16年度に当事業団が調査した成塚向山古墳群では、一辺約20mの4世紀古墳時代前期に築造された方墳が検出されている。『上毛古墳総覧』に掲載されていない古墳であり、平成11年度に太田市教育委員会が試掘調査を実施している。当事業団による本調査の結果、堅穴式の埋葬施設が2基検出され、銅製重圏文鏡、銅鏃、鉄鏃、鉄剣、鉄製工具、翡翠製勾玉、蛇紋岩製管玉、ガラス製小玉などが出土した（『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第426集 成塚向山古墳群 太田地域における前期古墳の調査 北関東自動車道（伊勢崎～県境地域）埋蔵文化財発掘調査報告書』2008）。

5世紀後半の大型古墳としては、鳥山町鶴山古墳が特筆できる。大岡々扇状地末端の低台地上に立地する全長102mの前方後円墳で、後円部墳頂には堅穴式石室を有し、鉄製甲冑類、石製模造品などが多数出土した（石川正之助・石島和夫「鶴山古墳出土遺物の基礎調査」1～6『群馬県立歴史博物館調査報告書』2～7 1986～91）。

一方、本遺跡からみて北西方向に当たる八王子丘陵南西から南東に至る尾根上には、ほかに41基の後期古墳から形成される北金井の北金井御嶽山古墳群や、36基の後期古墳からなる同じく北金井の大鷲古墳群、14基の後期古墳からなる上強戸古墳群など、後期古墳が群集している。

八王子丘陵南端に立地する成塚向山2号墳は、径10

約18mの6世紀の円墳で、古墳時代前期の1号墳や古墳時代前期の集落跡と同様に平成15・16年度に当事業団が発掘調査を実施した。南側に向かって舌状に突出して張り出した丘陵上の突端部分に位置し、同時期の古墳としては群を形成せずに単独で立地している点が特徴的である。前期古墳である1号墳よりもさらに南側の丘陵の端、1号墳よりもやや低い位置にあり、南側に入り口を持つ横穴式石室を有する。石室内からは鉄鏃やガラス小玉、墳丘裾からは樹立状態の形象埴輪約20点・円筒埴輪約40点からなる埴輪列が出土した。

本遺跡周辺の緑町から東今泉町にかけては菅ノ沢古墳群・市場古墳群・内並木古墳群・寺ヶ入古墳群など多くの古墳群が形成されている。

只上町の猿楽遺跡では、国道50号線バイパスの建設工事に先立って昭和49年6月から10月まで群馬県教育委員会によって約8,000㎡が発掘調査が実施され、円墳7基と1基の箱式石棺墓が検出された。6世紀後半頃の古墳とみられ、大型の円筒埴輪列が並んでいた様子が出土遺物からうかがえる。これら発掘調査された古墳群の北側にも、『上毛古墳総覧』に掲載された「毛里田村第1号墳」「毛里田村第17号墳」「毛里田村第18号墳」などが存在していた様子がうかがえるので、周辺一帯に広がる古墳群の一角を占めていた様子が判明する。

菅ノ沢遺跡群の北側に位置する丘陵の先端部には、今泉口八幡山古墳がある。この古墳は『上毛古墳総覧』に掲載された「毛里田村第12号墳」で、前方部を西に向ける全長約50mの6世紀末頃の前方後円墳と考えられている。後円部に位置すると考えられている横穴式石室は大部分が崩落しているが、長さ約2m・幅約1m・高さ約1mの安山岩製の家型石棺の存在が確認されている。東毛学習文化センター所蔵の江戸時代・元文3（1738）年の「新田金山石棺御尋問書」に記載された古墳は、この古墳である可能性が高いとされている。さらにこの古墳の南南東約50mのところに近接する菅ノ沢御嶽山古墳は、『上毛古墳総覧』に掲載される「毛里田村第11号

墳」で、径約30mの横穴式石室内を有する円墳で、従来、「新田金山石棺御尋問書」に記載がある古墳と考えられてきたが、現在では、この古墳ではなく近接する今泉口八幡山古墳とみる説が有力である。

本遺跡の西約500m、大道西遺跡のすぐ北側には、一辺約30mの方墳、大型の横穴式石室を主体部とする東毛地域唯一の終末期方墳である巖穴山古墳が所在している。「上毛古墳総覧」に掲載された「毛里田村第10号墳」である。二段築成の墳丘の高さは約6m、周匝には上幅約7m・下幅約5.5m・深さ約1mの周溝が巡るが、現状では周溝は埋没している。時期は7世紀中葉とみられる。

本遺跡の北西約1.5kmには、西側を沐浴用水、東側を矢場川に挟まれた台地上に丸山古墳群がある。「上毛古墳総覧」編纂時には全長約50mの前方後円墳・庚申塚古墳とその周辺に位置する円墳8基からなる6世紀末～7世紀初頭の古墳群である。庚申塚古墳から出土した石棺が、江戸時代・文政年間に刊行された滝沢馬琴編「兎園小説」第七集（文政8=1825年刊）に「上野国山田郡吉澤村掘地見石棺図」「石棺図別録」として報告記事が実測図入りで紹介されている。なお、この石棺については現在所在不明である。

本遺跡4区からは古墳時代中期に比定される500基以上の土坑群が検出された。土坑は粘土採掘坑の可能性があり、注目される。

飛鳥・奈良・平安時代

古墳群が存在する菅ノ沢遺跡群には、古墳時代末から飛鳥・奈良・平安時代の須恵器窯跡群と製鉄遺跡が発見されている。金山には、古墳時代後期から平安時代に至る須恵器窯跡が多数存在しており、この地域における一大窯業生産地帯であったことが知られているが、菅ノ沢須恵器窯跡は、金山窯跡群の中における現時点で調査された窯跡の中でも中核的な窯跡である。金山の北東端部には、緑町の強戸口須恵器窯跡群と諏訪ヶ入須恵器窯跡が、また金山の東端部には、東今泉町の金井口埴輪窯跡・母衣埴輪

窯跡・亀山須恵器窯跡などの遺跡がある。埴輪窯・須恵器窯跡は金山の北側に対峙する八王子丘陵からも萩原窯跡などの多くの遺跡発見されており、一帯が古墳時代後期から平安時代にかけての一大窯業地帯であったことが判明している。

また、従来から製鉄遺跡として知られていた菅ノ沢遺跡、高太郎Ⅰ、Ⅱ遺跡に加えて近年の北関東自動車道の建設やそれに並行して建設された調整池の工事に伴い調査された峯山遺跡や西野原遺跡で立て続けに大規模な製鉄遺跡が発見されたことにより、八王子丘陵・金山一帯は埴輪・須恵器窯の集中地域に加えて、7世紀後半からの一大製鉄地域であることが明らかになってきた（『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第485集 峯山遺跡 - 飛鳥時代から奈良時代の製鉄遺跡 - 北関東自動車道（伊勢崎～県境地域）埋蔵文化財発掘調査報告書』2010、『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第489集 西野原遺跡』（5）（7）石田川調整池等整備事業（D池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2010）。こうした、古墳時代後・終末期から平安時代にかけての生産遺跡の集中は、八王子丘陵・金山と、その間を北西から南東方向に流れるいくつもの渡良瀬川支流の小河川によって形成された地形、それに両丘陵から足尾山地にかけての豊富な木材資源の存在などが要因の一つとして挙げられる。

古代山田郡と新田郡 古代の地方行政組織は周知の通り、7世紀後半、古代国家が成立し地方支配体制が確立すると、地方は各段階に応じて国・評（のち郡）・五十戸（のち里）という地方行政組織に編成された。律令制下の山田評、後の山田郡は、現在の桐生市・みどり市の山間部を含む渡良瀬川沿いの広大な面積を擁するが、現在の太田市域にかかる郡南部の平野部は、八王子・金山の両丘陵によって、東側の古代の新田郡の領域に近接している。本遺跡の地は、山田郡及び新田郡の境界に位置している。

新田郡の郡名「新田」は、『万葉集』の写本では「爾比多」、平安時代の「延喜式」や「和名抄」で

は「エ布多」と読みが振られており、「ニヒタ」とか「ニフタ」などと発音されていたと考えられる。周辺では「入田」と記載した黒書土器が多く出土しており、「ニフタ」と発音されていたことを裏付ける。

『和名抄』では、郡内に新田・津野・石西・祝人・淡甘・駅家の6郷があったとされている。郡名を負う新田郷と駅家郷は郡家や駅家が設置された官衙地区の周辺である郡域中央東部一帯、津野郷は旧尾島町粕川周辺、石西郷は太田市街地南部の岩瀬川町周辺、祝人郷は八王子丘陵西麓の平坦地一帯などがそれぞれ有力な比定地と考えられており、淡甘郷の位置だけが諸説あって定見をみていない。また、『東大寺要録』には、天平19(747)年に聖武天皇の勅命によって東大寺に1000戸の食封が輸入されたことを示す記事があり、その中に上野国新田郡内の50戸が含まれている。古代の新田郡内には、東大寺の維持管理資金を調達するために指定された封戸が存在していたと考えられる。

古代新田郡家 律令制下の新田郡の役所である郡家は、太田市天良町で発掘調査された天良七堂遺跡がそれに当たると考えられている。天良七堂遺跡ではこれまで11回の発掘調査が行われている。昭和30年に行われた発掘調査で、南北16m・東西7m、6間×3間の南北棟総柱大型礎石建物跡が検出され、付近から炭化米が多数出土した。この大型総柱礎石建物跡は、新田郡家正倉院を形成する倉庫群のうちの一棟と考えられ、この遺跡が新田郡家の遺跡である可能性が指摘された。その後、計6棟の総柱の礎石建物などが検出され、周囲に大量の炭化米が出土していることから天良七堂遺跡が新田郡衙の正倉院であったことが確認されてきた。

平成19年5月から12月の8ヶ月間、天良七堂遺跡ではこれまでにない大規模な確認調査が太田市教育委員会によって行われた。調査では東西南北を取り囲むように建てられた長大な掘立柱建物柱建物や郡庁院の遺構と考えられる礎石建物が検出され、天良七堂遺跡が新田郡家の遺跡であることが事実となった。郡庁の規模は通常一辺50mほどの大きさで方形

を呈するものがこれまでの発掘例から一般的であると考えられていたが、新田郡衙の規模はほぼ倍の規模を有し、現在確認されている郡庁の中では最大の規模である。

東山道駅路と新田駅家・駅家郷 『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によれば、新田郡内には東山道駅路が東西に貫通し、上野・下野两国から武蔵国への分岐点となった陸上交通上の要衝であり、官人の公務通行を支援すべく設けられた施設である新田駅家が置かれていた。古代において、官衙はそれぞれが比較的近辺にまとまって配置されていた様子が判明しているため、新田駅家も新田郡家からさほど遠くない場所に設置されていたものとするのが自然である。新田駅家の所在地としては、太田市新田村田から寺井にかけての場所に想定する意見が強い(『新田町誌』通史編1 1990)。

周知のように、宝龜2(771)年、武蔵国が東海道に所管換えとなり、新田駅家から南へと分岐して武蔵国府(現・東京都府中市)に至っていた東山道駅路武蔵路は駅路としての扱いは受けなくなった(『続日本紀』宝龜2年10月己卯条)。これによって、制度的には、新田駅家は駅路分岐点としての重要拠点から駅路線上の一般的な駅家と同じになるわけで、官衙としての性格に大きな変更が生じたように感じられるが、新田駅家と武蔵国府とを結ぶ道路自体が実際に廃止されたわけではない。東山道駅路武蔵路が、道路そのものの若干の位置の変更はあるにせよ、ルートとして中世の鎌倉街道にほぼ踏襲されていることからみても、そのことは明白である。東山道駅路武蔵路は、あくまでも駅路でなくなったというだけのことで、上野・下野两国間にわたる東山道駅路と武蔵国府・東海道駅路とを結ぶ連絡的な官道として機能し続けたものと考えられる。それによって、駅路分岐点ではなくなったものの、東山道駅路と東海道駅路とを連絡する官道との分岐点として、古代陸上交通上の要衝としての重要性は、決して変わるものではなかったと見るべきであろう。

新田郡家と考えられている天良町の天良七堂遺跡の西南西約1kmの地点、新田村田から新田小金井にかけて所在する入谷遺跡では、約180mの範囲を溝によって区画した中に、5×3間の南北棟瓦葺礎石建物跡が2棟並列した施設の跡が発見されている。遺構は7世紀後半頃に造営され、8世紀中葉頃まで存続していたと考えられている。東北東約1kmの場所に所在する天良七堂遺跡が新田郡家と考えられるため、この入谷遺跡で検出された瓦葺の官衙風の施設を新田駅家とみる考え方が強い（『新田町誌』通史編1 1990、『太田市史』通史編 原始・古代1996）。ただ、現在までのところ、方約180mの区画の中に、5×3間の南北棟瓦葺総柱礎石建物跡が2棟しか検出されていないので、兵庫県などで検出されている山陽道駅路上の駅家遺跡の様相とはたいぶ異なっており、その確証に欠ける。

旧新田町内では、牛堀・矢ノ原ルートと称される高崎市南部の平地から玉村町を経て旧境町にかけて東西に貫く幅約12mの古代道路遺構に続く道路遺構と、その南側数百メートルの位置を、牛堀・矢ノ原ルートに並行して東西に貫く幅約10mの下新田ルートの二系統の駅路遺構が検出されている。また、北関東自動車道の建設に関わる調査では、さらに東に寄った金山の東麓地域である太田市東今泉町の地域で、約1kmにわたって幅約12mの古代道路遺構が検出され、これは牛堀・矢ノ原ルートにつながる道路遺構であると考えられている。

高崎市南部から玉村町、旧境町、旧新田町南部にかけて検出されている牛堀・矢ノ原ルートと、その延長上の道路と考えられる太田市東今泉町付近で検出された幅12mの古代道路遺構は、いずれも8世紀中葉から後半にかけて廃絶していることが調査の結果明らかになっており、牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートいずれも「延喜式」兵部省諸国駅伝馬条に記載のある段階の東山道駅路とは異なる段階の駅路の跡とみられ、むしろ「延喜式」段階における東山道駅路は、牛堀・矢ノ原ルートや下新田ルートよりはかなり北側に位置する榛名山東麓から赤城山南麓

の台地上を通過していたものと考えられている。平安時代の東山道駅路は、旧藪塚本町域内を通過していたと想定できるが、旧藪塚本町域や太田市北部地域では、現在までのところ、古代の道路遺構が検出された遺跡はない。

寺井庵寺 本遺跡の西北西約300mの位置にあたる寺井庵寺は、石橋町から天良町にかけて太田市立強戸小学校と同中学校を中心とする一帯に所在したものと考えられ、7世紀後半から10世紀に及ぶ瓦が多数出土している。しかしながら建物基壇や礎石が地表に露出しているわけではなく、また昭和60年代に市立強戸小学校と同中学校との中間において太田市教育委員会が発掘調査を実施しているが、寺院に関わる遺構は全く検出されなかった。伽藍配置等は現段階では全く不明である。

創建年代が7世紀後半に遡ることや、8世紀段階には上野園分寺と同じ瓦が使用されていたとみられること、あるいは郡家と考えられる天良七堂遺跡との位置関係などからみて、新田郡領となった在地豪族による造営であり、新田郡家と密接な関係を有していた寺院と考えられる。

なお、蛇川の河川改修に伴って当事業団が平成4・5年度に発掘調査を実施した菅塩町の菅塩西両台遺跡においても、N-35°-Eの方向に一直線に伸びる上幅約7m・深さ約1.8mの大溝の跡が検出されており、土層断面に流水の痕跡が確認できないことから、寺井庵寺の寺地を画する溝跡という見方が調査担当者によって示されている（『財』群馬県埋蔵文化財調査事業団編『西長岡南遺跡・菅塩西両台遺跡・成塚石橋遺跡Ⅲ』1996）。

古代の山田郡 『日本後紀』延暦15（796）年8月16日条に、「上野国山田郡賀茂神・美和神」とあるのが初見、この両社は「延喜式」神名帳にも掲載されている。「和名抄」古活字本には、郡名の山田には「夜末太」の訓が付されている。「和名抄」古活字本によれば、管下の郷は、山田・大野（於保乃）・園田（曾乃）・真張（万波利）の4郷である。高山寺本では、これに小山・三島の2郷が加わり6

郷と記載されているが、これら2郷は下野国都賀郡の2郷が書写の過程で錯簡し紛れ込んだのであろう。『続日本後紀』承和2(835)年7月21日条には上野国山田郡の空閑地80町を道康親王(後の文徳天皇)に与えた記事がみえる。

山田郡各郷のうち、山田・大野の2郷については桐生市・みどり市に比定されており、園田・真張の2郷が太田市域に比定されている。吉田東伍『大日本地名辞書』で園田郷を「今相生村、広沢村、毛里田村にあたる」、また真張郷を「今菰川村、休泊村、矢場村等にあたるか」と、また村岡良弼『日本地理志料』では、これらの二郷の比定に若干異動はあるものの、毛里田地区については律令制下の園田郷の故地の一部とみることで一致している。

近年の『太田市史 通史編 原始・古代』では、現在の桐生市域にあたる広沢・相生を大野郷に比定し、園田郷の故地を太田市北部の吉沢町から矢田堀・緑町を経て東今泉町、さらにその南東の東金井町・東長岡町・安良岡町・台之郷・石原町・下小林町に至る北西～南東に及ぶ細長い地域に比定している。

いずれにしても、本遺跡周辺が律令制下、新田郡と山田郡の境に当たっていることは、従来の研究史からみても、ほぼ確実と言えよう。

東山道駅路 なお、以前から、山田郡南部には東山道駅路が東西に通ると予測されていたが、北関東自動車道の建設に先立つ当事業団による調査によって、緑町の八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡から大道東遺跡を経て鹿島浦遺跡に至る総計約1kmに及ぶ範囲で幅約12mに及ぶ東山道駅路の遺構が検出されている。特に今回、大道東遺跡の調査において、7世紀代の竪穴建物跡と道路遺構との重複関係を検出でき、重複する遺構の新旧関係から、ある程度明確な道路の造営と廃絶の時期を特定できる成果が得られたことは、今後の全国的な意味における古代駅路研究に重要な資料を提供するものである。

緑町から東今泉町にかけて約1kmにわたって検出された東山道駅路跡は、金山の西側で検出されていた東山道駅路の二つのルートのうち、牛堀・矢ノ原

ルートに接続するものと考えられる。並行して複数のルートが想定できる上野国平野部における東山道駅路の展開については、その要因が各ルートの時期差か否かという問題を含めて、その解明は今後の課題であろう。

奈良・平安時代の集落遺跡 本遺跡の周辺では、同じく北関東自動車道の建設に伴って当事業団が発掘調査を実施した緑町の二の宮遺跡・八ヶ入遺跡、東今泉町の大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡、北関東自動車道へのアクセス道の建設に伴って同様に当事業団によって発掘調査された東今泉町の東今泉鹿島遺跡および向矢部遺跡において奈良・平安時代を主体とする集落遺跡が検出されている。先述したように、集落の間を東山道駅路が貫いており、八ヶ入遺跡から大道西遺跡・大道東遺跡を経て鹿島浦遺跡にかけての総延長約1kmにわたって道路跡が検出されている。

周辺で検出された奈良・平安時代の集落は、いずれも竪穴建物を主体とするものである。当該期の竪穴建物跡は、北関東自動車道及びそのアクセス道の建設に伴って当事業団が調査した範囲の中だけでも、二の宮遺跡で51棟、八ヶ入遺跡で115棟、大道西遺跡で17棟、大道東遺跡で305棟、鹿島浦遺跡で129棟、東今泉鹿島遺跡で92棟と、膨大な量が検出されている。また、先述したように、本遺跡でも昭和62・63年度に県営渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴って太田市教育委員会が発掘調査した際にも、今回の北関東自動車道建設予定地範囲の約500m北側で、奈良・平安時代の竪穴建物跡だけで95棟、古墳時代後期の竪穴建物跡を含めると合計で195棟が検出されている。このように、本遺跡周辺は渡良瀬川支流によって形作られた西北～南東方向に樹枝状の低地を縫って、台地上に大集落が連続と形成されていたことが判明する。

小丸山遺跡 奈良・平安時代の遺跡でもう一つ忘れてはならないのが、本遺跡の西北西約1.5km、古水桑里水田遺跡のすぐ北側に位置する分離独立丘・小丸山である。この小丸山からは、ほぼ完全な形に復元

することが可能な瓦塔が、破片総数にして126片に割れて出土している。丘陵上には縄文土器や奈良・平安時代の土器が散布するが、昭和33年、考古学者の石村喜英氏が発見者から聞き取り調査を行い、その成果を公表している。出土した瓦塔は、軸部の棒と斗俵を一体とし、屋蓋部・相輪部とは別に焼成した積み重ね式の五重塔であり、復元された総高は14.4mになる。相伴して出土した火葬骨が入った骨蔵器との関係が想定できるところであるが、当時の記録に遺る骨蔵器そのものの年代観との齟齬も指摘されており、瓦塔の用途・機能は明確ではない。

窯業遺跡 古墳時代6世紀後半頃から操業される菅ノ沢窯跡群は、古墳時代後期から須恵器生産が専門的形態を取って発達していた。現在までに明らかになっている須恵器生産が行われた窯跡は、金山南東麓から東麓、八王子丘陵南東麓地域に分布し、瓦窯は八王子丘陵南東麓に集中する傾向がある。奈良時代から平安時代にかけての瓦窯は、石橋町の寺井庵寺や新田田村の入谷遺跡から出土している瓦を生産した萩原窯跡や国分寺瓦を生産する落内窯跡などが存在する。7世紀末から8世紀代を操業の主体とする窯跡には、金山の北東部に張り出した支丘の突端に近い南斜面上に立地する東今泉・八幡窯跡がある。

古墳時代後期以来、八王子丘陵南西麓から金山北麓一帯にかけて、広く須恵器・瓦生産が行われていた地域社会における重要な生産地域であることが伺える。

そうした生産になっていたのは、古墳時代には地元の豪族層で、おそらくは7世紀末には大道西遺跡の北側に隣接する当該地域唯一の終末期古墳である巖穴山古墳を造営したような豪族の管理下に操業されたものと考えられている。その後律令制の成立によって、国評制、のちに国郡制が施行され、郡の主導の元に窯業が行われたものと考えられている。

製鉄遺跡 1968年には太田市菅ノ沢遺跡で壱形炉3基が発掘された。県内では前橋市(旧 勢多郡宮城村)片並木遺跡に続く2例目の製鉄遺跡の調査であ

る。遺跡は太田市毛里田字今泉口に所在し、古墳時代の須恵器窯跡の学術調査として駒澤大学考古学教室により発掘調査が行われた。当初、須恵器窯とは違う特殊な遺構とされ、製鉄炉とは認定されなかったが、その後(1969年)の第三次調査の際、発掘された残存状況のよい2号製鉄炉の検出によって、それが奈良時代末から平安時代の製鉄炉であることが確認された。この菅ノ沢製鉄遺跡で行われた精密な製鉄遺跡の調査は、我が国の製鉄遺跡の考古学的研究の端緒といえる程、重要なものとなり、壱形炉に対する本格的な研究の第一歩を刻む学史的調査となった。

近年本遺跡の周辺では、2002年に調査された本遺跡の3基の箱形炉、同年太田市西野原遺跡4基の箱形炉など多数の製鉄遺跡が発見された(「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第485集 峯山遺跡 - 飛鳥時代から奈良時代の製鉄遺跡 - 北関東自動車道(伊勢崎~県境地域)埋蔵文化財発掘調査報告書」2010、「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第489集 西野原遺跡(5)(7)石田川調整池等整備事業(D池)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2010)。

丘陵には燃料として好適な木材が豊富で、須恵器や瓦といった窯業が盛んに行われており、製鉄に適した環境であったといえるかもしれない。群馬県地域での箱形炉の検出は太田市の峯山遺跡、西野原遺跡、赤城南麓の松原田遺跡、三ヶ尻遺跡の4遺跡(10基)のみで、その他の約45遺跡で確認できる製鉄炉は全て壱形炉である。年代の面から見ると、箱形炉の時期は7世紀中頃から8世紀前半に限られ、壱形炉は8世紀中頃から11世紀代までである。県内製鉄遺跡は、赤城南麓地域、榛名山南麓地域、太田、桐生周辺地域に集中するが、その他の地域でも点々と見られる。本遺跡に隣接する峯山遺跡で検出されたような平面形が鉄アレイ型を呈する細長い箱形炉は、北は東北南部から南は九州北部にかけて縦々と検出されてきている。この炉は6世紀後半に中国山地で行われていた箱形炉が琵琶湖沿岸地域

に伝えられ、開発・改良が行われて長大化し、7世紀後半以降各地に伝播したと考えられている。この時期に国家標準型とも捉えられるような製鉄炉で、大量の鉄素材が必要な地域で鉄生産が行われたとする意見は近年の製鉄遺跡研究の到達点ともいえる重要な指摘である。製鉄炉が各地に広まった7世紀後半は、中国・朝鮮半島諸国との間での軍事的緊張の高まりに加えて、東日本では律令国家の東北進出に伴う蝦夷征討事業などが行われた時期で、鉄生産は律令国家にとって最も重要視された事業のうちの一つであったと考えられる。

中世以降

新田荘と中世豪族新田氏の成立と展開 12世紀、上野国の平野部には天仁元（1108）年の浅間山大噴火による降灰によって壊滅した耕地を復興する過程で、各地で荘園や御厨が成立していった。仁安3（1168）年の「新田義重諱状」に示されている新田荘もそれらの一つとして形成された荘園である。

新田荘は、源義家（長暦3（1039）年～嘉承元（1106）年）の三男（異説あり）とされる従五位下前加賀介 源義国（寛治5（1091）年?～久寿2（1155）年）が、久安6（1150）年に右近衛大将藤原実能と京の路上でトラブルを起こし、恨んだ義国勢が実能邸を焼き払ったことによって勲勤を被り、坂東の下野国足利荘の別業に引退を余儀なくされた。義国は坂東に土着し、その長男である従五位下大炊助 源義重（?～建仁2（1202）年）は渡良瀬川を越えて上野国新田郡に入部して開発、久寿元（1154）年頃には新田郡南西部の「こかんの郷々」とよばれた19郷からなる荘園を成立させ、これを権門貴族である左衛門督（後に太政大臣）藤原忠雅（大治4（1129）年～建久4（1193）年）（領家）と金剛心院（本所）とに寄進した。義重は、保元2（1157）年、下司職に任命され、新田荘を立荘、新田庄司を称した。

新田義重の嫡男・義兼は、元久2（1205）年8月、鎌倉幕府3代将軍源実朝から新田荘12ヶ郷の地

頭職に任じられた。これが鎌倉幕府による新田荘地頭職の初任である。新田義兼は従兄弟の子に当たる高山（足利）義純を女婿に迎え、その間に生まれた高山（足利）時兼は、建保3（1215）年3月、外祖父に当たる新田義兼の後室である新田尼から新田本宗家の所領であった新田荘田島郷など12ヶ郷を譲られ、将軍源実朝から地頭職に任じられ（「正文文書」）、さらに嘉祿2（1226）年には岩松郷（現：太田市岩松町一帯）の地頭職をも併せ、岩松郷に居住。以後、「岩松」を苗字に名乗った。岩松時兼は、新田尼から新田本宗家領の一部を相続したことによって、父系から見れば足利家一門でありながらも、新田家一門の有力庶子家として新田荘内に勢力を振るうことになった。

岩松氏と由良氏による支配 南北朝動乱の鎮定後、この地域を支配したのは鳥山氏と岩松氏であることが、15世紀中葉の享徳の乱の最中に岩松家当主持国によって作成されたと考えられる所領注文「新田荘内岩松方庶子方寺領等相分注文」（正文文書）に見える。同史料によれば、堰塚郷の半分を岩松家惣領の岩松持国が、半分を金山西南部に本拠を有する岩松庶子家の鳥山式部大輔が領有していたことが判明するが、この鳥山氏については不明な点が多い。

応永23（1416）年、前関東管領上杉禪秀氏憲が鎌倉公方足利持氏に対して起こした上杉禪秀の乱に際して新田党を糾合して上杉禪秀方に与した岩松家当主の満純は、岩松直国女を母に、新田義貞三男義宗を父として生まれた人物であり、新田本宗家の嫡宗である満純が岩松家を嗣いだことによって、岩松家は滅亡した新田本宗家に代わる新田家一門の惣領格として勢力を振るうことになった。

岩松満純の子・長純は、永享の乱（永享9、1437）が勃発すると将軍足利義教に召し出されて鎌倉公方討伐軍の将に任じられ、その戦功により岩松家の家督を回復して岩松家純と名乗り、享徳の乱（享徳3、1454）が起きると対立する一門の岩松持国・成純父子を誅殺して岩松家の内紛を平定し、文明元年（1469）には五十余年振りに本領である上野

国新田郡を回復し、家臣の横瀬國繁（岩松高純の弟・新田貞氏末裔）をして金山に金山城築城させ居城となしたが、岩松家中では家臣である横瀬氏が次第に力を振るようになっていった。

享禄年間（1528～32）、家臣横瀬氏の専横を排除しようとした岩松家当主の高純・昌純父子は逆に家臣横瀬氏に攻められて自害。岩松昌純に代わって岩松家の家督を嗣いだ昌純の弟・氏純も実権を横瀬氏に握られたままで、ついには自害させられるに至った。氏純の子の守純は、金山城を追われて山田郡妻（現：桐生市妻）に隠棲し、岩松家は家臣横瀬氏の下克上によって没落した。

金山城から主君・岩松守純を追放して、自ら金山城主となった横瀬成繁は、苗字として由良の姓を名乗り、戦国大名由良氏による当地支配がその後、しばらく続く。八王子丘陵には由良氏により、広沢茶白山の南約400mに位置する標高270mの山頂付近に八王子城が、また、湯之入の集落から初山峠に向かう道の鞍部北側の丘頂を削平して雷電山砦がそれぞれ築城されている。

本道跡周辺において中世以降の遺構を検出した遺跡

本道跡周辺では、北関東自動車道の建設に先立って当事業団が調査した範囲では、東今泉町の大道西遺跡において、中世の掘立柱建物跡の柱穴が多数検出されている以外に、中近世の明確な遺構はいずれの遺跡においても検出されていない。

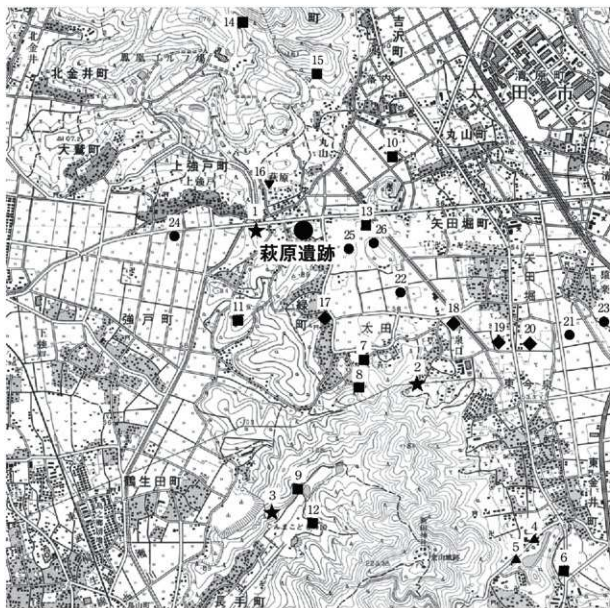
矢田堀の集落の中に矢田堀城跡が、また独立丘陵丸山には丸山砦が位置している。矢田堀城は、築城年代や築城者については定かでないが、戦国時代には金山城の出城として由良氏一門の泉基因・基繁が居た。泉氏の詳細は不明であるが、由良氏と共に行動していたと考えられる。一方、丸山砦は、天正12年の金山城籠城戦には、吉沢・古郡（古水）の地衆がここを守ったとされる。いずれも金山城と関連する城館である。

引用文献

高島英之 2009『楽前道跡（1）』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

参考文献

- 穴澤義功 1984『製鉄道跡からみた鉄生産の展開』『季刊 考古学』8号、雄山閣
- 穴澤義功 1991『関東地方』『日本の鉄生産』六興出版
- 井上唯雄・大江正行ほか 1975『金井製鉄道跡』渋川市教育委員会
- 井上唯雄 1991『製鉄業』『群馬県史通史編2』群馬県史編さん委員会
- 大澤正巳 1975『製鉄原料（砂鉄、木炭、粘土）と鉄滓の科学的分析および結果の考察』『金井製鉄道跡』渋川市教育委員会
- 小島純一 1997『古代の製鉄の村－赤城南麓に製鉄道跡を追う－』『ぐんま 地域文化』8号（財）群馬地域文化振興会
- 笹澤泰史 2006『古代上野国群馬郡有馬郷の鉄生産』『研究紀要24』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤泰史 2007『群馬県における古代製鉄道跡の出現と展開』『研究紀要25』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤泰史 2010『釜山道跡Ⅱ』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 土佐雅彦 1981『日本古代製鉄道跡に関する研究序況－とくに印形を中心に－』『たたら研究会』第24号 たたら研究会
- 前沢和之 1986『古代上野国の動向とその基盤－東国経営の回顧地帯－』『内陸の生活と文化』地方史研究協議会編、雄山閣
- 村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』シリーズ日本史のなかの考古学 青木書店
- 村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店



No.	遺跡名	概要
1	塚山	飛鳥～奈良時代製鉄・鍛冶工房跡
2	菅ノ沢	古墳時代後須恵器窯、平安時代製鉄炉跡
3	高太郎Ⅱ	平安時代製鉄炉跡
4	金井口埴輪窯	古墳時代後埴輪窯跡
5	母衣埴輪窯	古墳時代後埴輪窯跡
6	亀山窯	古墳時代後須恵器窯跡
7	強戸口須恵器窯	飛鳥～奈良時代須恵器窯跡
8	諏訪ヶ原須恵器窯	飛鳥～奈良時代須恵器窯跡
9	高太郎Ⅰ	飛鳥～奈良時代須恵器窯跡
10	丸山北窯跡	奈良時代須恵器窯跡
11	強戸口塚山	奈良時代炭窯か
12	山ノ宮跡群	奈良時代須恵器窯跡
13	丸山腰巻	平安時代須恵器窯

No.	遺跡名	概要
14	落内窯跡	須恵器窯跡
15	吉沢窯跡群	須恵器窯跡
16	萩原窯跡	飛鳥～奈良時代瓦窯跡
17	古水都築跡	飛鳥～平安時代都築推定地
18	ハッ入	飛鳥～奈良時代官道路
19	大道西	飛鳥～平安時代集落跡・官道路跡
20	大道東	古墳時代後～平安時代集落跡・官道路
21	東前	古墳時代後～平安時代集落跡
22	二の宮	古墳時代後～平安時代集落跡
23	向矢部	奈良～平安時代集落跡
24	上強戸遺跡群	古墳～平安時代水田跡
25	古多桑里水田	奈良～平安時代集落・水田跡
26	小丸山	平安時代瓦葺出土地

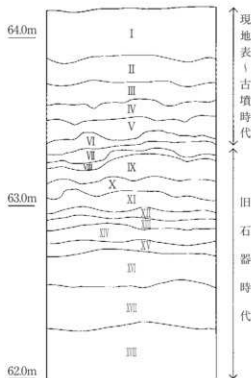
★製鉄炉、▲埴輪窯、■須恵器窯、▼丸窯、◆官街・官道、●その他

第5図 周辺の主要な遺跡

第3章 基本層序

発掘調査で確認された遺構の時期を検討する上で、それがどのような面で確認されたかが重要な手がかりとなる。ここでは本文中の多数の断面図相互間の関連を理解しやすくするために、以下の18層に土層を分ける。このうち発掘調査における文化層はⅠ～Ⅵ層である。Ⅶ～Ⅺ層は旧石器時代の試掘調査時に分層された層位である。低地部では旧石器時代の良好なテフラを検出しており、テフラに挟まれた旧石器時代の層位中に含まれている花粉分析を行っている。花粉分析の結果と考古学的な所見は第5章に掲載している。

以下の基本土層の概念図は調査時に使用した4区1号トレンチから作成した。遺構確認面はⅠ～Ⅵ層である。5、7、11区ではⅡ～Ⅲ層中で水田面を検出しており、各区の土層概念図は次頁に掲載している。



第6図 萩原遺跡基本土層図

基本土層

- Ⅰ層：黒褐色土層 (10YR3/1) 現表土。
- Ⅱ層：褐色土層 (10YR4/4) As-Bを多く含む。
- Ⅲ層：褐色土層 (10YR4/4)
- Ⅳ層：黒褐色土層 (10YR3/1) 径2～3mmの白色軽石 (Hr-FA) を少量含む。
- Ⅴ層：褐色粘土層 (10YR3/1) ローム粒、黒色土を含む。粘性が高い。
- Ⅵ層：青灰色粘土層 (10BG6/1) 青灰色を主体に灰色の粘土層を斑状に含む。4区土坑群 (古墳時代) の掘り込み面。
- Ⅶ層：灰黄褐色シルト質層 (10Y5/1) 灰黄褐色のシルト質土が主体。Ⅵ層の青褐色粘土層を少量含む。
- Ⅷ層：灰色粘土層 (10Y6/1) 1～2cmの薄い厚さの粘土層の堆積。
- Ⅸ層：灰色シルト質層 (10Y5/1) シルト質土が主体。一部にⅧ層の粘土をブロック状に含む。
- Ⅹ層：暗灰色粘土層 (N3/) 不純物の混入が少ない。
- Ⅺ層：浅黄色火山灰層 (7.5Y7/3) As-BPの純層。直径1mm大の粗い粒子。
- Ⅻ層：灰色粘土層 (10Y6/1)
- Ⅼ層：オリブ黄色シルト層 (7.5Y6/3) As-BPがシルト化したものか。
- Ⅽ層：灰白色火山灰層 (10Y8/2) ATの純層。微細なガラス粒子。
- Ⅾ層：青灰色粘土層 (10BG6/1)
- Ⅿ層：暗灰色粘土層 (N3/)
- ⅰ層：暗緑灰色粘土層 (5G4/1) 上部に白色火山灰子を少量含む。
- ⅱ層：暗褐色粘土層 (10YR3/3) 上部にHr-HAを含む。
- ※Ⅰ層～Ⅵ層は、近世～古墳時代、Ⅶ層～Ⅺ層は旧石器時代。

各区の土層概念図

1区、3～7区、11区の土層概念図を各区の調査断面図から作成した。

1区は谷地で、As-Bの純層を検出した。1区は峯山遺跡Ⅱ区と接しており、本遺跡1区は8世紀前半に比定される箱形製鉄炉の排滓場が想定されていた。調査範囲が狭く、確認面を掘り下げることが出来なかったが、大量の鉄滓が堆積していると推測される。

3区は金山丘陵の北端部に位置し、丘陵から低地部に移行する本遺跡では最も高位の調査区である。遺構確認面はほとんど削平されており、現地表を掘削すると、基本土層Ⅹ層のATの純層が確認された。旧石器時代以降の文化面はほとんどは削平されていると考えられるが、掘削深度の深い溝が6条と、4基の土坑が検出された。旧石器時代の調査では遺物が出土しなかった。

4区金山の北端と接している低地部であるが、丘陵地からの台地との縁辺に位置することから、本遺跡の中ではやや標高が高い。本区では中近世、奈良・平安時代、古墳時代全ての面が確認できた。本調査区では、近世の溝、奈良・平安時代の井戸、古墳時代の土坑群が500基以上検出されている。

5区は4区と接した低地部である。基本土層Ⅹ層であるAT層が、3区→4区→5区に向かって約60cmずつ低くなるのが、本調査区が他の調査区より、より低地に位置することを示している。本調査区ではAs-B混土下の水田面を8区画確認した。

6区は5区よりさらに東の低地部であるが、基本土層Ⅹ層であるAT層は5区とほとんど同じ標高である62.4mで検出された。6区は現地表の耕作面が5区で水田面が検出された標高約63mより深く及んでおり、遺構が確認されなかったが、5区から続く平安時代の水田面があったと想定される。6区はトレンチ調査により遺構が確認されなかったために、本調査は行われなかった。

7区はトレンチ調査により、As-B混土の及び純層、水田耕作面と推測された黒色粘質土層が確認さ

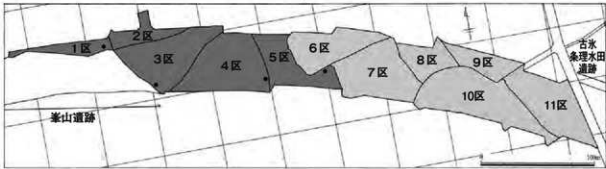
れたが、水田遺構は検出されなかった。本調査区も6区と同様に現地表の耕作面が深く及んでいる部分が多く、遺構は確認されなかったが、立地条件などから5区から続く平安時代の水田面が広がっていた可能性が高い。

9区では基本土層Ⅱ層の下層で水田面が検出された。残存状況は良好でないが、僅かな畦の痕跡などが検出されている。

11区はトレンチ調査により、As-B混土と水田耕作面と推測された黒色粘質土層が確認され、遺構確認調査を行った。本調査では7区と同様に現地表の耕作面が深く及んでいる部分が多いが、5区から続く平安時代の水田面が広がっていることが確認された。その他にも近世の溝が27条、堅穴状遺構2基などが検出された。旧石器時代の調査では遺物は出土しなかった。また、11区では水田遺構及び耕作土と推定される土層が検出されており、これらを検証する目的で土壌を部分的に採取し、植物珪酸体の同定及び定性的・定量的分析を行った。藤原宏志1984「プラント・オパール分析とその応用」『考古学ジャーナル227』によると、水田面の遺構では、土壌1^①に対し、プラントオパールが5,000個以上検出される結果が得られているという。本調査区で検出された水田面からは、その多くが10,000個以上の数値を示しており、理化学的な科学分析の方面からも水田遺構と確定することが出来た。

ここで示した各区の基本土層は、21～22頁に示した。本遺跡では、特に後期旧石器時代の浅間板鼻褐色軽石群、始良丹沢火山灰、春名箱田火山灰に挟まれた粘土層を検出した。火山灰を含む旧石器時代の粘土層の検出は稀で、土層に含まれる火山灰及び花粉を行うことにより、後期旧石器時代の環境復元を行うことができた。自然科学的からの考察は第5章自然科学分析「萩原遺跡の土層とテフラ」、「萩原遺跡における花粉分析」で示し、第6章「自然科学分析の成果」にその成果をまとめた。

萩原遺跡1区、3～5区基本土層



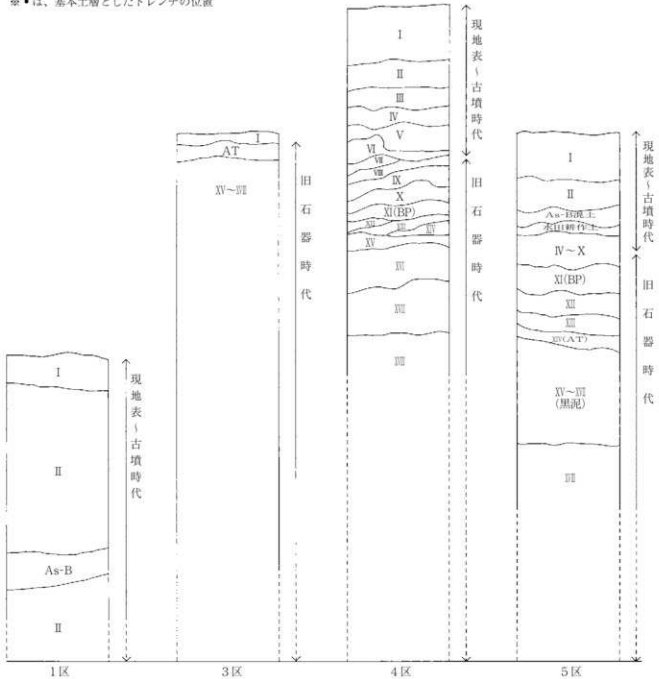
※・は、基本土層としたトレンチの位置

64.0m

63.0m

62.0m

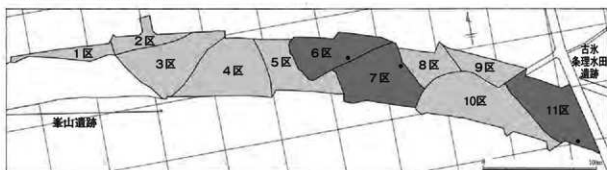
61.0m



第7図 萩原遺跡1区、3～5区基本土層図

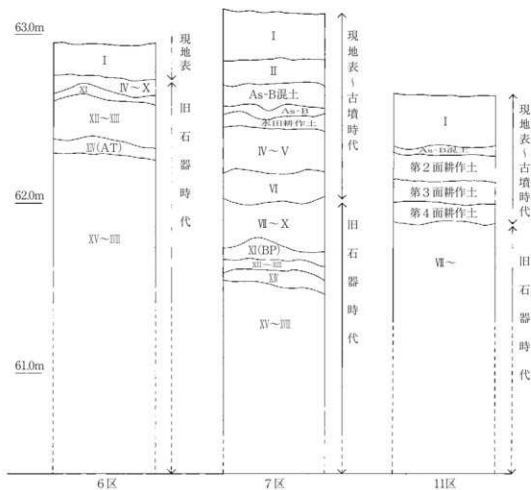
第3章 基本層序

萩原遺跡 6区、7区、11区基本土層



※●は、基本土層としたトレンチの位置

64.0m



第8図 萩原遺跡 6区、7区、11区基本土層図

第4章 遺構と遺物

概要

萩原遺跡では古墳時代、平安時代、中近世の遺構を検出した。本報告では、第4章を4節に分けた。最初の3節は[1]古墳時代の遺構と遺物、[2]平安時代の遺構と遺物、[3]中近世の遺構と遺物として時代ごとの文化面で報告している。さらに遺構外から出土した旧石器時代、縄文時代時代、縄文晩期終末～弥生時代、古墳時代、平安時代、中・近世遺構外から出土した遺物は、[5]遺構外出土遺物に掲載した。

各時代の主な遺構は、古墳時代では土坑群、平安時代では水田、井戸、溝、中・近世で堅穴状遺構、溝である。そのほかに時期不明ではあるが、掘立柱建物などが検出された。

本遺跡では水田といった生産跡や溝、土坑などの遺構が主体で、堅穴住居や掘立柱建物などの遺構はほとんど検出されなかった。本遺跡は金山北端の舌状台地に接する低地部に位置しており、居住域に適した立地ではなかった可能性が高い。遺跡の性格は周辺遺跡を含めて総合的に理解する必要がある、特に本遺跡の南西に接する、本遺跡と同一の事業である北関自動車道(伊勢崎～県境)建設に伴い発掘調査された峯山遺跡、上強戸遺跡群、古永条里水田跡などの調査成果を踏まえた遺跡の理解が必要である。

本遺跡で検出された遺構と同時代の遺構としては、峯山遺跡の古墳時代中期の堅穴住居や古永条里水田跡の平安時代の水田があげられる。

[1] 古墳時代の遺構と遺物

本遺跡では古墳時代の遺構として、3～5区で土坑を検出した。

(1) 土坑

3区の土坑 3区では古墳時代中期の土坑が3基検出された。

遺構の規模は直径約70cmの円形を呈する4号土坑、長軸約1.7mの不整形を呈する1号土坑、長軸約1.9mの不整形を呈する3号土坑と平面形状こそ異なるが、遺構の深さは、確認面から深さ10cmを測り、基本土層VI層である青灰色粘土層を掘り込んでいる。

覆土は4区の土坑群と同じく、1層であるローム粒や黒色土を含む粘性が高い褐色粘土と2層である黄褐色粘土をブロック状に含む褐色粘土層であり、これら土層が本遺跡の古墳時代の土坑に含まれる覆土に共通する特徴である。1層は自然埋没土、2層のブロック土は埋戻しである可能性が高い。

3区で検出された土坑の平面形状、深さ、覆土とも4区の土坑群と類似しており、4区と一連の性格の土坑群であると考えられる。

4区の土坑 4区では古墳時代中期の土坑が500基を上回る数で検出された。遺構の規模や平面形状の分類の詳細は一覧表に示した。ここでは遺物を出土した遺構に関する記載と土坑群の性格を推測する特徴を列記する。

4区から検出された土坑は調査区の南半部で集中して検出された。土坑は重複が著しく、覆土の状況も共通している。また、土坑群は丘陵部から低地部の縁辺で検出されており、旧地形の低地部縁辺に土坑群が掘られていたと考えられる。

土坑群の覆土はどれもほとんど共通しており、1層であるローム粒や黒色土を含む粘性が高い褐色粘土と2層である黄褐色粘土をブロック状に含む褐色粘土層からなる。1層は自然埋没土、2層はブロック土は埋戻しの可能性が高い。遺構の平面形状は直径60cm～1m前後を測る円または楕円形状で、深さは20～30cmのものがほとんどである。土坑群は、基本土層VI層である青灰色粘土層を掘り込んでおり、この土層を採取するために掘削された粘土採掘土坑であるとの調査所見を得た。

第4章 遺構と遺物

4区の土坑群では、1、4、6～8、14、21、28、30、33、38、78、79、95、101、103、114、158、198、206、276、287、365、399、458、534号土坑から、土師器坏、椀、壺、甕が出土している。遺物は5世紀中頃に比定され、他時期の遺物の混入はない。

5-1区の土坑 5区は5～7号土坑が古墳時代の土坑である。

土坑群の覆土はどれもほとんど共通しており、1層であるローム粒や黒色土を含む粘性が高い褐色粘土と2層である黄褐色粘土をブロック状に含む褐色粘土層である。1層は自然埋没土、2層のブロック土は埋戻しである可能性が高い。

5区5号土坑は長軸11.4m、短軸5.45m、深さ0.18m、6号土坑は長軸13.5m、短軸4.0m、深さ0.23m、7号土坑は長軸9.06m、短軸1.70m、深さ0.35mを測る。遺構の平面形状は5～7号土坑とも不整形で長軸10m前後と長大である。5～7号土坑からは、土師器坏、鉢、小型甕、甕が出土している。遺物は5世紀中頃に比定され4区の土坑群から出土した土器群と同時期である。他時期の遺物の混入はない。

土坑の所見 本遺跡周辺は峯山遺跡の鉄生産、埴輪生産の胸形神社埴輪窯跡、須恵器生産の菅ノ沢窯跡群、瓦生産の萩原遺跡・落内窯跡など、古代の鉄生産や窯業が盛んな地域として知られており、いずれの生産にも良質な粘土が必要であるといわれている。

峯山遺跡は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成14年度から17年度にかけて調査された遺跡で、飛鳥時代から奈良時代にかけて操業された箱形製鉄炉を3基検出した遺跡である。製鉄には砂鉄や製炭のための木の伐採に加えて、製鉄炉を構築するための粘土が必要となる。製鉄炉は7世紀末から8世紀前半に比定される。

胸形神社埴輪窯跡は本遺跡北の八王子丘陵南西部に位置し、胸形神社境内を中心に埴輪窯が推定されている遺跡である。発掘調査では埴輪集積所が検出されており、遺構からはおびただしい数の埴輪片が出土している。出土した埴輪片は6世紀後半に比定されている。

菅ノ沢窯跡群は須恵器窯が検出された遺跡で、古墳時代後期から専門的形態を取りながら須恵器生産を発達していたことがわかっている。時期は6世紀後半に比定されている。この他にも金山南東麓から東麓、八王子丘陵南東麓地域に須恵器生産の遺跡がいくつか分布している。

萩原窯跡は石橋町の寺井庵寺や新田田村の入谷遺跡から出土している瓦、落内窯跡は国分寺瓦を生産した窯跡として推定されている。時期は7世紀後半から8世紀前半に比定されている。瓦生産では八王子丘陵南東麓に遺跡が集中する傾向があり、奈良時代から平安時代にかけての瓦窯が存在する。

遺跡周辺では埴輪・須恵器・瓦・鉄生産が盛んに行われており、古墳時代後期から平安時代にかけての生産地域として知られているが、本遺跡で検出された土坑群は古墳時代中期に比定され、周辺のいずれの生産遺跡とも結びつけることができない。

検出された土坑群は台地から低地部に向かう縁辺に沿うように立地しており、遺構の立地からは粘土採掘土坑の可能性が高いといえるが、採取した粘土の用途を推測することは難しい。可能性の一つとして土師器生産のための粘土採掘土坑があげられるかもしれないが、土師器生産に関わる遺構の検出は困難で、遺跡から検証することはできない。本県では波志江西宿遺跡の古墳時代前期に比定される粘土採掘坑や中世に比定される生品西浦遺跡の粘土採掘坑などが知られているが、それぞれ異なる形状をしており、遺構の形態からその性格を確定することができない。覆土にはブロック状の土層が多く含まれており、共通する特徴であるといえる。土坑群の性格・機能についての検討は今後の研究成果を待ちたい。また、本遺跡に接する峯山遺跡では古墳時代中期の住居が4件検出されている。4軒の住居はいずれも5世紀前半に位置づけられ、土坑群から出土した土器群とほぼ同時期である。本遺跡内では古墳時代中期の遺構は土坑群以外に検出されなかったが、峯山遺跡の4軒の堅穴住居は本遺跡の土坑群と関連する可能性があり、注目する必要がある。

古墳時代の土坑一覧表

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
1	3	3号土坑	086-648	不整形	1.70	1.30	0.12	61	4	58号土坑	062-582	不整形	1.05	0.88	0.12
2	3	4号土坑	059-621	円形	0.74	0.70	0.10	62	4	59号土坑	060-582	円形	0.80	0.69	0.20
3	3	5号土坑	057.5-621	不整形	1.94	1.18	0.16	63	4	60号土坑	058-588	円形	0.78	0.25	0.20
4	4	1号土坑	051-576.5	円形	0.74	0.68	0.13	64	4	61号土坑	060-588	楕円形	1.49	1.34	0.16
5	4	2号土坑	067-610	不整形	0.77	0.58	0.16	65	4	62号土坑	058-588	不整形	0.86	0.56	0.16
6	4	3号土坑	0485-557	楕円形	0.77	0.72	0.06	66	4	63号土坑	058-585	円形	0.90	0.70	0.10
7	4	4号土坑	049-558	円形	0.52	0.52	0.08	67	4	64号土坑	060-587.5	円形	0.78	0.73	0.14
8	4	5号土坑	049-556	円形	0.90	0.86	0.10	68	4	65号土坑	061-590	円形	0.86	0.83	0.10
9	4	6号土坑	056-561	楕円形	0.96	0.56	0.11	69	4	66号土坑	061-588	円形	1.05	0.90	0.12
10	4	7号土坑	065-571	楕円形	0.86	0.60	0.14	70	4	67号土坑	060-586	楕円形	1.13	0.87	0.12
11	4	8号土坑	0625-559	円形	0.50	0.47	0.08	71	4	68号土坑	0595-585	楕円形	0.67	0.48	0.15
12	4	9号土坑	050-557	円形	1.33	1.15	0.10	72	4	69号土坑	060-584	楕円形	0.80	0.65	0.19
13	4	10号土坑	050-560	円形	0.73	0.70	0.12	73	4	70号土坑	059-583	円形	0.44	0.43	0.19
14	4	11号土坑	047-560	円形	0.75	0.68	0.14	74	4	71号土坑	060-583	円形	0.55	0.50	0.17
15	4	12号土坑	060-556	円形	0.65	0.58	0.14	75	4	72号土坑	060-584.5	円形	0.65	0.59	0.23
16	4	13号土坑	0495-553	円形	0.60	0.58	0.19	76	4	73号土坑	062-585	円形	0.60	0.56	0.17
17	4	14号土坑	060-570.5	円形	0.55	0.53	0.10	77	4	74号土坑	062-587	楕円形	1.05	0.65	0.18
18	4	15号土坑	0665-573	円形	0.49	0.47	0.06	78	4	75号土坑	062-586.5	不整形	0.84	0.72	0.16
19	4	16号土坑	063-569.5	円形	0.80	0.75	0.14	79	4	76号土坑	062-588.5	円形	1.00	0.88	0.17
20	4	17号土坑	0635-571	楕円形	0.51	0.44	0.13	80	4	77号土坑	063-584	円形	0.88	0.84	0.13
21	4	18号土坑	0635-571	円形	1.24	1.20	0.10	81	4	78号土坑	066-589	円形	0.85	0.76	0.12
22	4	19号土坑	061-571	楕円形	0.90	0.67	0.15	82	4	79号土坑	065-588.5	円形	0.65	0.65	0.08
23	4	20号土坑	060-569	楕円形	0.75	0.62	0.15	83	4	80号土坑	066-584.5	円形	0.53	0.42	0.14
24	4	21号土坑	0625-571	円形	0.60	0.60	0.08	84	4	81号土坑	067-692	方形	1.05	0.92	0.15
25	4	22号土坑	0615-570	楕円形	0.58	0.58	0.17	85	4	82号土坑	063-587	円形	0.54	0.54	0.12
26	4	23号土坑	062-572	円形	0.75	0.70	0.05	86	4	83号土坑	068-588	円形	0.92	0.78	0.18
27	4	24号土坑	062-571	円形	0.58	0.58	0.16	87	4	84号土坑	068-586	不整形	0.58	0.53	0.11
28	4	25号土坑	0625-570	楕円形	0.84	0.51	0.17	88	4	85号土坑	065-586	円形	1.05	0.74	0.09
29	4	26号土坑	063-575	不整形	1.13	0.65	0.23	89	4	86号土坑	062-578	円形	0.58	0.23	0.15
30	4	27号土坑	063-574	楕円形	0.88	0.67	0.20	90	4	87号土坑	066-587	方形	1.46	1.09	0.18
31	4	28号土坑	061-574	円形	0.61	0.61	0.17	91	4	88号土坑	060-586	不整形	2.18	1.45	0.15
32	4	29号土坑	0605-574	円形	0.66	0.54	0.15	92	4	89号土坑	057-586	楕円形	1.69	0.88	0.18
33	4	30号土坑	063-580	円形	0.95	0.81	0.17	93	4	90号土坑	0575-584	不整形	0.73	0.60	0.14
34	4	31号土坑	064-578	楕円形	1.23	0.95	0.13	94	4	91号土坑	058-583	不整形	1.23	1.18	0.20
35	4	32号土坑	063-578	楕円形	0.70	0.62	0.10	95	4	92号土坑	058-581	不整形	1.02	0.84	0.16
36	4	33号土坑	062-756	楕円形	0.90	0.86	0.24	96	4	93号土坑	055-583.5	方形	0.95	0.82	0.15
37	4	34号土坑	0625-577	不整形	0.55	0.28	0.20	97	4	94号土坑	056-586.5	円形	0.60	0.55	0.23
38	4	35号土坑	063-576	円形	0.62	0.56	0.15	98	4	95号土坑	055-587	円形	1.00	0.62	0.22
39	4	36号土坑	064-576	不整形	1.02	1.02	0.10	99	4	96号土坑	052-581	円形	0.96	0.93	0.14
40	4	37号土坑	063-576	不整形	0.70	0.65	0.10	100	4	97号土坑	063-574	楕円形	0.70	0.63	0.20
41	4	38号土坑	065-571	楕円形	0.77	0.60	0.10	101	4	98号土坑	0545-582.5	不整形	1.25	0.73	0.16
42	4	39号土坑	063-569	楕円形	1.35	0.83	0.15	102	4	99号土坑	056-582	不整形	1.50	1.12	0.22
43	4	40号土坑	061-568.5	円形	0.80	0.75	0.10	103	4	100号土坑	063-580	楕円形	1.23	1.19	0.20
44	4	41号土坑	061-568.5	円形	0.55	0.55	0.14	104	4	101号土坑	0555-583	不整形	1.12	0.80	0.15
45	4	42号土坑	060-568	楕円形	0.58	0.58	0.14	105	4	102号土坑	050-578	円形	0.57	0.55	0.14
46	4	43号土坑	064-568	楕円形	0.70	0.45	0.15	106	4	103号土坑	048-553	円形	0.82	0.82	0.18
47	4	44号土坑	063-577	円形	0.50	0.50	0.13	107	4	104号土坑	048-553	楕円形	0.90	0.64	0.18
48	4	45号土坑	0635-577	不整形	0.57	0.43	0.20	108	4	105号土坑	047-053	不整形	0.88	0.56	0.13
49	4	46号土坑	060-581	円形	0.47	0.46	0.19	109	4	106号土坑	046-553	不整形	1.29	0.60	0.22
50	4	47号土坑	060-581	円形	0.47	0.43	0.18	110	4	107号土坑	0445-553	円形	0.78	0.65	0.14
51	4	48号土坑	062-580	楕円形	0.68	0.64	0.13	111	4	108号土坑	044-553	不整形	0.55	0.47	0.11
52	4	49号土坑	062-580	円形	0.62	0.58	0.20	112	4	109号土坑	045-553	方形	1.08	0.60	0.17
53	4	50号土坑	064-581	楕円形	1.60	0.94	0.10	113	4	110号土坑	044-554	円形	0.88	0.80	0.10
54	4	51号土坑	062-579	円形	1.24	1.11	0.17	114	4	111号土坑	043-554	楕円形	0.96	0.46	0.18
55	4	52号土坑	062-575	不整形	1.13	0.85	0.15	115	4	112号土坑	046-554.5	楕円形	0.97	0.75	0.13
56	4	53号土坑	063-582.5	円形	0.65	0.60	0.12	116	4	113号土坑	046-554	不整形	0.61	0.55	0.08
57	4	54号土坑	062-582.5	不整形	0.94	0.88	0.18	117	4	114号土坑	046-554	楕円形	0.48	0.40	0.10
58	4	55号土坑	063-583	楕円形	0.74	0.50	0.18	118	4	115号土坑	0455-555	不整形	0.85	0.47	0.09
59	4	56号土坑	063-582.5	不整形	0.82	0.58	0.17	119	4	116号土坑	045-556.5	円形	0.53	0.53	0.13
60	4	57号土坑	064-578.5	方形	0.88	1.28	0.18	120	4	117号土坑	045-555	円形	0.54	0.54	0.13

第4章 遺構と遺物

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
121	4	118号土坑	045-555	円形	0.40	0.35	0.12	181	4	178号土坑	051.5-553	円形	0.60	0.53	0.12
122	4	119号土坑	046-556	円形	0.76	0.70	0.10	182	4	179号土坑	053-554	不整形	0.71	0.60	0.08
123	4	130号土坑	045-554.5	不整形	0.96	0.43	0.10	183	4	180号土坑	032.5-554	不整形	0.65	0.64	0.12
124	4	121号土坑	044-555.5	円形	0.68	0.60	0.07	184	4	181号土坑	053-554	円形	0.56	0.52	0.10
125	4	122号土坑	043-556	円形	0.42	0.38	0.08	185	4	182号土坑	053-553	楕円形	1.00	0.65	0.11
126	4	123号土坑	043-555	楕円形	0.48	0.44	0.10	186	4	183号土坑	050-553	楕円形	0.94	0.80	0.19
127	4	124号土坑	046-557	円形	0.44	0.37	0.16	187	4	184号土坑	051-553	不整形	0.78	0.37	0.16
128	4	125号土坑	042.5-560	不整形	0.75	1.02	0.14	188	4	185号土坑	050-553	不整形	0.60	0.42	0.08
129	4	126号土坑	045-561	不整形	1.47	1.13	0.12	189	4	186号土坑	048.5-557	不整形	0.60	0.45	0.20
130	4	127号土坑	045-058	不整形	1.28	1.11	0.18	190	4	187号土坑	050-561	不整形	1.45	1.45	0.15
131	4	128号土坑	045-558	不整形	1.03	0.70	0.11	191	4	188号土坑	050-560.5	円形	0.53	0.49	0.13
132	4	129号土坑	046-557	不整形	1.23	1.08	0.07	192	4	189号土坑	053-561	不整形	0.73	0.54	0.07
133	4	130号土坑	046-558	楕円形	0.84	0.47	0.09	193	4	190号土坑	055-562	不整形	2.46	1.54	0.10
134	4	131号土坑	045-557	楕円形	0.70	0.60	0.17	194	4	191号土坑	055-563	不整形	0.85	0.80	0.14
135	4	132号土坑	047-560	不整形	1.30	1.07	0.11	195	4	192号土坑	057.5-561.5	円形	0.71	0.65	0.22
136	4	133号土坑	048-559	不整形	1.13	1.04	0.20	196	4	193号土坑	057-561	円形	1.18	1.17	0.18
137	4	134号土坑	047-559	円形	0.90	0.90	0.12	197	4	194号土坑	055.5-561	楕円形	1.24	1.00	0.15
138	4	135号土坑	047-556	不整形	1.16	0.94	0.12	198	4	195号土坑	055-559	不整形	1.15	1.15	0.13
139	4	136号土坑	045-560	不整形	0.68	0.50	0.23	199	4	196号土坑	053-560	円形	0.80	0.72	0.13
140	4	137号土坑	051-553	円形	0.50	0.47	0.09	200	4	197号土坑	054-558.5	楕円形	0.80	0.54	0.15
141	4	138号土坑	050.5-553	円形	0.84	0.70	0.14	201	4	198号土坑	054-557	不整形	0.90	0.80	0.10
142	4	139号土坑	049-554	円形	0.90	0.88	0.11	202	4	199号土坑	054-556	円形	0.79	0.78	0.16
143	4	140号土坑	048-554	円形	0.50	0.47	0.09	203	4	201号土坑	055-558	円形	0.51	0.48	0.18
144	4	141号土坑	047-555	楕円形	1.50	0.74	0.10	204	4	202号土坑	056-558	円形	0.55	0.52	0.12
145	4	142号土坑	050-555	円形	1.07	0.98	0.15	205	4	203号土坑	057-658	円形	0.83	0.73	0.13
146	4	143号土坑	050-555	不整形	0.17	0.90	0.11	206	4	204号土坑	057-559	不整形	1.54	1.54	0.14
147	4	144号土坑	052-556	不整形	1.06	0.90	0.16	207	4	205号土坑	057-539	不整形	1.33	0.87	0.21
148	4	145号土坑	051.5-557	不整形	1.17	0.75	0.11	208	4	206号土坑	058-558	不整形	2.07	2.04	0.21
149	4	146号土坑	052.5-556	楕円形	1.14	0.82	0.15	209	4	207号土坑	055-557.5	不整形	0.88	0.85	0.16
150	4	147号土坑	048-560	不整形	0.82	0.59	0.21	210	4	208号土坑	063-556	方形	1.12	0.87	0.13
151	4	148号土坑	048.5-560	円形	0.50	0.42	0.16	211	4	209号土坑	064-556	円形	0.94	0.84	0.13
152	4	149号土坑	050-561	円形	1.02	0.95	0.10	212	4	210号土坑	064-554	不整形	1.02	0.85	0.10
153	4	150号土坑	048.5-560	円形	0.73	0.65	0.12	213	4	211号土坑	062-555	不整形	1.12	0.90	0.18
154	4	151号土坑	049-560	円形	0.55	0.46	0.09	214	4	212号土坑	064-555	不整形	1.25	1.18	0.14
155	4	152号土坑	050-559.5	円形	0.73	0.63	0.07	215	4	213号土坑	064-554	楕円形	1.12	0.45	0.11
156	4	153号土坑	050-559	円形	0.70	0.62	0.11	216	4	214号土坑	063-553	楕円形	0.62	0.49	0.17
157	4	154号土坑	050-559.5	円形	0.70	0.68	0.13	217	4	215号土坑	060-553	円形	1.50	1.23	0.21
158	4	155号土坑	051-559	方形	0.60	0.54	0.11	218	4	216号土坑	060-553	円形	1.03	0.45	0.17
159	4	156号土坑	053-558	円形	0.76	0.67	0.11	219	4	217号土坑	057-562	円形	0.56	0.55	0.18
160	4	157号土坑	051.5-557.5	楕円形	0.57	0.48	0.13	220	4	218号土坑	060-558	不整形	1.35	1.20	0.17
161	4	158号土坑	050-557	不整形	1.63	1.55	0.11	221	4	219号土坑	059-557	不整形	0.90	0.66	0.16
162	4	159号土坑	053-560	不整形	1.63	1.40	0.20	222	4	220号土坑	059-560	不整形	1.50	1.35	0.15
163	4	160号土坑	050-559.5	不整形	1.34	1.20	0.18	223	4	221号土坑	059-560	不整形	1.77	1.10	0.20
164	4	161号土坑	053-560	不整形	1.22	1.09	0.09	224	4	222号土坑	060.5-563	楕円形	1.32	0.70	0.21
165	4	162号土坑	051-559	円形	0.93	0.93	0.11	225	4	223号土坑	060-561	楕円形	0.78	0.68	0.19
166	4	163号土坑	052-559	円形	0.62	0.62	0.07	226	4	224号土坑	061-561	円形	0.95	0.95	0.18
167	4	164号土坑	049-556	楕円形	1.33	0.62	0.16	227	4	225号土坑	061-560	円形	0.90	0.75	0.17
168	4	165号土坑	050-555	楕円形	0.63	0.55	0.15	228	4	226号土坑	060-560	楕円形	0.86	0.70	0.23
169	4	166号土坑	054-555	楕円形	0.88	0.58	0.15	229	4	227号土坑	061-559	不整形	1.18	0.92	0.12
170	4	167号土坑	055-554	楕円形	0.73	0.54	0.18	230	4	228号土坑	062-565	楕円形	0.78	0.60	0.12
171	4	168号土坑	050.5-555	楕円形	1.25	0.74	0.16	231	4	229号土坑	062-564	不整形	0.74	0.57	0.16
172	4	169号土坑	054-554.5	不整形	1.00	0.58	0.13	232	4	230号土坑	060.5-563.5	不整形	1.02	0.83	0.14
173	4	170号土坑	053-553	円形	0.81	0.67	0.12	233	4	231号土坑	063-563	楕円形	1.15	0.99	0.19
174	4	171号土坑	051-554	楕円形	0.53	0.42	0.15	234	4	232号土坑	063-562	楕円形	1.06	0.80	0.17
175	4	172号土坑	050-553	不整形	0.80	0.57	0.15	235	4	233号土坑	064-563	不整形	1.32	0.84	0.23
176	4	173号土坑	051-554.5	楕円形	0.50	0.44	0.11	236	4	234号土坑	064-563	不整形	0.94	0.76	0.15
177	4	174号土坑	051-553.5	円形	0.53	0.48	0.09	237	4	235号土坑	064-561	円形	1.28	1.17	0.15
178	4	175号土坑	051-553	円形	0.65	0.56	0.18	238	4	236号土坑	062-560	楕円形	1.60	1.24	0.17
179	4	176号土坑	052.5-555	不整形	1.14	0.50	0.17	239	4	237号土坑	055-562.5	円形	0.70	0.68	0.16
180	4	177号土坑	052-553.5	楕円形	0.80	0.70	0.11	240	4	238号土坑	065-561.5	円形	0.62	0.56	0.12

[1] 古墳時代の遺構と遺物

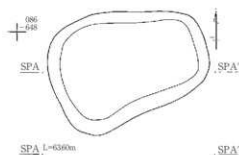
区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
241	4	230号土坑	065-561	円形	0.94	0.83	0.16	301	4	301号土坑	047-572	楕円形	0.93	0.73	0.15
242	4	240号土坑	065-557	楕円形	1.20	0.90	0.17	302	4	302号土坑	046-561	不整形	0.86	0.82	0.15
243	4	241号土坑	060-560	不整形	2.27	2.21	0.32	303	4	303号土坑	0485-572	不整形	1.30	1.10	0.34
244	4	242号土坑	062-563	不整形	3.06	2.06	0.90	304	4	304号土坑	049-574	不整形	0.98	0.57	0.20
245	4	243号土坑	057-563	不整形	0.67	0.61	0.23	305	4	305号土坑	046-575	不整形	1.30	1.00	0.18
246	4	246号土坑	063-558	不整形	1.28	1.26	0.16	306	4	306号土坑	047-575	円形	0.90	0.83	0.16
247	4	247号土坑	0615-559	不整形	0.87	0.76	0.18	307	4	307号土坑	048-575	不整形	0.78	0.90	0.21
248	4	248号土坑	059-554	楕円形	0.64	0.50	0.14	308	4	308号土坑	047-575.5	円形	0.72	0.72	0.15
249	4	249号土坑	056-557.5	円形	0.55	0.50	0.17	309	4	309号土坑	050-574	円形	1.03	0.94	0.12
250	4	250号土坑	056-557	円形	0.80	0.76	0.17	310	4	310号土坑	049-574	楕円形	1.22	0.90	0.15
251	4	251号土坑	066-559	楕円形	1.44	1.30	0.20	311	4	311号土坑	053-564	不整形	1.25	1.20	0.15
252	4	252号土坑	0605-556	不整形	1.25	1.10	0.14	312	4	312号土坑	051-564.5	不整形	1.30	1.18	0.13
253	4	253号土坑	059-557	不整形	1.25	0.90	0.13	313	4	313号土坑	048-570.5	楕円形	0.70	0.64	0.10
254	4	254号土坑	044-563	不整形	1.00	0.85	0.20	314	4	314号土坑	067-560	不整形	1.94	0.94	0.16
255	4	255号土坑	046-562	楕円形	0.85	0.65	0.19	315	4	315号土坑	045-563	不整形	1.18	1.10	0.17
256	4	256号土坑	047-575	方形	1.06	0.87	0.17	316	4	316号土坑	0485-565	不整形	0.78	0.75	0.13
257	4	257号土坑	048-564	楕円形	1.05	0.88	0.25	317	4	317号土坑	049-565	楕円形	0.78	0.75	0.13
258	4	258号土坑	047-565	円形	0.68	0.58	0.15	318	4	318号土坑	050-566	楕円形	0.60	0.53	0.08
259	4	259号土坑	048-566	楕円形	1.14	0.80	0.21	319	4	319号土坑	047-568	不整形	1.70	1.13	0.12
260	4	260号土坑	043-564	楕円形	0.57	0.40	0.18	320	4	320号土坑	0655-561	円形	0.70	0.62	0.20
261	4	261号土坑	049-566	不整形	0.58	0.56	0.17	321	4	321号土坑	048-577	楕円形	1.10	0.90	0.18
262	4	262号土坑	049-566	楕円形	1.60	1.01	0.17	322	4	322号土坑	049-576.5	円形	0.48	0.48	0.13
263	4	263号土坑	049-568	不整形	1.00	0.74	0.15	323	4	323号土坑	051-575.5	円形	0.57	0.56	0.08
264	4	264号土坑	045-567	円形	0.80	0.67	0.13	324	4	324号土坑	048-579	円形	0.60	0.60	0.20
265	4	265号土坑	044-567	円形	0.58	0.56	0.13	325	4	325号土坑	048-578	円形	0.58	0.56	0.11
266	4	266号土坑	044-567	不整形	0.84	0.72	0.19	326	4	326号土坑	0495-578	円形	0.60	0.55	0.14
267	4	267号土坑	046-564	不整形	2.77	2.38	0.22	327	4	327号土坑	049-579	円形	0.56	0.50	0.10
268	4	268号土坑	044-565	不整形	1.45	0.90	0.15	328	4	328号土坑	047-583	円形	0.88	0.85	0.15
269	4	269号土坑	061-564.5	不整形	1.62	0.95	0.19	329	4	329号土坑	045-576.5	円形	1.40	1.15	0.16
270	4	270号土坑	062-554	不整形	0.95	0.67	0.15	330	4	330号土坑	053-553	円形	0.73	0.64	0.13
271	4	271号土坑	049-564	不整形	1.18	1.05	0.13	331	4	331号土坑	0535-555	円形	0.89	0.85	0.20
272	4	272号土坑	051-565	不整形	0.80	0.67	0.10	332	4	332号土坑	055-556	円形	0.54	0.54	0.16
273	4	273号土坑	051-564	楕円形	0.90	0.64	0.07	333	4	333号土坑	055-569	不整形	0.70	0.68	0.19
274	4	274号土坑	051-563	不整形	1.20	0.93	0.15	334	4	334号土坑	054-567.5	楕円形	1.07	0.80	0.20
275	4	275号土坑	051-563	不整形	0.86	0.55	0.18	335	4	335号土坑	055-569	楕円形	0.90	0.64	0.17
276	4	276号土坑	0505-565	不整形	1.14	0.95	0.16	336	4	336号土坑	059-568	楕円形	1.03	0.73	0.18
277	4	277号土坑	049-564	円形	1.03	0.90	0.14	337	4	337号土坑	059-568	円形	0.69	0.64	0.15
278	4	278号土坑	050-568	不整形	0.99	0.90	0.12	338	4	338号土坑	060-568	楕円形	0.82	0.67	0.18
279	4	279号土坑	052-569	不整形	2.18	1.27	0.15	339	4	339号土坑	060-569	円形	0.79	0.70	0.19
280	4	280号土坑	049-566	不整形	2.70	1.68	0.15	340	4	340号土坑	061-569	楕円形	0.68	0.57	0.16
281	4	281号土坑	044-564	不整形	1.00	0.76	0.16	341	4	341号土坑	060-570	不整形	1.11	0.82	0.18
282	4	282号土坑	043-564	楕円形	0.71	0.64	0.12	342	4	342号土坑	0695-569	不整形	0.76	0.70	0.16
283	4	283号土坑	044-563	楕円形	0.70	0.65	0.10	343	4	343号土坑	058-571	円形	0.64	0.64	0.14
284	4	284号土坑	052-570	不整形	1.05	0.68	0.20	344	4	344号土坑	059-572	楕円形	0.85	0.75	0.17
285	4	285号土坑	0465-570	不整形	0.94	0.94	0.14	345	4	345号土坑	055-564.5	楕円形	0.82	0.72	0.10
286	4	286号土坑	047-569	不整形	1.00	1.00	0.10	346	4	346号土坑	054-567	楕円形	0.97	0.86	0.15
287	4	287号土坑	047-571	不整形	0.92	0.55	0.10	347	4	347号土坑	054-560	円形	1.07	1.07	0.19
288	4	288号土坑	045-570	不整形	1.50	1.22	0.14	348	4	348号土坑	055-560	不整形	1.27	1.10	0.11
289	4	289号土坑	066-559	不整形	1.07	0.85	0.19	349	4	349号土坑	058-568	楕円形	0.95	0.52	0.17
290	4	290号土坑	067-560	方形	2.30	1.07	0.20	350	4	350号土坑	0525-571	円形	0.65	0.46	0.16
291	4	291号土坑	066-561	不整形	1.53	1.10	0.12	351	4	351号土坑	0525-570	円形	0.90	0.85	0.16
292	4	292号土坑	0655-563	不整形	1.00	0.81	0.13	352	4	352号土坑	054-570	楕円形	1.61	0.92	0.16
293	4	293号土坑	067-561.5	不整形	1.13	1.04	0.12	353	4	353号土坑	054-571	不整形	1.34	1.32	0.17
294	4	294号土坑	062-558	不整形	1.66	1.46	0.23	354	4	354号土坑	054-570.5	楕円形	0.80	0.70	0.15
295	4	295号土坑	052-553	不整形	4.00	1.82	0.31	355	4	355号土坑	054-571	円形	0.88	0.80	0.19
296	4	296号土坑	047-562	不整形	1.20	0.76	0.15	356	4	356号土坑	055-569	円形	0.74	0.70	0.17
297	4	297号土坑	047-563	不整形	1.13	1.08	0.24	357	4	357号土坑	053-569	円形	0.84	0.74	0.16
298	4	298号土坑	046-568	楕円形	1.10	0.80	0.23	358	4	358号土坑	053-569	不整形	1.70	1.54	0.29
299	4	299号土坑	045-568	方形	2.29	1.45	0.25	359	4	359号土坑	053-565	不整形	1.08	1.00	0.13
300	4	300号土坑	046-570	不整形	1.05	0.80	0.08	360	4	360号土坑	052-567	不整形	0.82	0.70	0.15

第4章 遺構と遺物

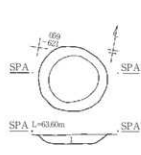
区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
361	4	361号土坑	053-570	不整形	0.98	0.80	0.25	421	4	421号土坑	055-601	円形	0.70	0.66	0.14
362	4	362号土坑	053-570	円形	1.53	1.28	0.20	422	4	422号土坑	055-597	不整形	0.70	0.45	0.13
363	4	363号土坑	058-565	不整形	2.64	2.38	0.25	423	4	423号土坑	055-598	円形	0.55	0.37	0.12
364	4	364号土坑	058-567	円形	0.60	0.50	0.13	424	4	424号土坑	062-592	不整形	2.00	0.98	0.12
365	4	365号土坑	056-570	不整形	5.45	2.32	0.53	425	4	425号土坑	063.5-603	円形	0.85	0.75	0.13
366	4	366号土坑	050-587.5	円形	0.46	0.46	0.11	426	4	426号土坑	062-604	円形	0.80	0.74	0.19
367	4	367号土坑	050-588.5	楕円形	0.68	0.43	0.10	427	4	427号土坑	064.5-603.5	円形	0.60	0.60	0.15
368	4	368号土坑	051-590	円形	0.84	0.78	0.15	428	4	428号土坑	066-603	円形	0.65	0.58	0.15
369	4	369号土坑	052-590	不整形	1.33	0.70	0.13	429	4	429号土坑	066-603	不整形	0.95	0.55	0.13
370	4	370号土坑	056-589	円形	0.73	0.68	0.10	430	4	430号土坑	055-605	不整形	1.20	0.86	0.12
371	4	371号土坑	053-588	円形	0.75	0.63	0.10	431	4	431号土坑	053-605	不整形	1.25	1.04	0.09
372	4	372号土坑	054-590	円形	0.83	0.72	0.14	432	4	432号土坑	062-604	不整形	0.50	0.45	0.11
373	4	373号土坑	052-590	円形	0.93	0.67	0.17	433	4	433号土坑	062-604	不整形	0.75	0.55	0.19
374	4	374号土坑	053.5-591	楕円形	0.52	0.44	0.10	434	4	434号土坑	062-606	不整形	0.81	0.54	0.11
375	4	375号土坑	053-592	円形	0.54	0.54	0.09	435	4	435号土坑	062-605	不整形	0.68	0.64	0.10
376	4	376号土坑	052-591	円形	1.09	0.85	0.15	436	4	436号土坑	064-605	不整形	0.92	0.65	0.13
377	4	377号土坑	055-591	楕円形	0.80	0.70	0.08	437	4	437号土坑	063-606	不整形	0.55	0.48	0.20
378	4	378号土坑	056-591	円形	0.40	0.40	0.20	438	4	438号土坑	064-605.5	楕円形	1.04	0.82	0.17
379	4	379号土坑	055-594	円形	0.52	0.50	0.10	439	4	439号土坑	055-606	楕円形	0.70	0.60	0.11
380	4	380号土坑	054-592	円形	0.44	0.44	0.08	440	4	440号土坑	063-607	不整形	0.48	0.31	0.08
381	4	381号土坑	056.5-592	円形	0.60	0.55	0.14	441	4	441号土坑	063-607	不整形	1.00	0.60	0.08
382	4	382号土坑	055-593	円形	0.60	0.54	0.15	442	4	442号土坑	051-607	円形	0.73	0.64	0.10
383	4	383号土坑	055-595	円形	0.47	0.46	0.09	443	4	443号土坑	064-608	楕円形	0.90	0.81	0.08
384	4	384号土坑	050.5-595	円形	0.92	0.90	0.17	444	4	444号土坑	064-607	円形	1.03	0.88	0.10
385	4	385号土坑	051-595	円形	0.94	0.87	0.15	445	4	445号土坑	065-607	楕円形	0.84	0.73	0.10
386	4	386号土坑	052-595	円形	1.22	1.20	0.15	446	4	446号土坑	062-610	楕円形	1.57	0.50	0.20
387	4	387号土坑	052-596	円形	0.49	0.49	0.10	447	4	447号土坑	063.5-610.5	円形	0.78	0.73	0.12
388	4	388号土坑	056-598	不整形	1.50	1.40	0.18	448	4	448号土坑	061-572	楕円形	1.23	1.05	0.17
389	4	389号土坑	054-598	楕円形	0.65	0.50	0.15	449	4	449号土坑	069-572	楕円形	0.94	0.80	0.11
390	4	390号土坑	053-598	円形	0.65	0.56	0.10	450	4	450号土坑	068-573	方形	1.66	0.94	0.20
391	4	391号土坑	054-597	不整形	0.45	0.40	0.15	451	4	451号土坑	066-572	楕円形	1.60	1.24	0.18
392	4	392号土坑	053-597	不整形	0.55	0.34	0.14	452	4	452号土坑	068-576	不整形	3.48	2.04	0.18
393	4	393号土坑	057-596	不整形	0.60	0.35	0.09	453	4	453号土坑	060-579	円形	1.24	1.09	0.19
394	4	394号土坑	056-595.5	不整形	0.60	0.47	0.08	454	4	454号土坑	060-578	不整形	0.98	0.98	0.11
395	4	395号土坑	052-599	不整形	2.85	2.67	0.30	455	4	455号土坑	067-575	円形	0.71	0.63	0.19
396	4	396号土坑	049.5-600	円形	0.36	0.33	0.07	456	4	456号土坑	067-580	楕円形	1.57	0.78	0.17
397	4	397号土坑	050-599.5	不整形	0.62	0.41	0.12	457	4	457号土坑	065-573	不整形	6.77	4.45	0.64
398	4	398号土坑	050-599	不整形	0.80	0.68	0.08	458	4	458号土坑	066-570	楕円形	1.17	0.80	0.13
399	4	399号土坑	050.5-600	不整形	1.30	0.64	0.15	459	4	459号土坑	061-575	不整形	1.30	0.81	0.14
400	4	400号土坑	053-602	不整形	1.16	0.73	0.20	460	4	460号土坑	061-572.5	円形	0.80	0.68	0.15
401	4	401号土坑	053-600.5	不整形	0.58	0.54	0.11	461	4	461号土坑	063-572	楕円形	2.13	1.19	0.12
402	4	402号土坑	052-598	円形	0.58	0.40	0.07	462	4	462号土坑	061-575	不整形	2.30	1.03	0.18
403	4	403号土坑	052-598	不整形	1.04	0.74	0.14	463	4	463号土坑	069-579	楕円形	0.66	0.53	0.14
404	4	404号土坑	050.5-597	楕円形	0.88	0.80	0.17	464	4	464号土坑	060-580	円形	0.75	0.73	0.18
405	4	405号土坑	052-598	不整形	0.83	0.64	0.07	465	4	465号土坑	061-578	円形	0.75	0.73	0.13
406	4	406号土坑	052-598	不整形	0.34	0.27	0.06	466	4	466号土坑	062-579	円形	0.67	0.61	0.07
407	4	407号土坑	051-598.5	円形	0.46	0.40	0.10	467	4	467号土坑	061-575	楕円形	0.95	0.68	0.12
408	4	408号土坑	052-604	円形	0.49	0.48	0.12	468	4	468号土坑	061-576	不整形	1.91	1.11	0.23
409	4	409号土坑	054-600	円形	0.70	0.66	0.10	469	4	469号土坑	067-580	円形	0.87	0.78	0.12
410	4	410号土坑	054-600	不整形	1.38	0.93	0.18	470	4	470号土坑	068-573.5	不整形	0.95	0.90	0.25
411	4	411号土坑	050-602	円形	0.77	0.66	0.13	471	4	471号土坑	062-595	円形	0.58	0.54	0.11
412	4	412号土坑	051-599	円形	0.42	0.38	0.10	472	4	472号土坑	062-595	円形	0.40	0.40	0.08
413	4	413号土坑	052-599	方形	0.58	0.48	0.09	473	4	473号土坑	064-596	円形	0.85	0.75	0.15
414	4	414号土坑	050-603	方形	0.68	0.63	0.12	474	4	474号土坑	063.5-596	円形	1.15	0.84	0.15
415	4	415号土坑	050-603	円形	0.63	0.32	0.06	475	4	475号土坑	062-596	円形	0.94	0.87	0.11
416	4	416号土坑	052-600	円形	0.83	0.76	0.16	476	4	476号土坑	064-596.5	円形	0.84	0.74	0.11
417	4	417号土坑	050-596	円形	0.62	0.68	0.14	477	4	477号土坑	062-599	楕円形	1.00	0.84	0.07
418	4	418号土坑	049.5-597	不整形	0.80	0.65	0.15	478	4	478号土坑	061-601	円形	0.58	0.58	0.10
419	4	419号土坑	049-597	円形	0.95	0.50	0.19	479	4	479号土坑	062-098	楕円形	0.83	0.56	0.07
420	4	420号土坑	051-605	円形	0.86	0.42	0.13	480	4	480号土坑	064-600	楕円形	1.19	0.98	0.12

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
481	4	481号土坑	063-508.5	円形	0.59	0.50	0.05	514	4	514号土坑	069-613	円形	0.55	0.48	0.08
482	4	482号土坑	065-601	不整形	0.93	-	0.12	515	4	515号土坑	061-615	楕円形	0.96	0.52	0.19
483	4	483号土坑	065-601	不整形	0.92	-	0.10	516	4	516号土坑	059-615	楕円形	0.65	0.37	0.13
484	4	484号土坑	060-603	円形	0.48	0.45	0.09	517	4	517号土坑	071-605	円形	0.71	0.65	0.12
485	4	485号土坑	082-604	円形	0.84	0.80	0.10	518	4	518号土坑	071-606	円形	0.60	0.56	0.10
486	4	486号土坑	065-602	楕円形	0.63	0.55	0.09	519	4	519号土坑	060-614	楕円形	0.81	0.51	0.18
487	4	487号土坑	064-603	不整形	0.60	0.52	0.15	520	4	520号土坑	075-606	円形	0.73	0.69	0.08
488	4	488号土坑	064-603	円形	0.48	0.34	0.12	521	4	521号土坑	067-581	不整形	1.10	0.74	0.14
489	4	489号土坑	065-603	円形	1.02	0.95	0.15	522	4	522号土坑	055-580	円形	0.60	0.35	0.14
490	4	490号土坑	065-604	円形	0.62	0.58	0.15	523	4	523号土坑	055-572	楕円形	1.68	1.08	0.15
491	4	491号土坑	065-604	円形	0.50	0.42	0.13	524	4	524号土坑	052-578	不整形	1.02	0.89	0.13
492	4	492号土坑	066-605	円形	0.40	0.37	0.08	525	4	525号土坑	057-578	円形	1.24	1.19	0.20
493	4	493号土坑	064.5-605	円形	0.40	0.34	0.13	526	4	526号土坑	058-580	楕円形	0.95	0.76	0.15
494	4	494号土坑	064-605	楕円形	1.02	0.65	0.20	527	4	527号土坑	056-577	円形	1.15	1.09	0.38
495	4	495号土坑	064-605	円形	0.54	0.52	0.16	528	4	528号土坑	064-580	楕円形	0.98	0.77	0.13
496	4	496号土坑	061-597	楕円形	1.35	0.80	0.11	529	4	529号土坑	054-580	円形	0.80	0.77	0.14
497	4	497号土坑	061-595	円形	1.18	1.12	0.10	530	4	530号土坑	053-578	円形	0.78	0.73	0.13
498	4	498号土坑	067-600	円形	1.03	0.98	0.12	531	4	531号土坑	061-584	楕円形	2.34	1.01	0.30
499	4	499号土坑	065-605	不整形	0.73	0.57	0.20	532	4	532号土坑	064-571	不整形	4.60	2.22	0.22
500	4	500号土坑	064-595	方形	1.13	0.82	0.15	533	4	533号土坑	062-572.5	楕円形	1.00	0.75	0.13
501	4	501号土坑	064-600	円形	0.80	0.72	0.10	534	4	534号土坑	057-574.5	楕円形	0.84	0.65	0.12
502	4	502号土坑	066-600	楕円形	0.81	0.64	0.07	535	4	535号土坑	058-573	楕円形	0.70	0.68	0.23
503	4	503号土坑	064.5-594	円形	0.55	0.48	0.12	536	4	536号土坑	058-571	円形	0.90	0.78	0.10
504	4	504号土坑	066-597	円形	1.17	1.08	0.10	537	4	537号土坑	057-573	円形	0.95	0.85	0.13
505	4	505号土坑	061-605	楕円形	0.86	0.70	0.14	538	4	538号土坑	057-573	円形	0.88	0.82	0.17
506	4	506号土坑	065-610	円形	0.58	0.58	0.13	539	4	539号土坑	068-602	楕円形	1.57	0.95	0.23
507	4	507号土坑	069-609	円形	0.43	0.43	0.12	540	4	540号土坑	074-604	不整形	4.42	2.15	0.44
508	4	508号土坑	070.5-607.5	楕円形	1.00	0.60	0.13	541	4	541号土坑	061.5-598	不整形	4.44	0.74	0.07
509	4	509号土坑	071-608	円形	0.53	0.51	0.13	542	4	542号土坑	060-581	楕円形	1.70	0.33	0.08
510	4	510号土坑	070-611	円形	0.75	0.64	0.18	543	5-1	5号土坑	046-502	方形	11.40	5.45	0.18
511	4	511号土坑	069-608	円形	0.85	0.72	0.14	544	5-1	6号土坑	046-498	不整形	13.50	4.00	0.23
512	4	512号土坑	066-606	円形	0.52	0.48	0.11	545	5-1	7号土坑	048-496	方形	9.06	1.70	0.35
513	4	513号土坑	069-612	円形	0.48	0.48	0.18								

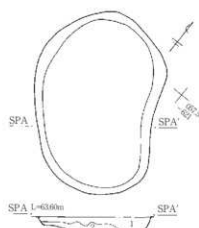
3区3土



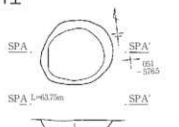
3区4土



3区5土



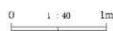
4区1土



4区2土

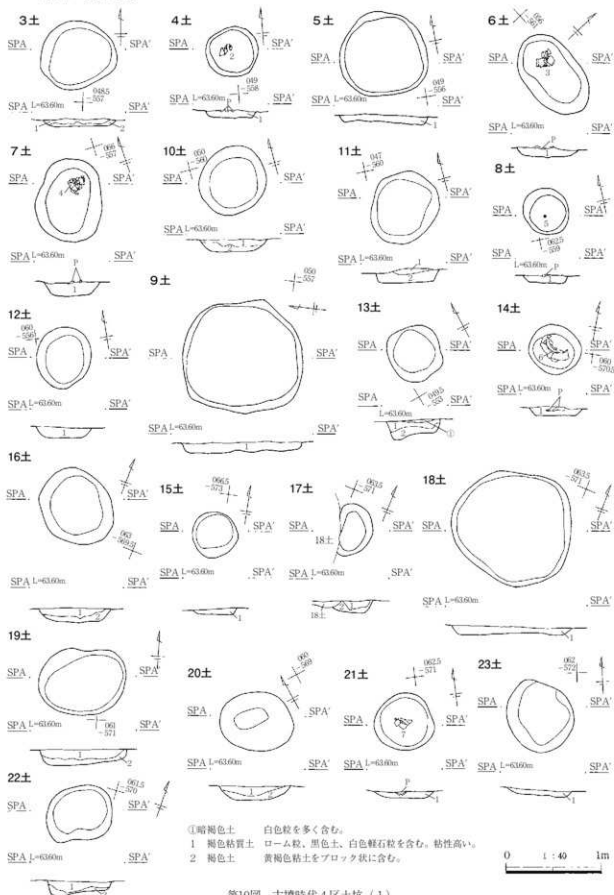


- 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。
- 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。



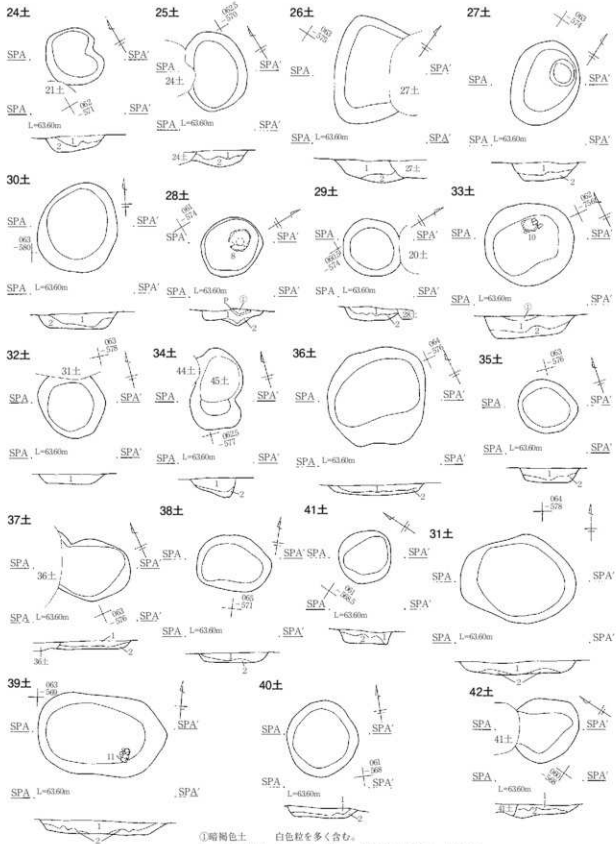
第9図 古墳時代3区・4区土坑

第4章 遺構と遺物



第10図 古墳時代4区土坑(1)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

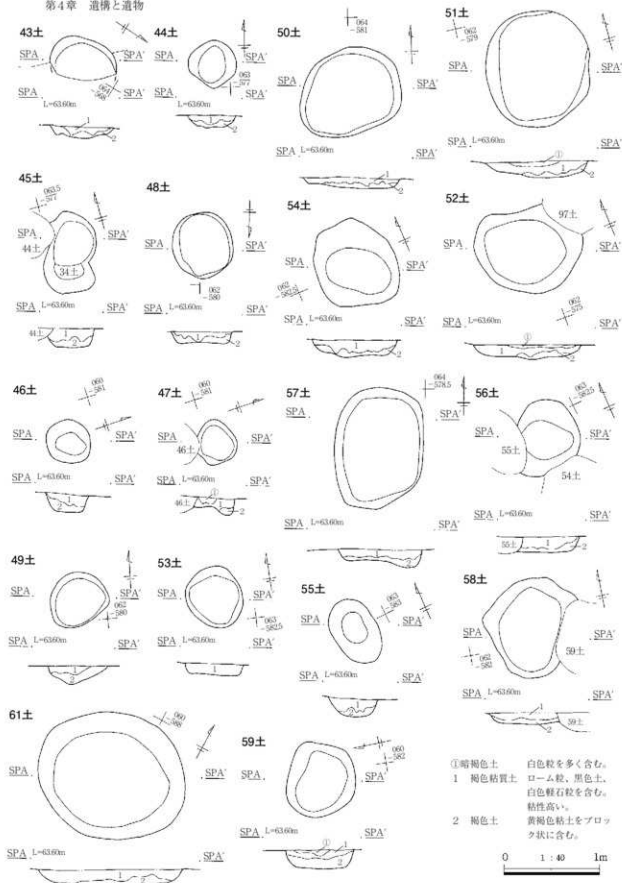


- ① 暗褐色土 白色粒を多く含む。
 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。
 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。

0 1:40 1m

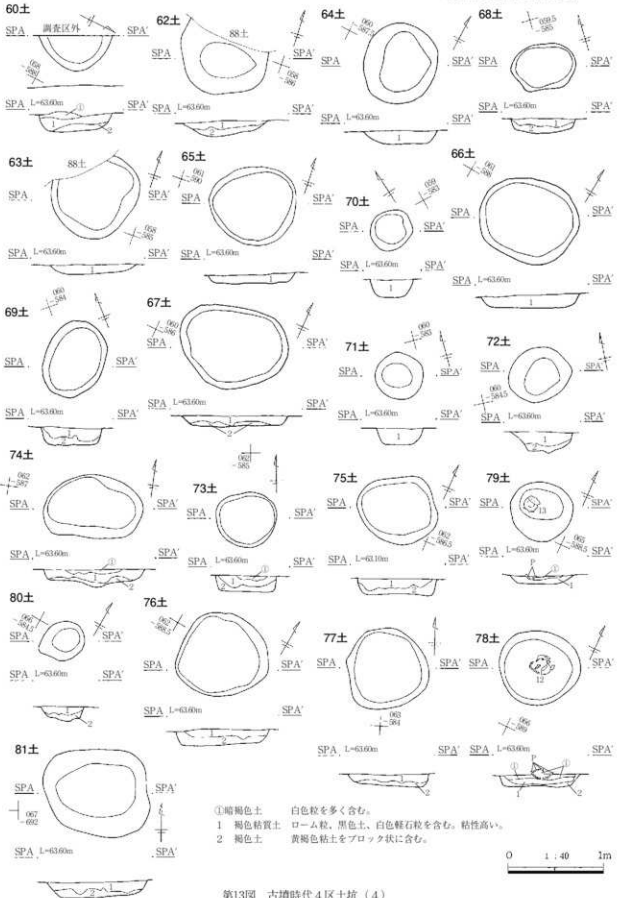
第11図 古墳時代4区土坑(2)

第4章 遺構と遺物



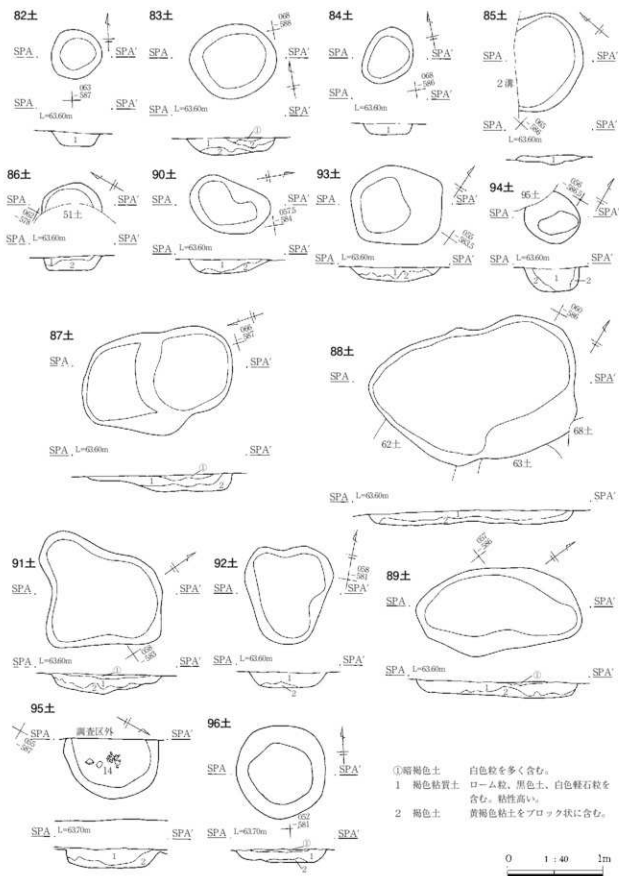
第12図 古墳時代4区土坑(3)

[1] 古墳時代の遺構と遺物



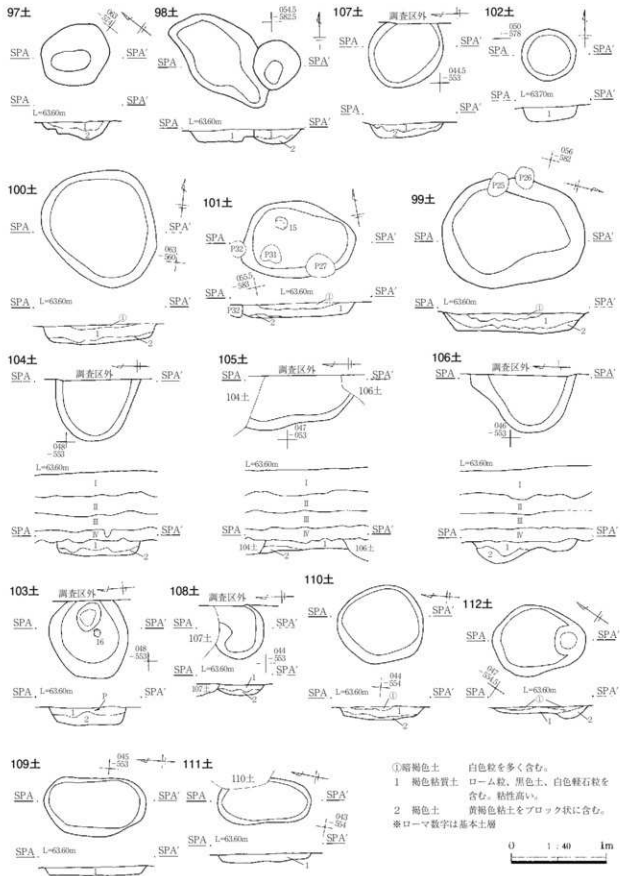
第13図 古墳時代4区土坑(4)

第4章 遺構と遺物



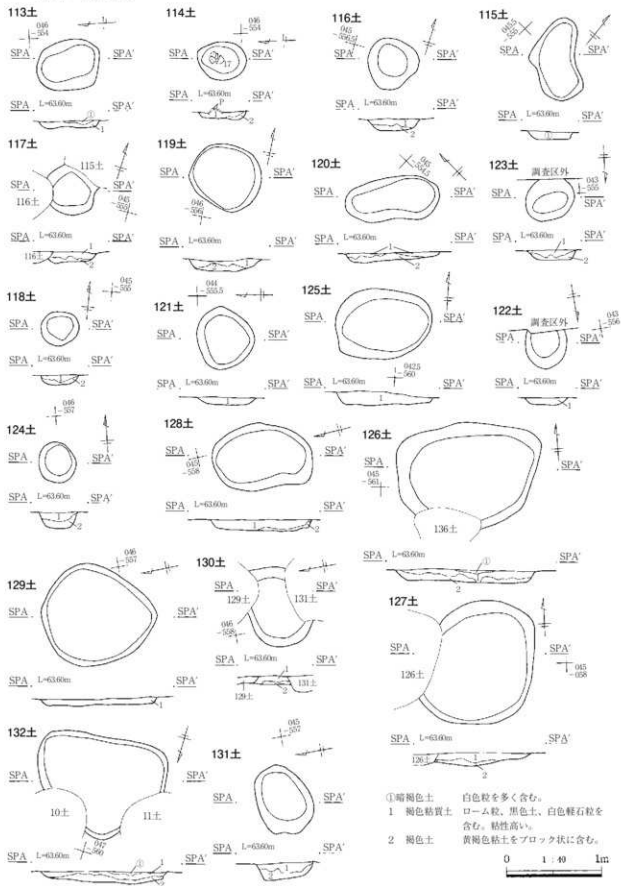
第14図 古墳時代4区土坑(5)

[1] 古墳時代の遺構と遺物



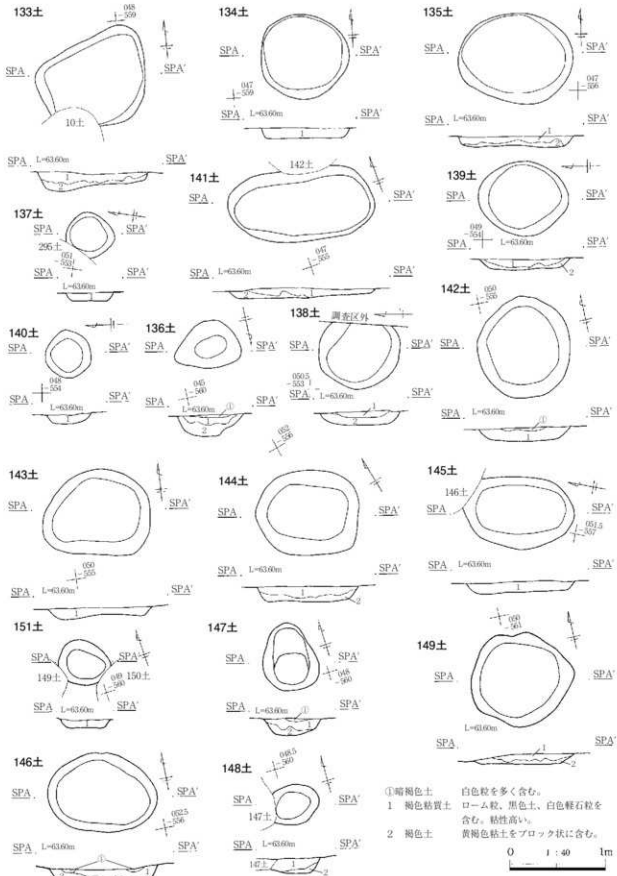
第15図 古墳時代4区土坑(6)

第4章 遺構と遺物



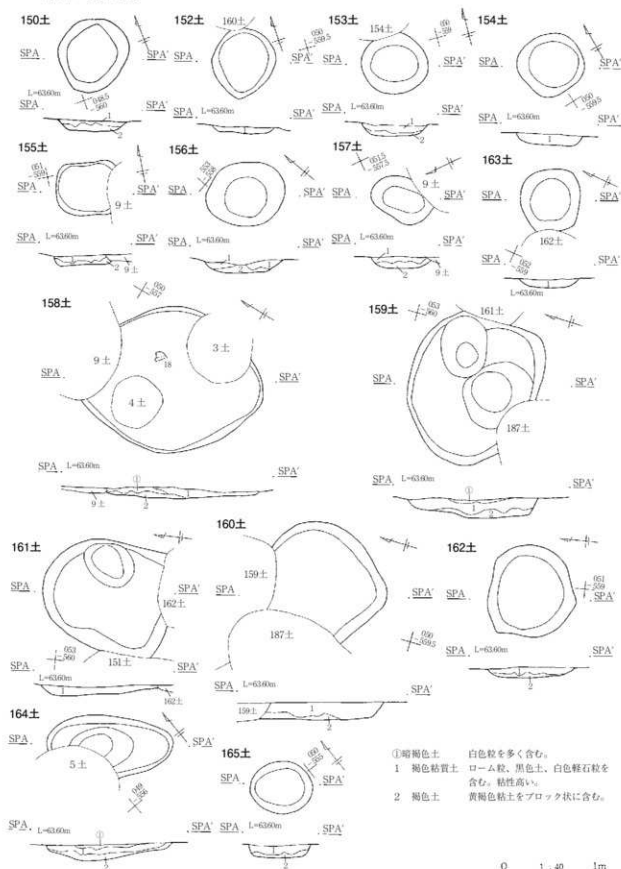
第16図 古墳時代4区土坑(7)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

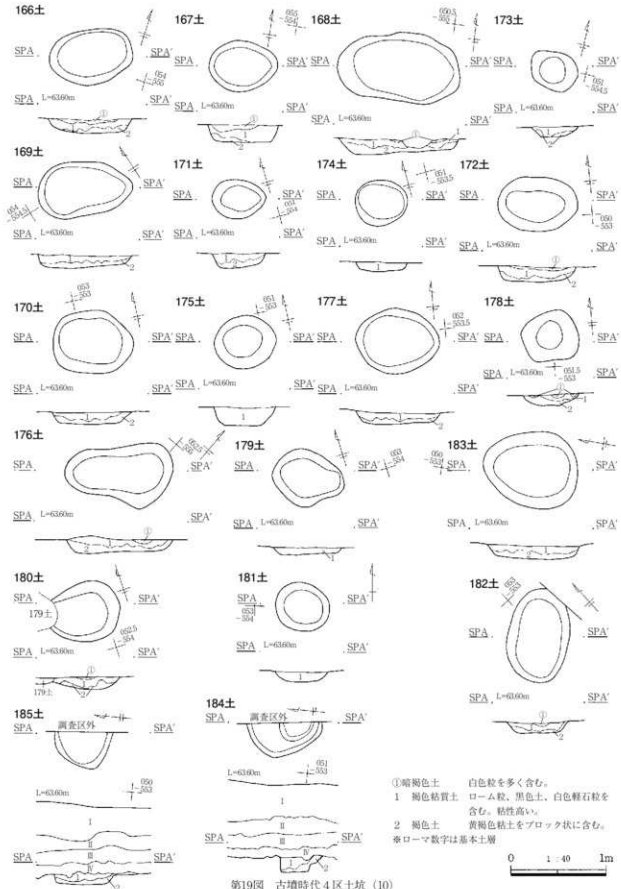


第17図 古墳時代4区土坑(8)

第4章 遺構と遺物

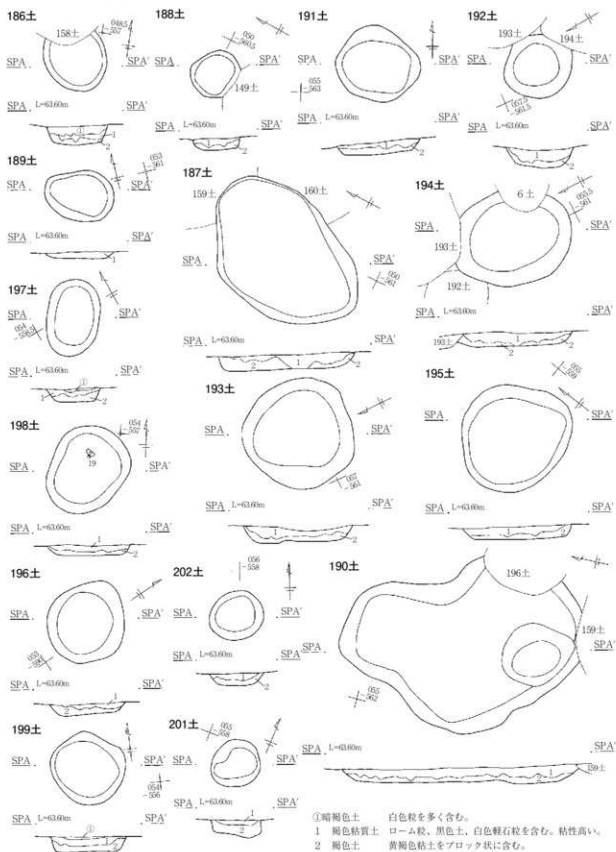


第18図 古墳時代4区土坑(9)



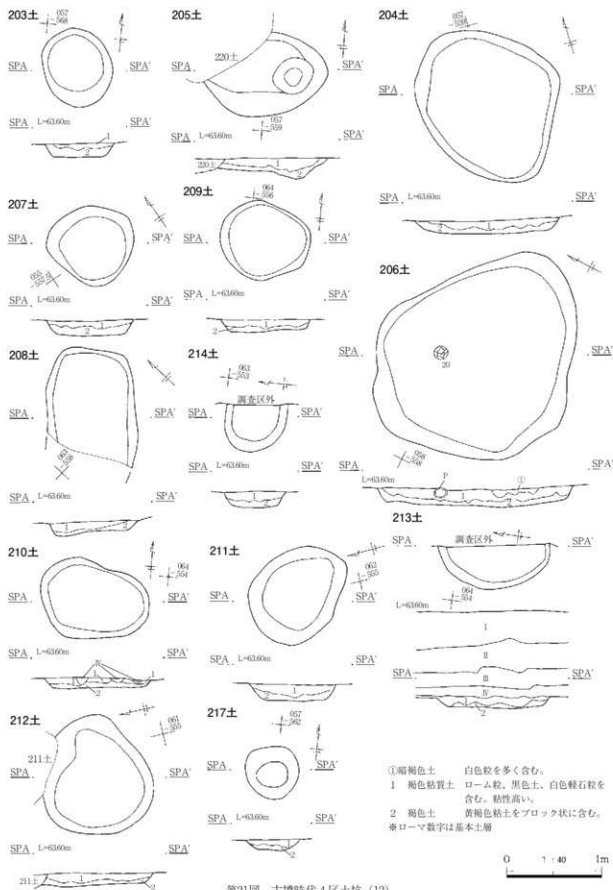
第19図 古墳時代4区土坑(10)

第4章 遺構と遺物



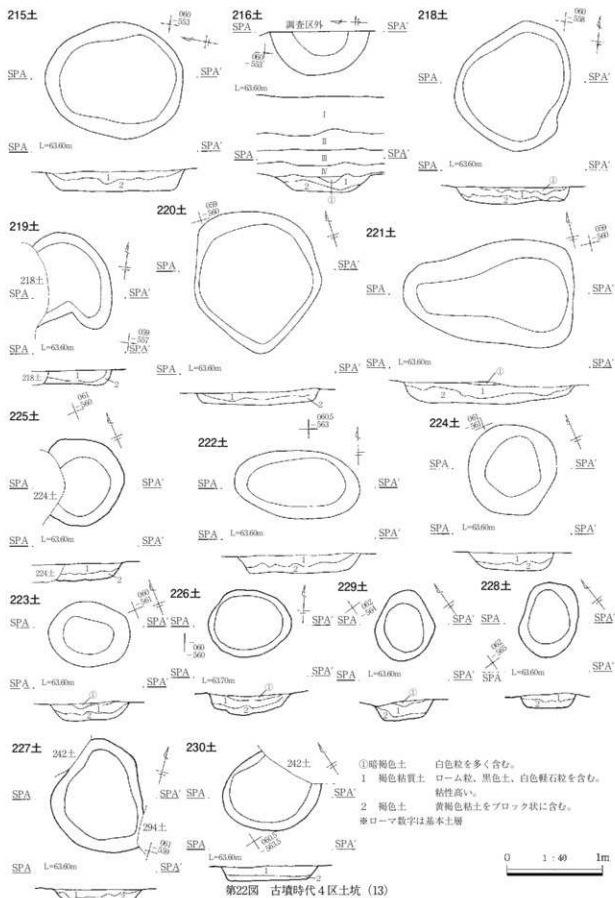
第20図 古墳時代4区土坑(II)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

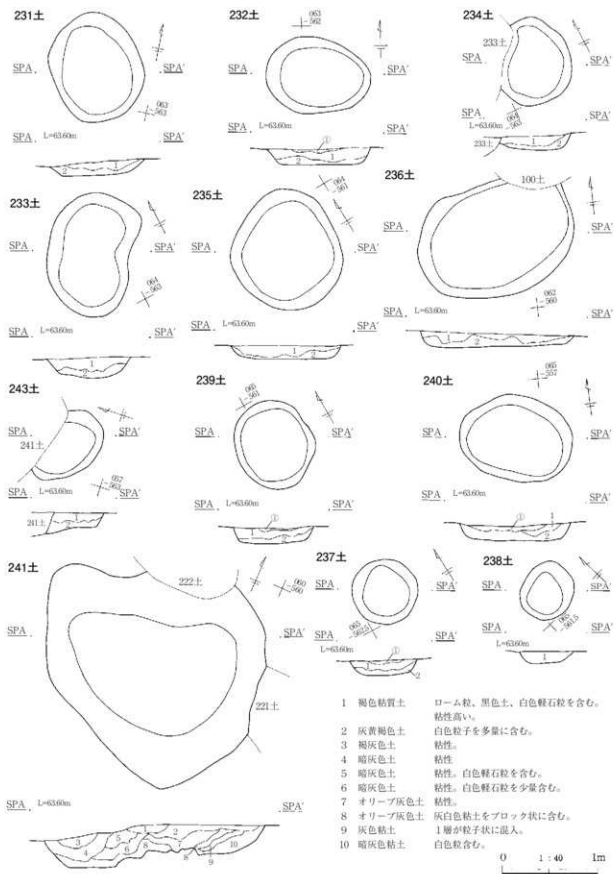


第21図 古墳時代4区土坑 (12)

第4章 遺構と遺物

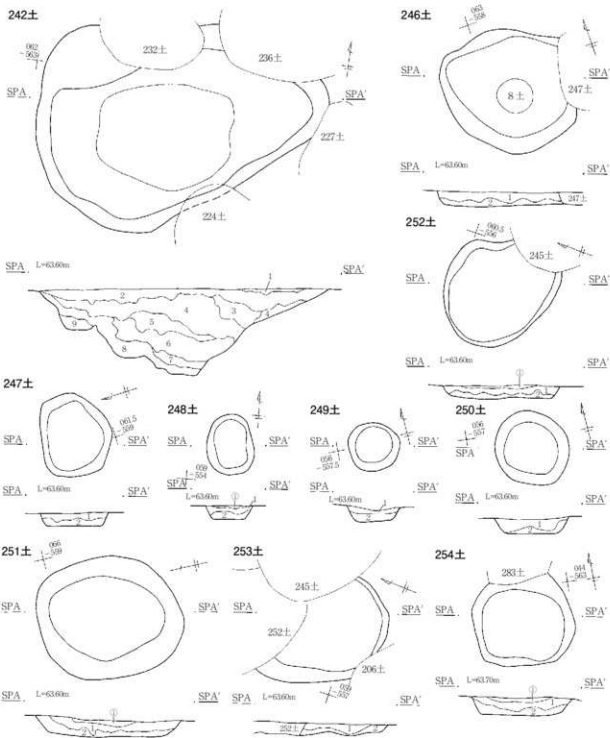


[1] 古墳時代の遺構と遺物



第23図 古墳時代4区土坑(14)

第4章 遺構と遺物

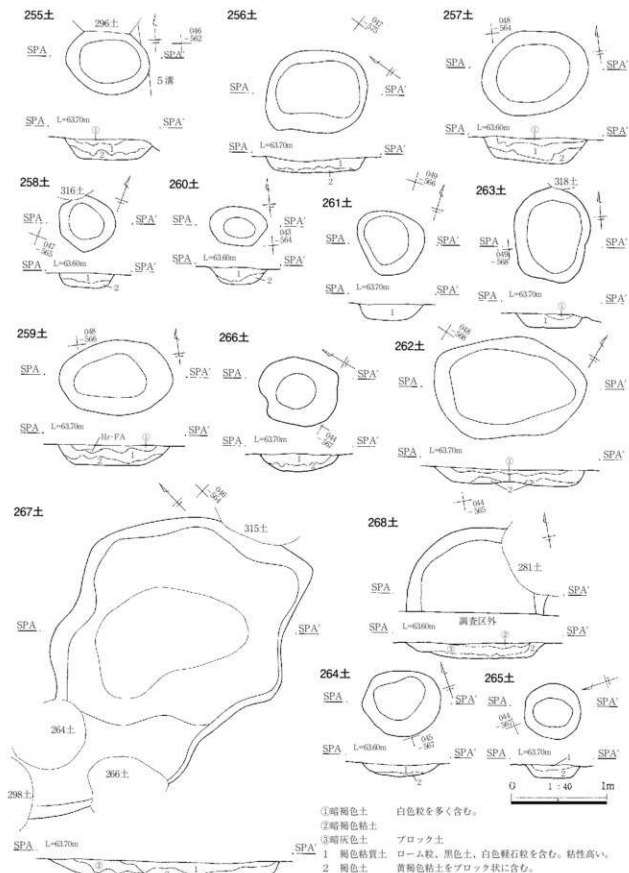


- | | | | |
|---------|-------------------------|---------------|--------------------|
| ①暗褐色土 | 白色粒を多く含む。 | 5 暗灰色土 | 地山のブロック土、褐色粒を少量含む。 |
| 1 褐色粘質土 | ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。 | 6 オリーブ灰色粘質土 | 直径30~50mmのブロック土。 |
| 2 褐色土 | 黄褐色粘土をブロック状に含む。 | 7 オリーブ灰色粘質土主体 | |
| 3 暗灰色土 | 地山のブロック土 | 8 オリーブ灰色砂質土層 | 粘質土をブロック状に含む。 |
| 4 暗灰色土 | 地山のブロック土、褐色粒を多量に含む。 | 9 灰色砂質土層 | 2層をブロック状に含む。 |

0 1 40 1m

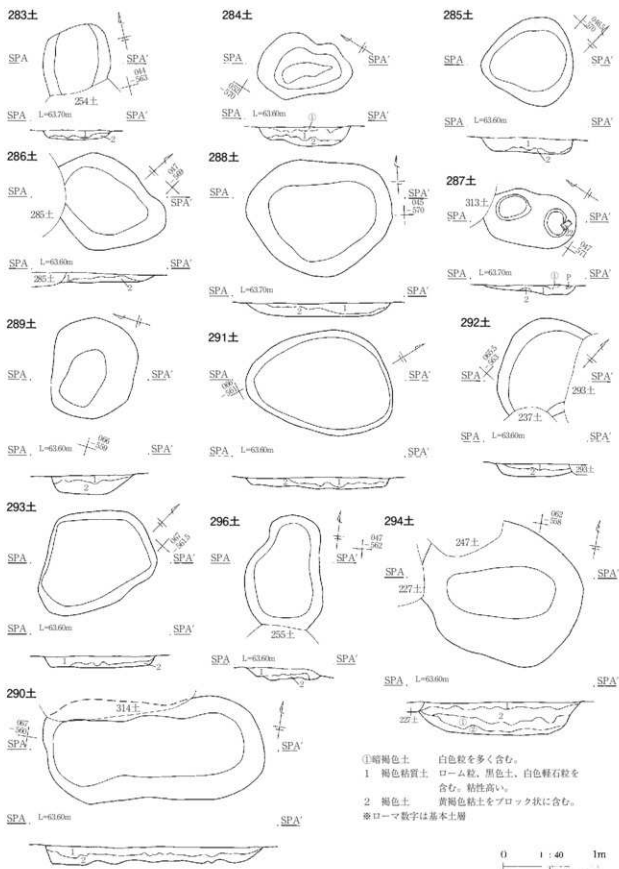
第24図 古墳時代4区土坑 (15)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

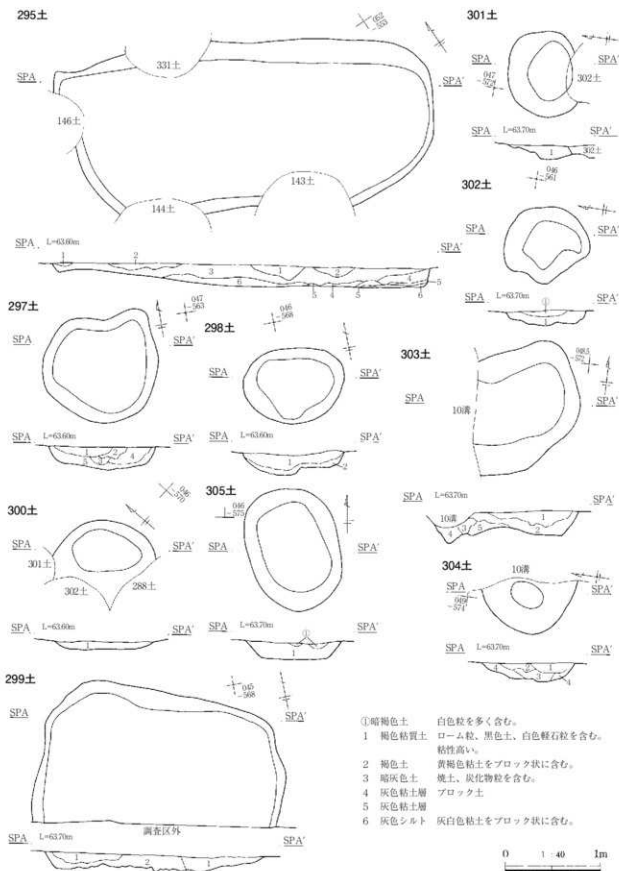


第25図 古墳時代4区土坑(16)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

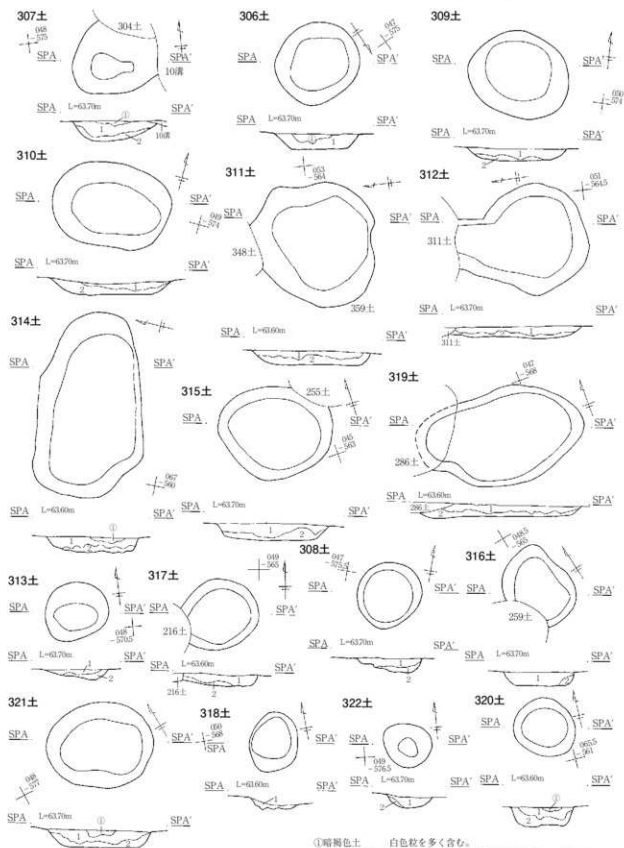


第27図 古墳時代4区土坑 (18)



第28図 古墳時代4区土坑 (19)

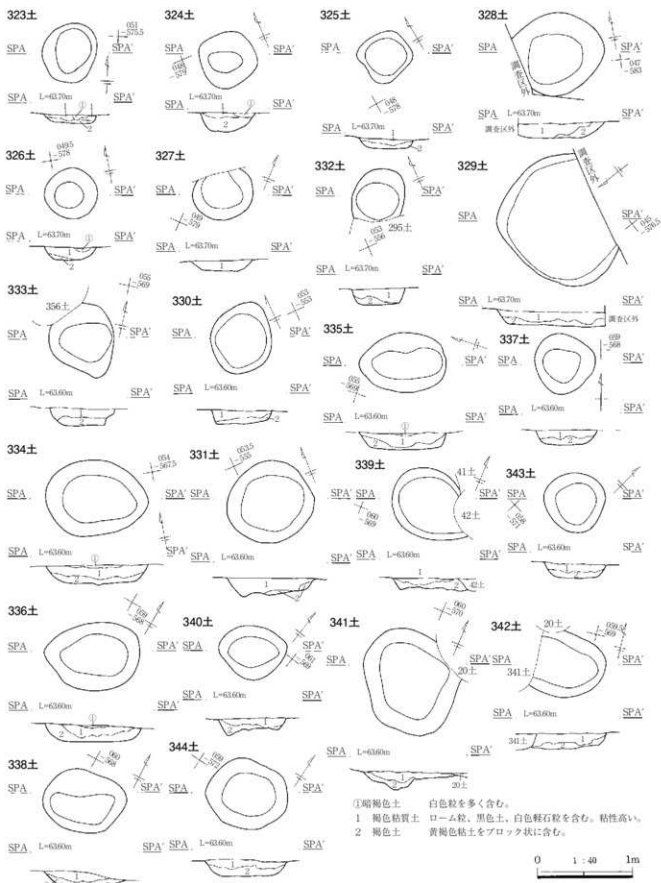
[1] 古墳時代の遺構と遺物



- ① 暗褐色土 白色粒を多く含む。
 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。
 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。

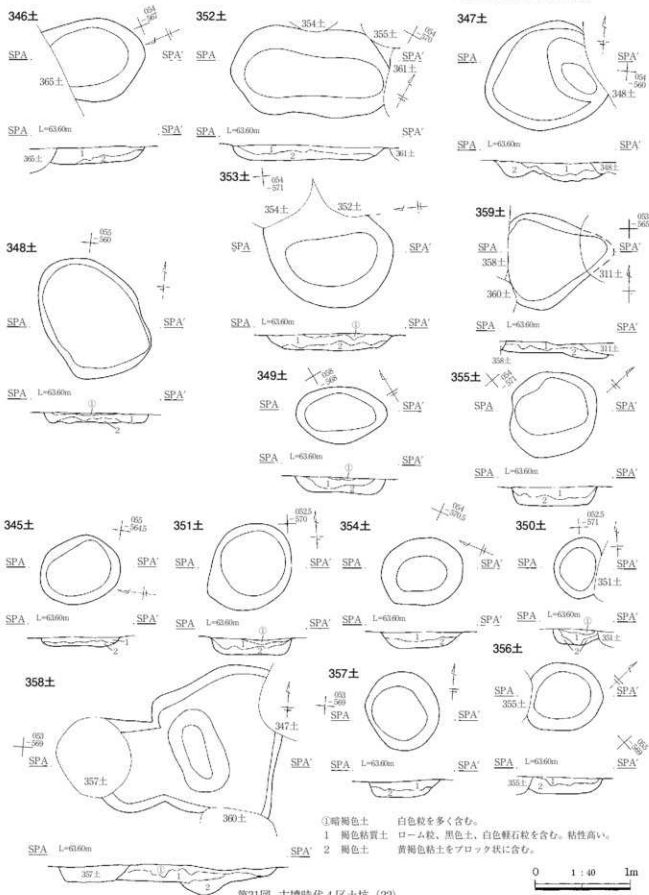
0 1 : 40 1m

第29図 古墳時代4区土坑 (20)



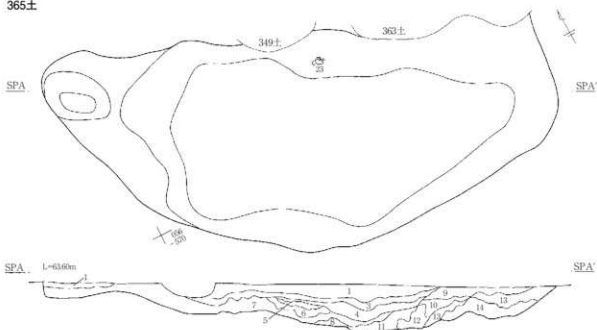
第30図 古墳時代4区土坑(21)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

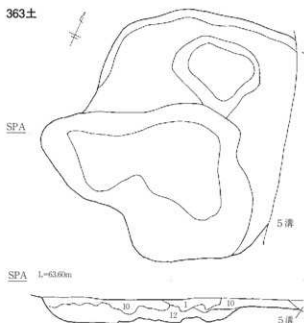


第31図 古墳時代4区土坑(22)

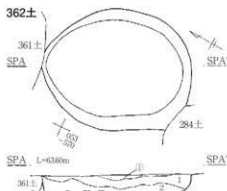
365土



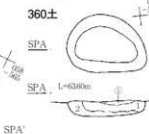
363土



362土



360土



364土

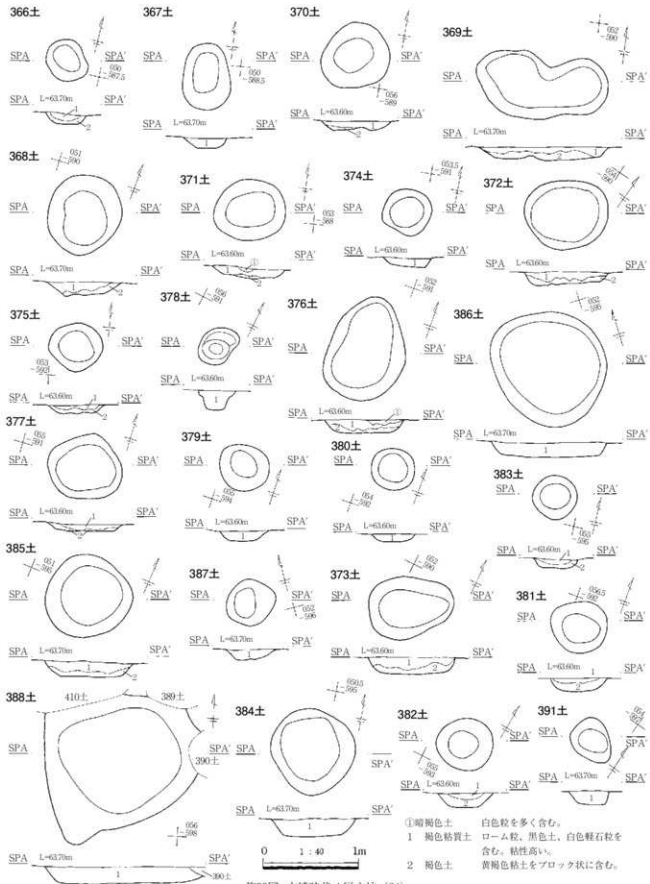


361土



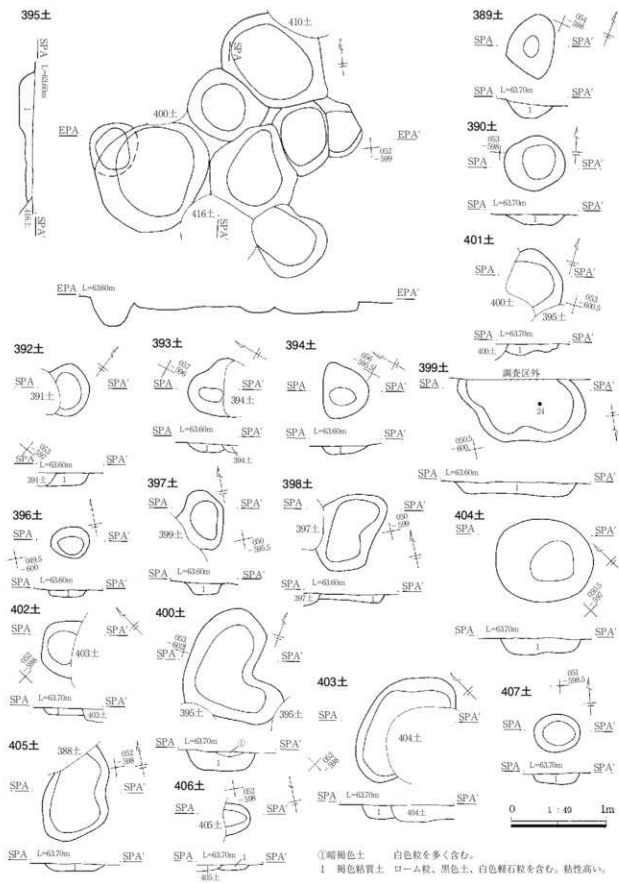
- | | |
|-----------|-------------------------|
| ①暗褐色土 | 白色粒を多く含む。 |
| 1 褐色粘質土 | ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。 |
| 2 褐色土 | 黄褐色粘土をブロック状に含む。 |
| 3 赤灰色土 | 1層をブロック状に含む。粘性。 |
| 4 暗赤灰色土 | 1層をブロック状に含む。粘性。 |
| 5 赤灰色土 | 1層を粒状に含む。粘性。 |
| 6 暗赤灰色土 | 1層をブロック状に含む。粘性強。 |
| 7 灰色粘土 | 1層をブロック状に含む。 |
| 8 オリーブ灰色土 | 1層及び灰白色粘土をブロック状に含む。 |
| 9 灰色粘土 | 1層が粒状に混入。 |
| 10 暗灰色粘土 | 白色粒を含む。 |
| 11 暗灰色粘土 | 4層がブロック状に混入。 |
| 12 黒色粘土 | 地山ブロック混入土。 |
| 13 暗赤灰色土 | 1層をブロック状に含む。粘性やや強。 |
| 14 灰色粘質土 | 直径10~30mmの地山ブロック土を含む。 |

第32図 古墳時代4区土坑(23)



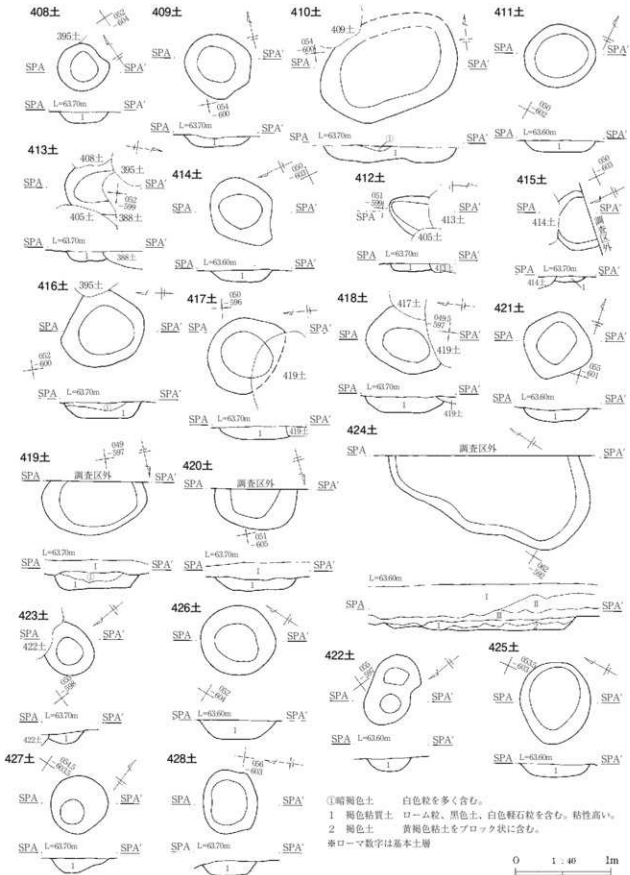
第33図 古墳時代4区土坑(24)

第4章 遺構と遺物



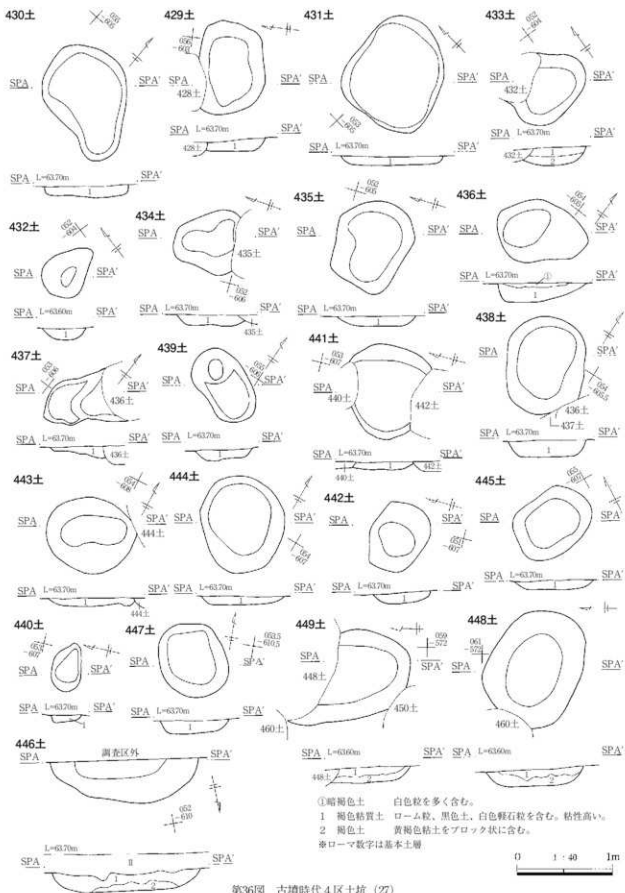
第34図 古墳時代4区土坑 (25)

[1] 古墳時代の遺構と遺物



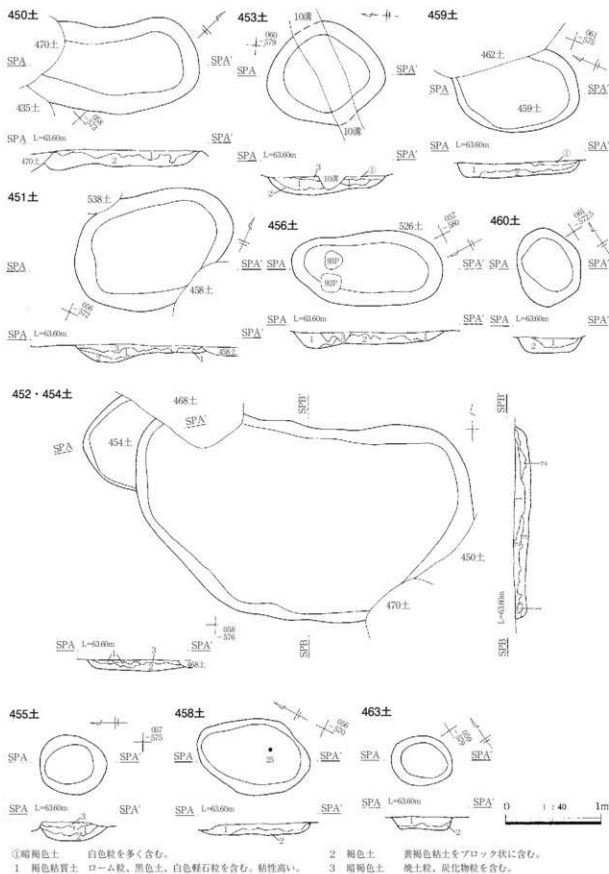
第35図 古墳時代4区土坑 (26)

第4章 遺構と遺物



第36図 古墳時代4区土坑 (27)

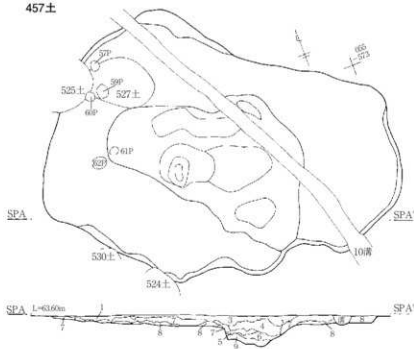
[1] 古墳時代の遺構と遺物



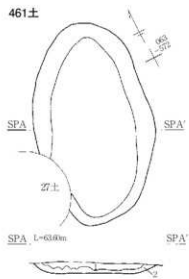
第37図 古墳時代4区土坑 (28)

第4章 遺構と遺物

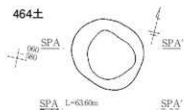
457土



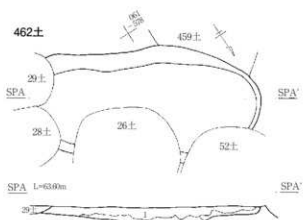
461土



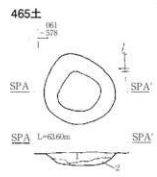
464土



462土



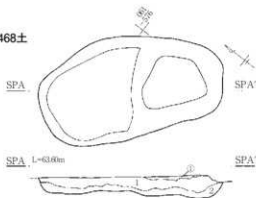
465土



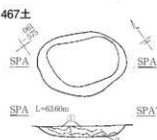
466土



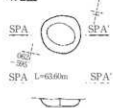
468土



467土



472土

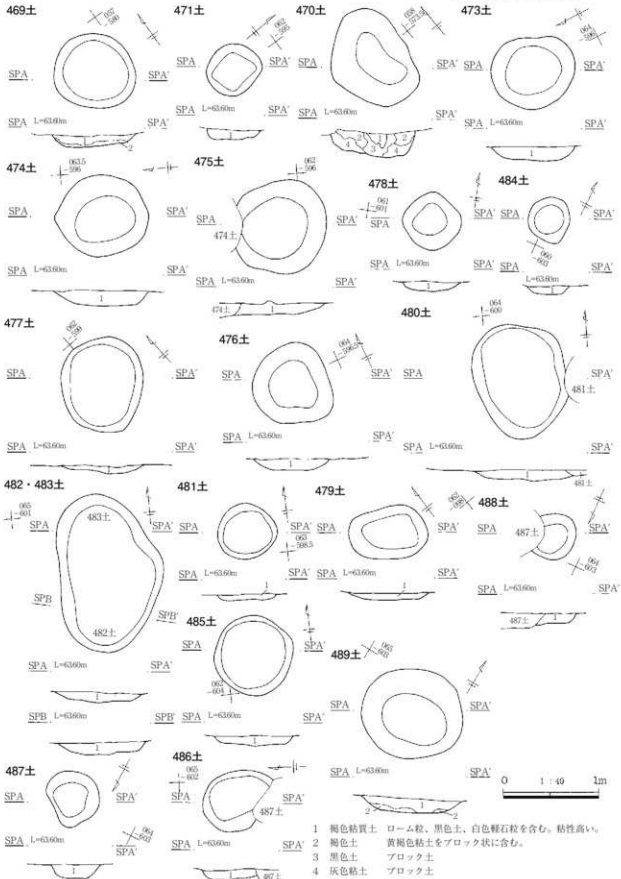


- ① 暗褐色土 白色粒を多く含む。
 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。
 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。
 3 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒を含む。
 4 灰黄褐色土 砂質。焼土粒を含む。
 5 褐色粘質土 ローム粒、黒色土を含む。粘性高い。
 6 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。ブロックやや大。
 7 暗褐色土 白色粒、ローム粒を含む。
 8 陶灰褐色土 白色粘土含む。
 9 陶灰色土 粘性。

0 1:40 1m

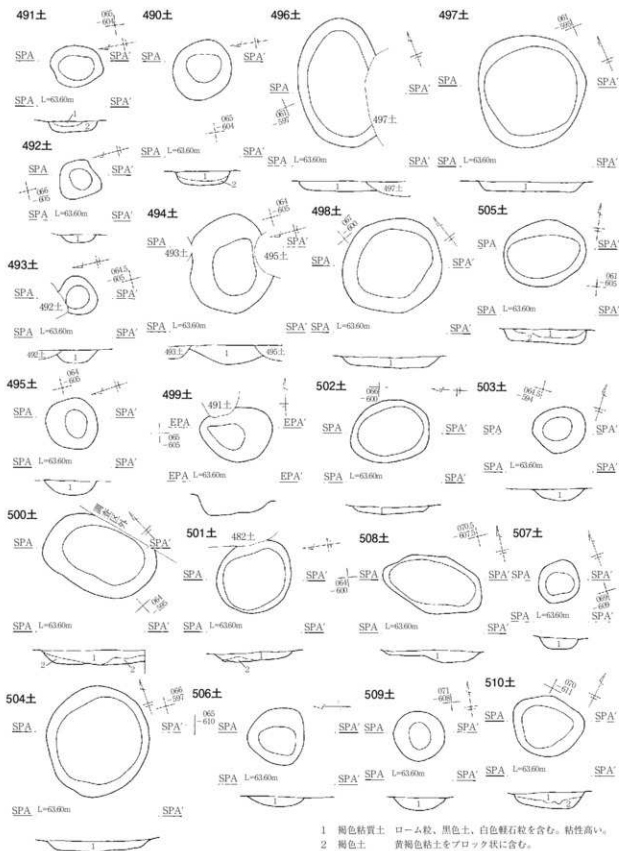
第38図 古墳時代4区土坑(29)

[1] 古墳時代の遺構と遺物



第39図 古墳時代4区土坑 (30)

第4章 遺構と遺物

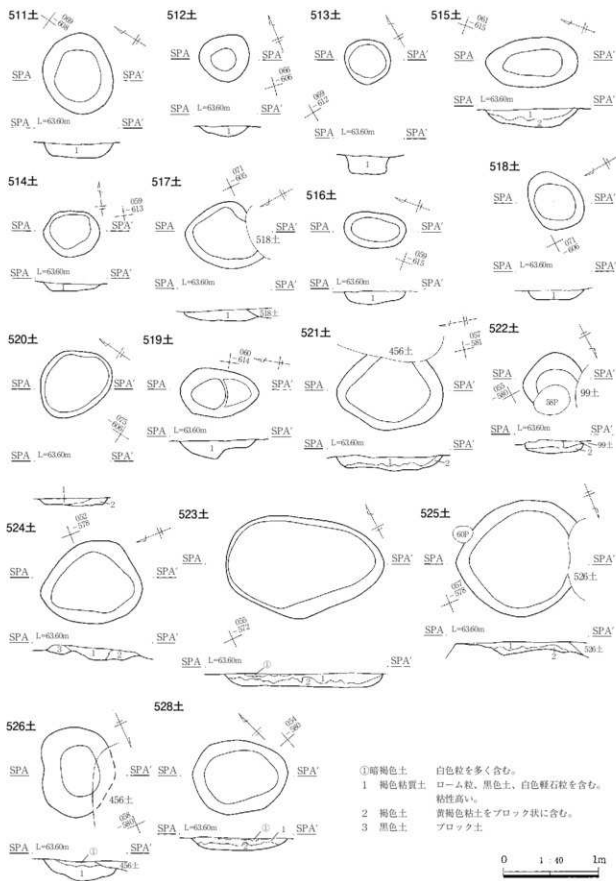


- 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。粘性高い。
 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。

0 1.40 1m

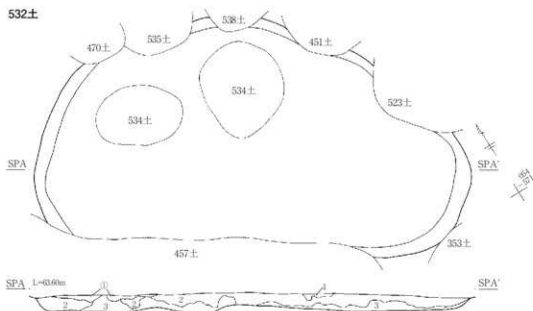
第40図 古墳時代4区土坑 (31)

[1] 古墳時代の遺構と遺物

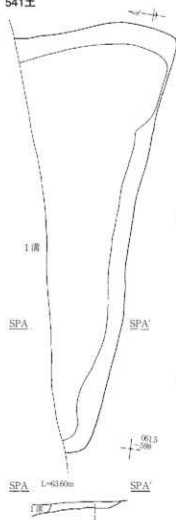


第41図 古墳時代4区土坑 (32)

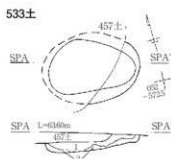
532土



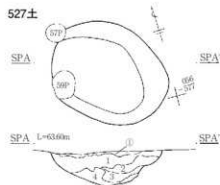
541土



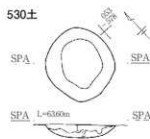
533土



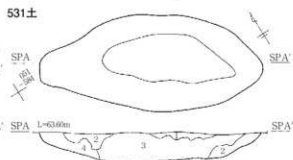
527土



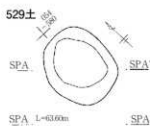
530土



531土



529土

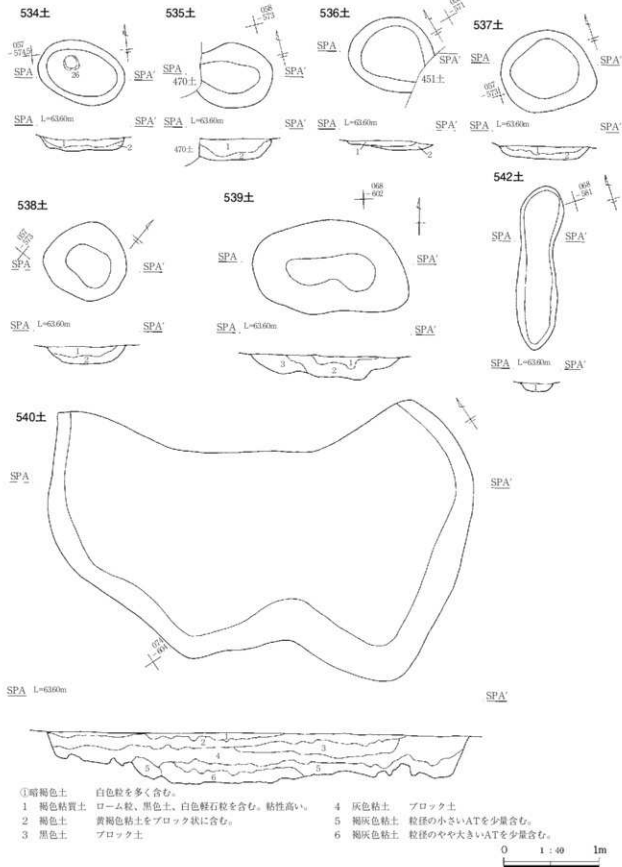


- ① 暗褐色土 白色粒を多く含む。
 1 褐色粘質土 ローム粒、黒色土、白色軽石粒を含む。
 粘性高い。
 2 褐色土 黄褐色粘土をブロック状に含む。
 3 黒色土 ブロック土
 4 灰色粘土 ブロック土

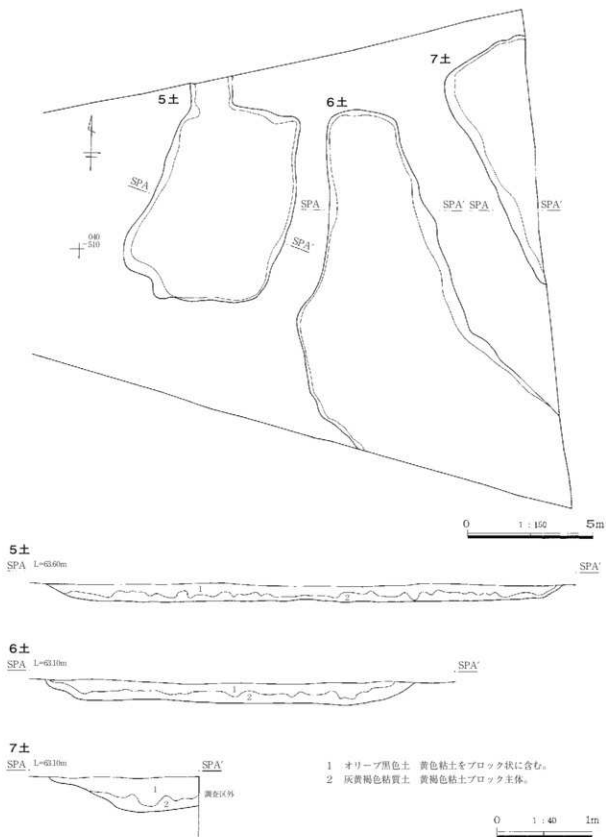
0 1 40 1m

第42図 古墳時代4区土坑 (33)

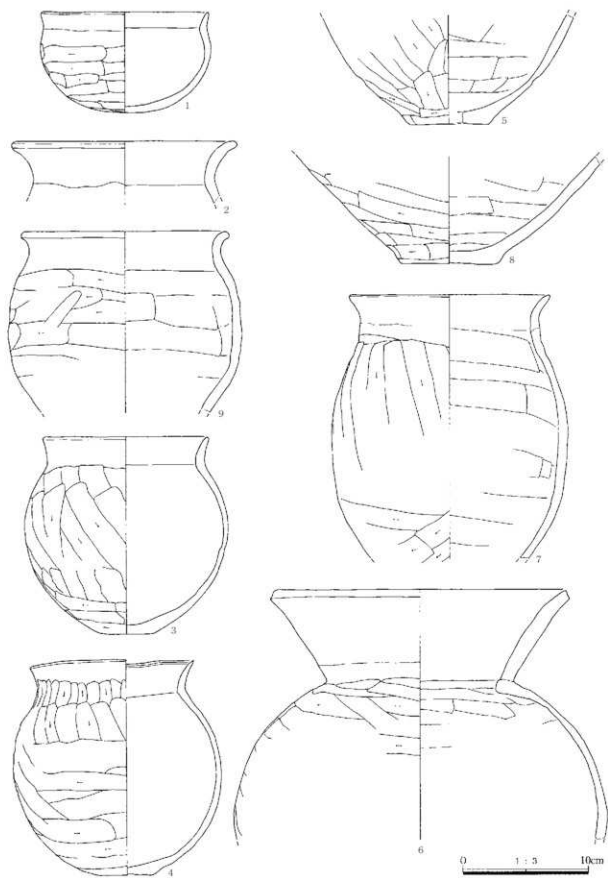
[1] 古墳時代の遺構と遺物



第43図 古墳時代4区土坑 (34)

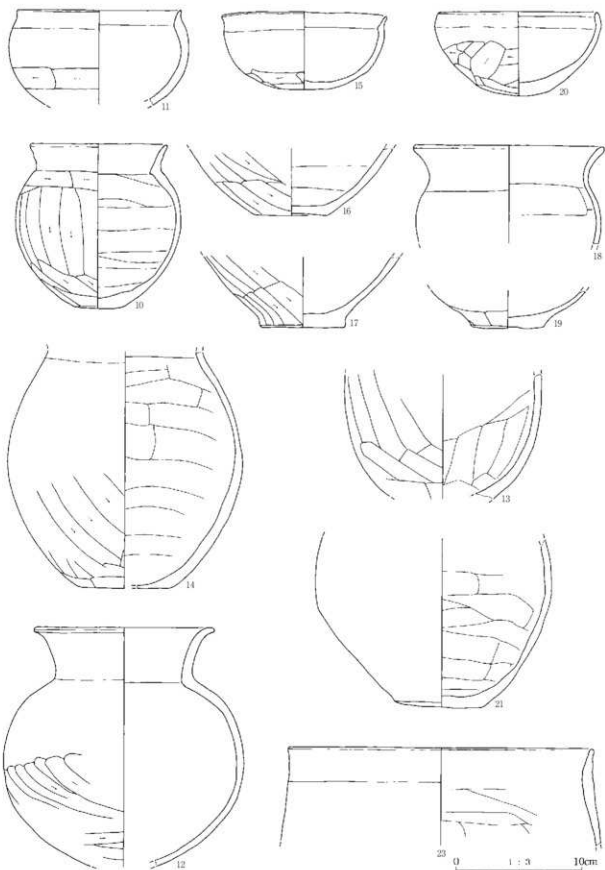


第44図 古墳時代5-1区土坑



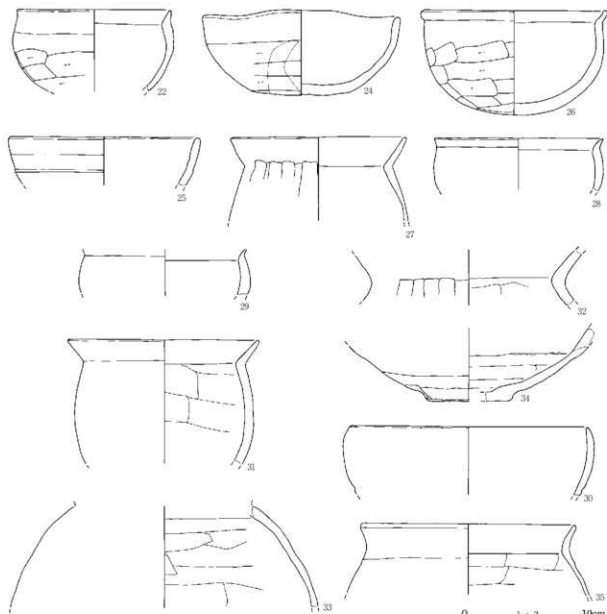
第45図 古墳時代4区土坑出土遺物(1)

第4章 遺構と遺物



第46図 古墳時代4区土坑出土遺物(2)

[1] 古墳時代の遺構と遺物



第47図 古墳時代4区・5区土坑出土遺物

4区・5区土坑 出土遺物観察表

No.	埴田No. 図版No.	種類 器種	出土位置 埋存率	口径 底径	高さ (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴	備考
1	第45図 PL-15	土師器 椀	4区1号土坑	132	8.0	細砂粒多・褐色粒/ 良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、 体部から底部は手持らヘラ削り。	
2	第45図 PL-15	土師器 土師器 口縁部片	4区4号土坑	172		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。器面摩滅のた め単位不鮮明。	
3	第45図 PL-15	土師器 土師器 片	4区6号土坑 2/5	132 4.0	15.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。器面 摩滅のため単位不鮮明。	
4	第45図 PL-15	土師器 土師器 片	4区7号土坑 完形に近い	128 4.1	17.1	細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。器面 摩滅のため単位不鮮明。	
5	第45図 PL-15	土師器 土師器 片	4区8号土坑 底部～胴部片	6.0		細砂粒/良好/ 明赤褐	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナ デ。	
6	第45図 PL-15	土師器 土師器 片	4区14号土坑 口縁～胴部中位片	23.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。	
7	第45図 PL-15	土師器 土師器 片	4区21号土坑 口縁～胴部下位片	15.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。	

第4章 遺構と遺物

No.	種別No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径 底径	高さ (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴 他	備考
8	第45図 PL-15	土師器 甕	4区28号土坑 底部～胴部下位片	7.7		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
9	第45図 PL-15	土師器 甕	4区30号土坑覆土 口縁～胴部下位片	136		細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
10	第46図 PL-15	土師器 甕	4区33号土坑 3/4	106 37	129	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
11	第46図 PL-15	土師器 椀	4区39号土坑 口縁部～体部片	128		細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りであるが、上半は器面摩滅のため単位不鮮明。	
12	第46図 PL-15	土師器 壺	4区78号土坑 口縁部～胴部	140		細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半がヘラナデ、下半がヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
13	第46図 PL-15	土師器 甕	4区79号土坑 胴部下半片			細砂粒/良好/黄灰	外面はヘラ削り、器面摩滅のため不鮮明。内面はヘラナデ。	
14	第46図 PL-16	土師器 甕	4区95号土坑 底部～胴部片	7.0		細砂粒/良好/ 明赤褐色	底部、胴部はヘラ削り、胴部上半は器面剥落のため不鮮明。	
15	第46図 PL-16	土師器 杯	4区101号土坑 3/5	130	6.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部の整形は器面摩滅のため単位不鮮明、底部手持ちヘラ削り。	
16	第46図 PL-16	土師器 甕	4区103号土坑 底部～胴部下位片	6.0		細砂粒/良好/橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
17	第46図 PL-16	土師器 甕	4区114号土坑 底部～胴部下位片	6.5		細砂粒/良好/ にぶい橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
18	第46図 PL-16	土師器 甕	4区128号土坑 口縁～胴部上位片	148		細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、胴部は器面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
19	第46図 PL-16	土師器 甕	4区198号土坑 底部～胴部下位片	5.8		細砂粒/良好/ にぶい橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
20	第46図 PL-16	土師器 杯	4区206号土坑 完形	125	6.6	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部上位はナデ、中位・下位から底部は手持ちヘラ削り。	
21	第46図 PL-16	土師器 甕	4区276号土坑 底部～胴部下半片	6.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部、胴部はヘラ削り、胴部は器面摩滅のため単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
22	第47図 PL-16	土師器 椀	4区287号土坑 口縁部～体部片	120		細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上位ナデ、中位・下位は手持ちヘラ削り。	
23	第46図 PL-16	土師器 甕	4区295号土坑 口縁～胴部上位片	238		細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、胴部は器面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
24	第47図 PL-16	土師器 椀	4区399号土坑 口縁部～底部片	15.8 8.0	6.7	細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。行為演面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。舞は直線ではなく流打っている。	体部から底部にスガが着着。
25	第47図 PL-16	土師器 杯	4区458号土坑 口縁部～体部片	14.8		細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(梗下)は手持ちヘラ削り。	
26	第47図 PL-16	土師器 椀	4区534号土坑 3/4	14.2	8.2	細砂粒・褐色粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
27	第47図 PL-16	土師器 甕	5区5号土坑覆土 口縁～胴部上位片	138		細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部は内外面とも器面摩滅のため単位不鮮明。	
28	第47図 PL-16	土師器 杯	5区6号土坑覆土 口縁～体部上位片	133		細砂粒/良好/ 浅黄橙	口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のため単位不鮮明。	
29	第47図 PL-16	土師器 杯	5区6号土坑覆土 口縁～体部上位片			細砂粒/良好/ 浅黄橙	口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のため単位不鮮明。	
30	第47図 PL-16	土師器 鉢	5区6号土坑覆土 口縁～体部上位片	186		細砂粒/良好/ 浅黄橙	整形は器面摩滅のため単位不鮮明。	
31	第47図 PL-16	土師器 小型甕	5区6号土坑覆土 口縁～胴部上半片	150		細砂粒/良好/ 浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
32	第47図 PL-16	土師器 甕	5区6号土坑覆土 口縁～胴部上半片			細砂粒/良好/ 浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
33	第47図 PL-16	土師器 甕	5区6号土坑覆土 胴部上半片			細砂粒/良好/ 浅黄橙	胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	34と同一個体か。
34	第47図 PL-16	土師器 甕	5区6号土坑覆土 底部～胴部下位片	6.8		細砂粒/良好/ 浅黄橙	胴部内面に輪積み痕が残る。底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	33と同一個体か。
35	第47図 PL-16	土師器 甕	5区7号土坑覆土 口縁～胴部上半片	138		細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

[2] 平安時代の遺構と遺物

本遺跡の平安時代の遺構は、土坑・井戸・溝・水田を検出した。平安時代の遺構が確認されたのは、3～5区、9区、11区である。

9区では平安時代の遺構面が2面確認された。上位面で水田、下位面で土坑と溝が検出された。11区では平安時代の遺構面が3面調査された（第2～4面）。それぞれの面で水田、溝、土坑などが検出された。畦や溝の位置は3面ともほぼ同位置である。上位の第2面がAs-B混土下層の水田面、第3、第4面がそれ以前の平安時代の水田面である。3～5区では土坑、井戸、溝、水田が同一の確認面で検出されているが、それらの遺構が同時期に存在していたかは不明である。

(1) 土坑

本遺跡からは平安時代の土坑が、3～5、9、11区で土坑が検出している。

3区の土坑 3区では平安時代の土坑が2基検出された。発掘調査時に1号土坑、2号土坑と付して調査したためにここでも本遺構を1号土坑、2号土坑として報告するが、1号土坑、2号土坑は3区1号溝の一部である可能性が高い。1号土坑は短軸0.87m、深さ0.32m、2号土坑は短軸0.85m、深さ0.20mを測る。土坑群の覆土には、As-Bが含まれ

ないため、12世紀以前の所産であると考えられる。いずれの覆土も自然埋没土である。1号土坑、2号土坑、1号溝とも出土遺物が確認されなかった。5～6号土坑は遺構の平面形状は不整形で長軸10m以上と長大である。

4区の土坑 4区では平安時代の土坑が1基検出された。遺構の規模は長軸5.76m、短軸1.87m、深さ0.22mを測る。4区からは500基以上の土坑群が検出されたが、平安時代に比定されたのは本遺構1基のみである。本遺構には平安時代に比定される4区1号井戸が隣接する。本遺構の覆土は1層である褐色粘土ブロックを含む暗褐色土と2層である褐色粘土ブロックを含む黒褐色土層からなる。いずれの覆土も人為的な埋没土である可能性が高い。

本遺構から遺物は出土しなかったが、隣接する4区1号井戸からは平安時代の遺物の出土があり、覆土が類似していることから平安時代の所産であると考えた。

5区の土坑 5-1区では平安時代の土坑が5基、5-2区では平安時代の土坑が12基検出された。遺構の規模の詳細は一覧表に示した。いずれの覆土も人為的な埋没土である可能性が高い。

土坑から遺物は出土しなかった。

平安時代の土坑一覧表

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			
				長軸	短軸	深さ	
1	3	1号土坑	090-610	不整形	-	0.87	0.32
2	3	2号土坑	070-620	不整形	-	0.85	0.20
3	4	200号土坑	068-576	長方形	5.76	1.87	0.22
4	5-1	1号土坑	047-534	長方形	2.59	1.85	0.42
5	5-1	2号土坑	048-530	不整形	1.83	0.51	0.35
6	5-1	3号土坑	045-524	長方形	4.46	0.90	0.69
7	5-1	4号土坑	045-520	不整形	3.30	0.68	0.23
8	5-1	9号土坑	043-532	長方形	1.57	0.75	0.26
9	5-2	1号土坑	082-538	不整形	3.92	1.84	0.40
10	5-2	2号土坑	086-551	不整形	1.90	1.67	0.20
11	5-2	3号土坑	086-546	楕円形	1.39	1.00	0.05
12	5-2	4号土坑	074-527	楕円形	0.90	0.64	0.20
13	5-2	5号土坑	064-538	円形	0.42	0.36	0.14
14	5-2	6号土坑	065-538	楕円形	0.56	0.38	0.08
15	5-2	7号土坑	074-530	不整形	1.28	0.52	0.10
16	5-2	8号土坑	067-529	楕円形	0.56	0.45	0.14
17	5-2	9号土坑	063-527	長方形	2.75	0.80	0.08
18	5-2	10号土坑	059-526	不整形	1.22	0.70	0.06
19	5-2	11号土坑	079-543	円形	0.86	0.84	0.26
20	5-2	12号土坑	078-546	円形	0.64	0.30	0.25
21	9	1号土坑	022-338	楕円形	0.88	0.64	0.09
22	9	2号土坑	024-339	楕円形	1.00	0.82	0.16
23	11	1号土坑	000-315	不整形	2.08	0.95	0.15

第4章 遺構と遺物

9区の土坑 9区では平安時代の土坑が2基検出された。遺構の規模の詳細は一覧表に示した。1号土坑は長軸0.88m、短軸0.64m、深さ0.09m、2号土坑は長軸1.0m、短軸0.82m、深さ0.16mを測る。覆土にAs-Bを含まない。1号土坑、2号土坑とも遺物は確認されなかった。

いずれの覆土も自然埋没土であると考えられる。

11区の土坑 11区では平安時代の土坑が1基検出

された。1号土坑は長軸2.08m、短軸0.95m、深さ0.15mを測る。出土遺物は確認されなかった。

覆土はシルト質の自然埋没土である。

土坑の所見 平安時代の多くの土坑で覆土にAs-Bを含まないことから12世紀以前の所産であると考えられる。平安時代とした土坑の中で、9区2号土坑でしか遺物は出土していないが、覆土との比較などから平安時代に比定した。

3区1土

SPA L=6360m



3区2土

SPA L=6360m

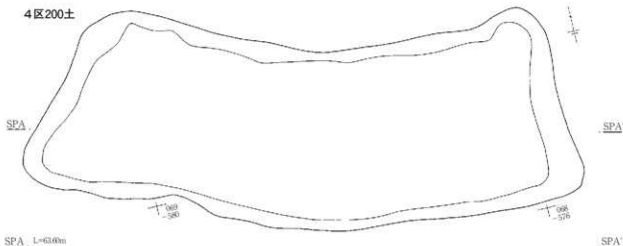


※平面図、ポイントは付図

- 1 黒褐色土 粘性あり。
- 2 褐色土 シルト質。直径1mm以下の褐色の砂粒を多く含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質。直径1mm以下の褐色の砂粒を多く含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。
- 4 3層より灰色強い。
- 5 灰黄褐色土 砂層。粒径は1mm以下。
- 6 黄褐色土 砂層。粒径は1～3mm。
- 7 灰色土層 シルト質。

0 1 : 80 2m

4区200土

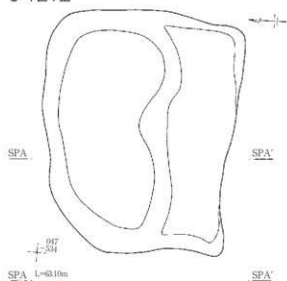


- 1 暗褐色土 褐灰色粘土ブロック、褐色粘土ブロックを含む。直径5～10mm。
- 2 黒褐色土 褐色粘土ブロックを含む。直径5～20mm。

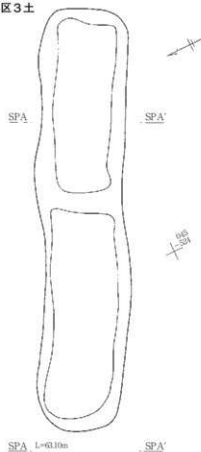
0 1 : 40 1m

第48図 平安時代3区・4区土坑

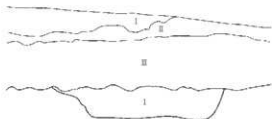
5-1区1土



5-1区3土



5-1区2土

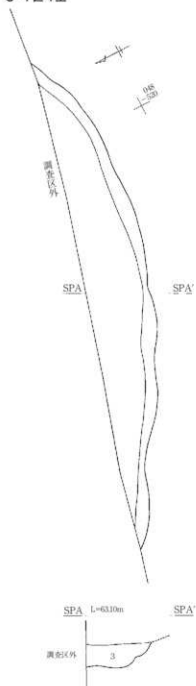


- 1 黒褐色土 黄色粘土ブロックを多量に含む。直径10~100mm。
 - 2 褐灰色土 黒褐色粘土ブロック、灰色粘土ブロック主体。直径30~50mm。
- ※ローマ数字は基本土層

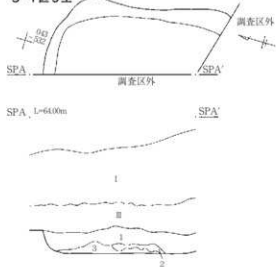


第49図 平安時代5-1区土坑

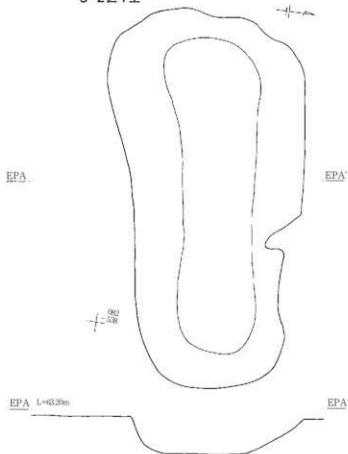
5-1区4土



5-1区9土



5-2区1土



1 黒褐色土 黄色粘土ブロックを多量に含む。直径10~100mm。

2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。

3 黒褐色土 As-B、黄色粘土ブロックを多量に含む。

※ローマ数字は基本土層

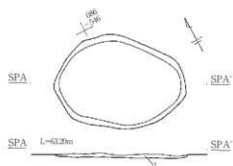


第50図 平安時代5-1区・5-2区土坑

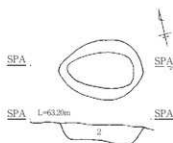
5-2区2±



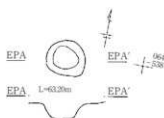
5-2区3±



5-2区4±



5-2区5±



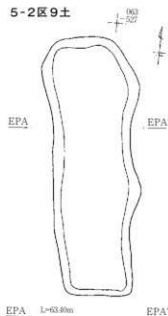
5-2区6±



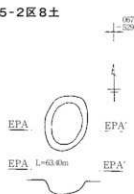
5-2区7±



5-2区9±



5-2区8±



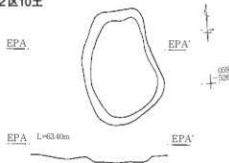
- 1 黒褐色土 黄色粘土ブロックを多量に含む。
直径10～100mm。
- 2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。

0 1 : 40 1m

第51図 平安時代5-2区土坑

第4章 遺構と遺物

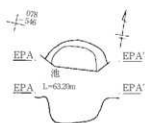
5-2区10土



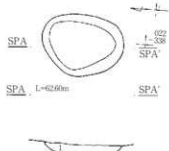
5-2区11土



5-2区12土



9区1土

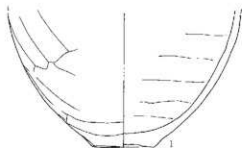
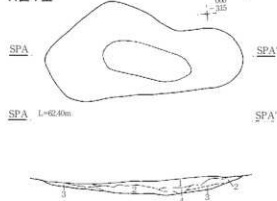


9区2土



1 黒褐色土 砂質。白色軽石粒を含む。

11区1土



0 1 : 40 1m

- 1 褐灰色土 シルト質。細粒の白色軽石粒を含む。
- 2 褐灰色土 砂質。
- 3 灰色土 シルト質。粘性あり。
- 4 暗灰色土 シルト質。

0 1 : 3 10cm

第52図 平安時代5-2区・9区・11区土坑、9区2号土坑出土遺物

9区2号土坑 出土遺物観察表

3a	検取No. 図取No.	種類 器種	出土位置 現存	口径 底径	高さ (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴 他	備考
1	第52図 PL-16	土器器 葉	9区2号土坑 底部～胴部下半片	5.0		細砂粒/良好/ にぶい橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナ ズ。内外面と器面摩滅のため詳細不詳 明。	

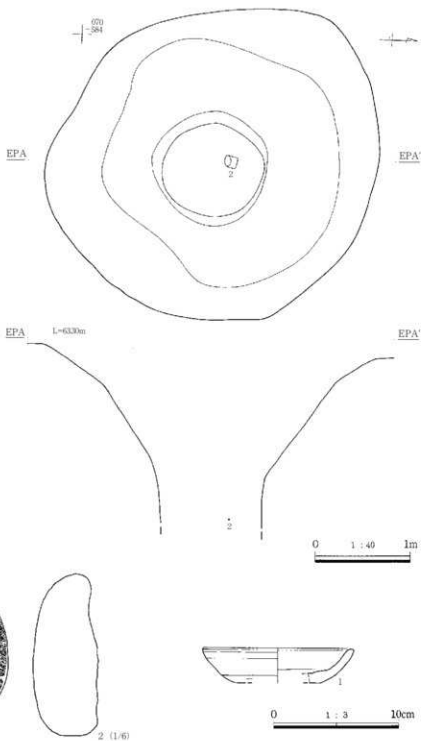
(2) 井戸

本遺跡からは平安時代の井戸が3基検出された。4区で1基、11区で2基の検出である。

4区の井戸 1号井戸は長軸3.5m、短軸3.2mを測る。

本遺構の覆土の詳細な記載はないがブロックを含む暗褐色土と褐色粘土ブロックを含む黒褐色土層からなる4区200号土坑と類似した覆土であるとの調査所見を得た。

本遺構からは掲載した須恵器坏、曲物柄杓の他に土師器・須恵器の小片が出土しているが、平安時代以外の遺物の混入はない。



第53図 平安時代4区井戸、4区1号井戸出土遺物

4区1号井戸 出土遺物観察表

No.	検出No. 図取No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径 底径	高さ (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴 他	備考
1	第53区 PL-16	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	118 68		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転右回りか。底部から 体部下半は回転ヘラ削り。	
2	第53区 PL-16	石製品	埋没土中 口縁部～底部片	25.6 重厚	10.2 (厚さ)	粗粒輝石安山岩 (石材)	重さ：103kg。背面側に幅6mmのU字 状の工具痕・打痕。破損部裏面側にも 平方状の工具痕がある。用途不明。	

第4章 遺構と遺物

曲物柄杓 4区1号井戸から曲物柄杓が出土した。

『木器集成図録』（近畿古代編1985奈良国立文化財研究所）によると、曲物柄杓は円形曲物を身にして棒状の柄を取り付けたもので、身はいずれも釘結合であるという。身の側板の対応位置に長方形の柄孔をあけ、身の中を斜めに横切るように柄を装着するが、上寄りの孔が大きく中位の孔が小さい特徴がある。

本遺物は円形曲物であるが、側板上寄りに1.5×1.0cm大の長方形の明瞭な孔と中位に直径0.3cmの小さな孔があることから曲物柄杓とした。本遺物は曲物柄杓の身のみ出土で、柄は出土しなかった。

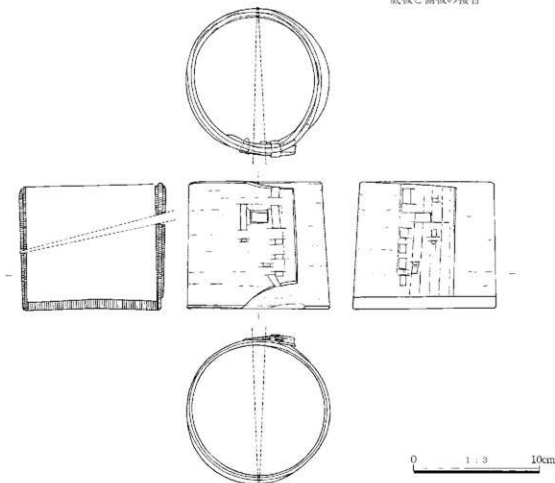
底板の直径は約11.4cmのほぼ円形で、側板の高さは約10.0cmを測る。側板は二重に巻いており、榍皮接合部のみ三重である。上寄りの柄の孔は側板の榍皮接合部の脇にあげられており、孔の脇をさらに榍

皮で接合することにより側板を補強している。

『木器集成図録』によると曲物柄杓では側板と底板の接合は木釘による釘結合の出土例が確認できるとのことであるが、本遺物の側板と底板の接合には木釘による結合がない。底板側面に側板を強く締め付けることにより接合している（下写真）。



底板と側板の接合



第54図 平安時代4区1号井戸出土遺物

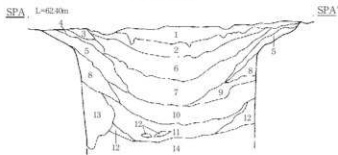
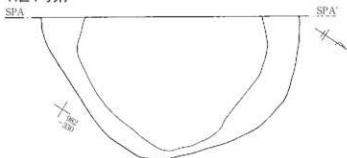
底板、側板ともにヒノキ属の可能性が高いと樹種同定の所見を得た。本遺物は共存する遺物から平安時代の所産であると考えられる。

11区の井戸 1号井戸は、平面形状円形で直径約2.7mを測る。覆土上層にAs-B混土が確認され、12

世紀初頭以前には埋没していた井戸であると推定される。

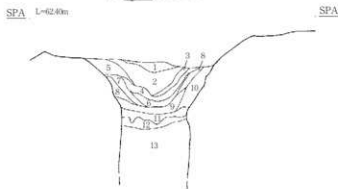
2号井戸は、平面形状円形で直径約2.2mを測る。上層は削平されており明らかではないが、As-Bはなく、12世紀初頭以前には埋没していた井戸であると推定される。

11区1号井戸



- | | | |
|----|---------|--------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 砂質。As-Bを含む。 |
| 2 | にぶい黄褐色土 | 褐灰色テフラ含む。As-B主体。 |
| 3 | 黒褐色土 | 粘質土。白色軽石含む。 |
| 4 | 黒褐色土 | 粘質土。白色軽石、ブロック土を含む。 |
| 5 | 褐灰色土 | 粘質土ブロック、砂質土混土。 |
| 6 | 黒褐色土 | 粘質土。 |
| 7 | 褐灰色土 | 粘質土ブロック。 |
| 8 | 灰黄褐色土 | 地山ブロック土主体。 |
| 9 | 褐灰色土 | 粘質土主体。砂質土を含む。 |
| 10 | 褐灰色土 | 地山ブロック、粘質土混。 |
| 11 | 黒褐色土 | 粘質土。 |
| 12 | 褐灰色土 | 砂質。 |
| 13 | 灰黄褐色土 | 地山ブロック |
| 14 | 黒色土 | 粘土と砂質土が層状に堆積。 |

11区2号井戸



- | | | |
|----|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 砂質。地山ブロック土を少量含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | 砂質。地山ブロック土を多量に含む。 |
| 3 | 黒色土層 | 砂質。地山ブロック土を少量含む。 |
| 4 | 黒褐色土 | シルト質。砂質土を含む。地山ブロックを含む。 |
| 5 | 褐灰色土 | 砂質。地山ブロックを含む。 |
| 6 | 黒色土 | 砂質。粒径大。 |
| 7 | 黒色土 | 砂質。粒径小。 |
| 8 | 褐灰色土 | 黒色砂質土を多く含む。やや青灰色。 |
| 9 | 褐灰色土 | 黒色砂質土を多く含む。 |
| 10 | 褐灰色土 | 黒色砂質土、地山ブロックを多く含む。 |
| 11 | 褐灰色土 | 黒色砂質土、地山ブロック、植物遺体を多く含む。 |
| 12 | 国家埴土 | シルト質。植物遺体を多く含む。 |
| 13 | 褐灰色土 | 砂質土、シルト、粘土ブロックを多く含む。 |

0 1:40 1m

第55図 平安時代11区井戸

(3) 水田

本遺跡からは平安時代の水田が5区で8区画、11区で3面13区画、9区で1面4区画の水田面の水田面が検出された。水田面の区画には畦状の高まりや溝がある。水田の遺構図(1/200)は付図に掲載した。

5区の水田

5区は北の5-1区と南の5-2区とあるが、水田は北の5-2区で8区画検出された。

これらの区画は溝及び畦状の低い高まりによって区画されている状況がみられる。畦畔はほぼ東西・南北軸に走行する。水田面の区画内の高低差はほとんどなく、ほぼ平坦である。南側が金山で北斜面であるため、送水方向は南から北方向であるが、調査区内は高低差30cm以内のほぼ平坦面である。耕作痕は検出されていない。

第1区画 5-2区の南東隅に位置する。第2区画とは17号溝を境とする。検出された水田面は僅かで、形状は不明である。

第2区画 5-2区の南東隅に位置する。第1区画とは17号溝、第3区画とは畦状の低い高まりを境とする。検出された水田面は僅かで、形状は不明である。

第3区画 5-2区の南中央に位置する。第2区画、第4区画とは畦状の低い高まりを境とする(本頁下エレベーション図参照)。区画の形状は概ね長方形を呈するようであるが、南辺は調査区外のために確認できない。東西軸の短軸は5.1mを測る。

第4区画 5-2区の中央に位置する。第3区画、第7区画とは畦状の低い高まり、西辺は2号溝を境とする。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西の短軸は5.2m南北の長軸は約21mを測る。長軸は長大であるが、水田確認面の標高は南北で63.00~63.03mとほぼ平坦である。

第5区画 5-2区の南西隅に位置する。第6区画、第8区画とは畦状の極低い高まりを境とする。区画の形状は概ね長方形を呈する。区画の形状は概ね長方形を呈するようであるが、南辺は調査区外のために確認できない。東西軸の短軸は2.8mを測る。

第6区画 5-2区の南西隅に位置する。第5区画、

第8区画とは畦状の極低い高まりを境とする。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西軸の短軸は2.8m、南北の長軸の規模は北の後世の攪乱のため確認できない。耕作痕は検出されていない。

5-2区



※ポイントは付図

5-2区第3・4区画



5-2区第7区画



第56図 平安時代5-2区水田(1)

第7区画 5-2区の北東隅に位置する。第4区画、南辺南の区画とは畦状の低い高まりを境とする（前頁下エレベーション図参照）。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。長軸・短軸とも調査区外のため確認できない。規模は長大で、水田確認面は東西はほぼ水平であるが、南北で63.00～63.20mと約20cmの高低差があり、南北を分断する境があった可能性が高い。耕作痕は検出されていない。

第8区画 5-2区の南西に位置する。第5区画、第6区画とは畦状の低い高まりを境とする。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西軸の短軸は約3.5m、南北の長軸の規模は北の後世の攪乱、南側の調査範囲外のため確認できない。長軸は長大であるが、水田確認面の標高は南北で63.10～63.15mとほぼ平坦である。耕作痕は検出されていない。

11区の水田

11区は3面（11区第2～4面）の遺構確認面から13区画の水田面を確認した。第2面はAs-B混土下層、第3面は2面耕土下層、第4面は3面耕土下層である。第2面及び第3面の水田区画は、畦の位置や方向が若干ずれる部分があるものの、ほぼ第3面の区画を踏襲して、第2面の水田面が形成されている。最も下層の第4面では第6～8区画の水田面を確認した。これらの区画は溝及び畦状の低い高まり

によって区画されている状況がみられる。畦畔は地形に合わせてほぼ東西・南北軸に走行する。区画内の高低差はほとんどなく、ほぼ平坦である。北斜面で、透水方向は南から北方向である。耕作痕は検出されていない。

第1区画 11区の東に位置する。第2区画とは低い畦状の高まりを境とする。本区画は第3面から第2面に変遷する過程で畦の位置をほぼ踏襲している。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西の短軸は約9.5mを測る。南北の長軸の規模は確認できない。

第2区画 11区の中央に位置する。第1区画、第3区画、第4区画とは低い畦状の高まりを境とする。本区画は第3面から第2面に変遷する過程で、第3区画との境の畦が約1m東に振れる。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西の短軸は約9.2mを測る。南北の長軸の規模は確認できない。

第3区画 11区の中央やや西に位置する。第2区画、第5区画とは低い畦状の高まりを境とする。本区画は第3面から第2面に変遷する過程で、第2区画との境の畦が約1m東に振れる。区画の形状は概ね長方形を呈するようである。東西の短軸は約5～6mを測る。南北の長軸の規模は確認できない。

第4区画 11区の東に位置する。第2区画、第5区画とは低い畦状の高まりを境とする。本区画は第3

5-2区第5・8区画

EPC L=63.30m



5-2区第6区画

EPD L=63.30m



※ポイント付図

EPC

EPD

0 1:40 1m

第57図 平安時代5-2区水田(2)

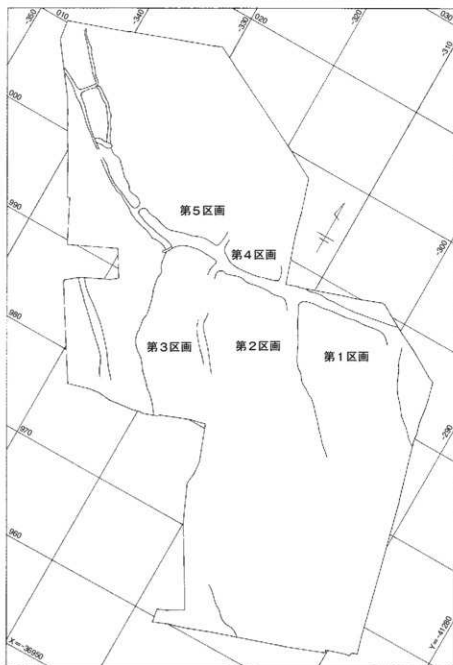
第4章 遺構と遺物

面から第2面に変遷する過程で、第5区画との境の畦が約1m東に振れる。区画の形状は概ね方形から長方形を呈するようである。第2面では東西の短軸が確認でき、約6.2mを測る。南北の長軸の規模は確認できない。

第5区画 11区の中央やや西に位置する。第3区

画、第4区画とは低い畦状の高まりを境とする。本区画は第3面から第2面に変遷する過程で、第2区画との境の畦が約1m東に振れる。区画の形状は不明である。東西、南北とも規模は確認できない。

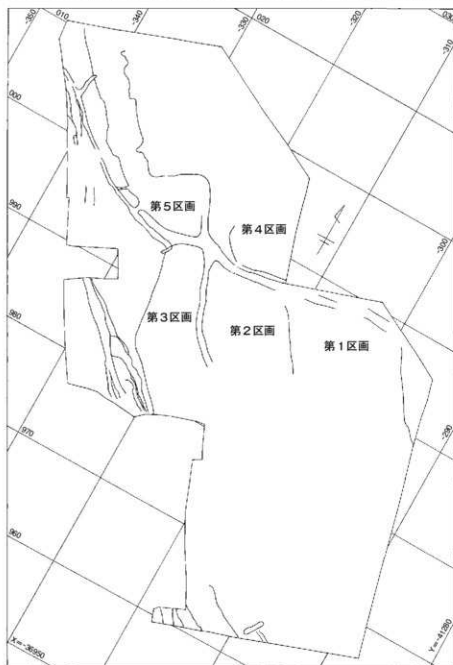
第6区画 11区の4面で検出された。調査区の北東に位置する。第7区画とは低い畦状の高まりを境と



第58図 平安時代11区2面水田

する。区画の形状は不明であるが、南北軸は約11m以上の規模である。長軸は長大であるが、水田確認面の標高は南北で61.15～61.20m前後とはほぼ平坦。第7区画 11区の4面で検出された。調査区の北東に位置する。第7区画、第8区画とは低い畦状の高まりを境とする。区画の形状は不明である。区

画の西辺の畦状の高まりは良好に残存しており、北寄りに水口が残存している。水口幅は約20.5cmで検出された。水口の残存や南西隅の畦の形状から、第6区画～第8区画の西側にも水田区画が存在していたと考えられる。区画の東西の規模は明かではないが、南北の規模は約5.2mを測る。



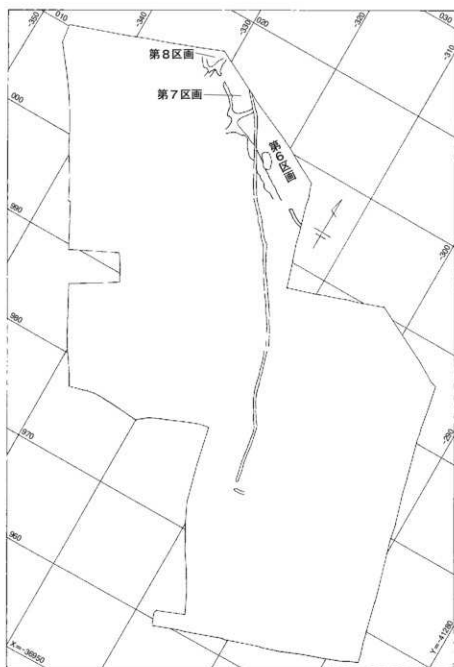
第59図 平安時代11区3面水田

第4章 遺構と遺物

第8区画 11区の4面で検出された。調査区の北東隅に位置する。第7区画とは低い畦状の高まりを境とする。区画の形状や規模は不明である。耕作痕は検出されていない。

9区の水田

9区では畦状の低い高まりを検出した。それぞれの区で4区画の水田面が想定される。区画内の高低差はほとんどなく、ほぼ平坦である。北斜面で、送水方向は南から北方向である。耕作痕は検出されていない。

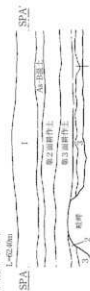


第60図 平安時代11区4面水田

11区2面第4区画



11区4面第7区画



11区4面中央東西トレンチ

L=400.0m

SFB



11区2面第3区画



本田面 (第2面)

- 1 黒褐色土 砂質, A+Bを含む。
- 2 黒褐色土 砂質, 白色軽石含む, A+Bを含む。
- 3 黒褐色土 砂質, 白色軽石含む, A+Bを多量に含む。
- 4 褐色土 粘質土。
- 5 褐色土 シルト質。

[2] 平安時代の遺構と遺物



- 8 褐色土 シルト質土と砂質土が半々, 嵩山粘土ブロック含む。
- 9 褐色土 砂質土。
- 10 褐色土 シルト質。
- 11 褐色土 褐色シルト土を含む。
- 12 にぶい黄褐色 褐色土を含む。
- 13 灰褐色土 褐色土を含む。
- 14 灰黄褐色土 シルト質。

※ポイントは付図

本田面 (第4面)

- 1 黒褐色土 シルト質土と砂質土の混土, 細粒の白色軽石を含む。
- 2 褐色土 砂質土, シルト質土を含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質土。
- 4 にぶい黄褐色 砂質土。
- 5 灰黄褐色土 粘質土。
- 6 灰色土 粘質土。
- 7 褐色土 シルト質土と砂質土が半々。

第61図 平安時代Ⅰ区水田

第4章 遺構と遺物

(4) 溝

本遺跡からは平安時代の溝が39条検出された。3区で1条、4区で3条、5区で16条、11区で19条の検出である。

溝の平面図は付図(1/200)、セクション、エレベーション図は以下に掲載した。溝は調査区ごとに遺構の概要・所見をまとめて記載し、計測値については一覧表を作成した。

3区 3区で検出された平安時代の溝は3区1号溝の1条である。3区1号溝は調査区を東西に走向する長さ52m以上を測る長大な溝である。出土遺物はないが、覆土から平安時代に比定した。覆土は水性堆積である。1号、2号土坑と接し、これら土坑とした遺構は1号溝の一部である可能性が高い。

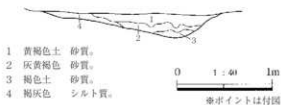
平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
1	3 1号溝	52.80	2.90	0.33	

3区1号溝

SPA L=6360m

SPA'



第62図 平安時代3区溝

4区 4区で検出された平安時代の溝は4区11号、13号、14号溝の3条である。4区11号、13号、14号溝は併行して走向し、調査区中央北寄りまでまとめて検出された。いずれの溝も幅0.28~0.77m、残存長1.8~6.4mと小規模である。隣接する5区では水田に伴う同様な溝が多く検出されている。覆土は埋没土である。

平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
2	4 11号溝	1.80	0.77	0.16	
3	4 13号溝	4.00	0.35	0.04	
4	4 14号溝	6.40	0.28	0.05	

4区11号溝

SPA L=6380m

SPA'



- 1 黒褐色土 地山ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 地山ブロックを多量に含む。

4区13号溝

SPA L=6360m

SPA'



- 1 黒褐色土 地山ブロックを少量含む。

4区14号溝

SPA L=6360m

SPA'



- 1 黒褐色土 地山ブロックを少量含む。

0 1:40 1m

※ポイントが付図

第63図 平安時代4区溝

5区 5区は南側の5-1区と北側の5-2区に分けて調査されているが、南側の5-1区で2条、北側の5-2区で14条の溝が検出された。5-1区で検出された平安時代の溝は5区1号、4号溝の2条、5-2で検出された溝は1号、2号、5~7号、9~15号、17~22号溝の14条である。溝のほとんど全ては水田区画したり、あるいは水田区画と併行して走向している。いずれの溝も幅1m以下と小規模である。1号溝・4号溝とも最下層に水性堆積土が確認され、これら溝は水田に水を供給するための機能を果たしていたと推定される。

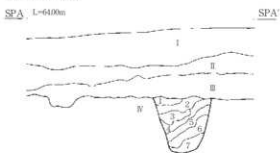
平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
5	5-1 1号溝	7.00	0.62	0.57	
6	5-1 4号溝	5.10	0.68	0.19	
7	5-2 1号溝	7.90	1.30	0.40	
8	5-2 2号溝	20.90	0.90	0.22	

平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	その他
9	5-2 5号溝	5.00	0.56	0.32	
10	5-2 6号溝	28.60	0.80	0.52	
11	5-2 7号溝	3.00	0.22	0.06	
12	5-2 9号溝	2.70	0.21	0.04	
13	5-2 10号溝	1.90	0.18	0.06	
14	5-2 11号溝	5.40	0.34	0.08	
15	5-2 12号溝	3.80	0.58	0.10	
16	5-2 13号溝	3.40	0.44	0.06	
17	5-2 14号溝	3.70	0.36	0.10	
18	5-2 15号溝	4.10	0.38	0.10	
19	5-2 17号溝	6.00	0.75	0.16	
20	5-2 18号溝	7.20	0.58	0.16	
21	5-2 19号溝	2.20	0.60	0.04	
22	5-2 20号溝	1.20	0.50	0.04	
23	5-2 21号溝	3.40	0.24	0.04	
24	5-2 22号溝	1.90	0.42	—	

5-1区1号溝



- 1 暗褐色土 砂質。As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗緑灰色土
- 4 暗灰色土 砂質。As-Bを多量に含む。
- 5 灰色土 砂質。As-B、ブロック土を多量に含む。
- 6 黒色土 砂質。As-Bを多量に含む。
- 7 黒色土 粘質。

0 1 : 40 1m

※ポイントが付図

5-1区4号溝

SPA, L=63.0m SPA'



- 1 黒褐色土 黄色粘土ブロックを多量に含む。
- 2 黒色土 粘質。

0 1 : 40 1m

※ポイントが付図

第64図 平安時代5-1区溝

5-2区2号溝

EPA, L=63.0m EPA'



EPB, L=63.0m EPB'



EPC, L=63.0m EPC'



5-2区5号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区6号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区7号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区9号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区10号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区11号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区12号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区13号溝

EPA, L=63.0m EPA'



5-2区14号溝

EPA, L=63.0m EPA'



0 1 : 40 1m

※ポイントが付図

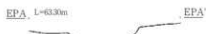
第65図 平安時代5-2区溝(1)

第4章 遺構と遺物

5-2区15号溝



5-2区17号溝



5-2区18号溝



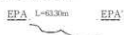
5-2区19号溝



5-2区20号溝



5-2区21号溝



5-2区22号溝



0 1 : 40 1m

※ポイントは付図

第66図 平安時代5-2区溝(2)

9区 9区で検出された平安時代の溝は9区1号溝の1条である。1号溝は深さ10cm未満、約4m確認された溝である。9区は平安時代の遺構面が2面確認されたが、本遺構は水田面が検出された遺構面下面の2面から検出された。水田耕作によりその大部分が削平されたと推測される。

11区 11区で検出された平安時代の溝は2号、3

平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
25	9 1号溝	3.84	1.38	0.07	

9区1号溝

SPA L=62.60m SPA'



1 黒褐色土。砂質。白色軽石含む。

0 1 : 40 1m

※ポイントは付図

第67図 平安時代9区溝

号、6号~11号、13号、23号、28~34号溝の19条である。11区は平安時代の水田面を3面調査しているが、新しい面から順に、2号、9号、23号が第2面、3号、6号、7号、8号、10号、28~33号が第3面、11号、13号、34号が4面で検出されている。溝のほとんど全ては水田区画したり、あるいは水田区画と併行して走向している。いずれの溝も幅1m以下と小規模である。2、10、11、13、23、28、29号溝は水性堆積土が確認され、これら溝は水田に水を供給するための機能を果たしていた可能性が高い。

平安時代の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
26	11 2号溝間板跡	1.30	1.42	0.12	2面(水田)
27	11 2号溝	22.00	0.66	0.18	2面(水田)
28	11 9号溝	1.90	0.50	0.16	2面(水田)
29	11 23号溝	11.10	0.98	0.25	2面(水田)
30	11 3号溝	22.00	0.40	0.18	3面(水田)
31	11 6号溝	2.50	0.33	0.06	3面(水田)
32	11 7号溝	13.00	1.00	0.12	3面(水田)
33	11 8号溝	2.55	1.18	0.20	3面(水田)
34	11 10号溝	1.10	0.22	0.06	3面(水田)
35	11 28号溝	2.30	0.51	0.12	3面(水田)
36	11 29号溝	1.50	0.43	0.06	3面(水田)
37	11 30号溝	36.40	3.62	0.52	3面(水田)
38	11 31号溝	38.30	1.88	0.50	3面(水田)
39	11 32号溝	4.60	0.45	0.05	3面(水田)
40	11 33号溝	8.15	0.40	0.06	3面(水田)
41	11 11号溝	40.85	0.36	0.16	4面(水田)
42	11 13号溝	1.90	0.92	0.39	4面(水田)
43	11 34号溝	1.20	0.35	0.06	4面(水田)

11区2号溝関板跡 (2面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 褐灰色土 白色軽石を含む。
- 2 褐灰色土 白色軽石、黄褐色ブロック土を含む。
- 3 黒色土 砂質。
- 4 黒褐色土 シルト質。
- 5 灰黄褐色 シルト質。

11区2号溝 (2面)

SPB L=62.40m SPB'



- 1 暗褐色土 白色軽石、As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石、黄褐色土をブロック状に含む。

SPC L=62.40m SPC'



- 1 暗褐色土 白色軽石、As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石、黄褐色土をブロック状に含む。
- 4 褐灰色土 砂質。

11区9号溝 (2面)

SPA L=61.40m SPA'



- 1 暗褐色土 白色軽石を含む。

11区23号溝 (2面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 褐灰色土 白色軽石を含む。
- 2 褐灰色土 白色軽石、黄褐色ブロック土を含む。
- 3 黒色土 砂質。
- 4 黒褐色土 シルト質。
- 5 灰黄褐色 シルト質。
- 6 褐灰色土 灰黄褐色土をブロック状に含む。

0 1 : 40 1m

※ポイントは付図

11区3号溝 (3面)

EPA L=62.40m EPA' EPB L=62.40m EPB'



11区6号溝 (3面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 灰白色土 砂質。As-Bを含む。鉄分の沈着が認められる。

11区10号溝 (3面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 灰白色土 砂質。As-Bを含む。鉄分の沈着が認められる。

11区28号溝 (3面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 灰色土 シルト質。砂質、As-B、Hr-FA混土を含む。
- 2 灰色土 シルト質。

11区29号溝 (3面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 褐灰色土 砂質。シルト質土、白色軽石(Hr-FA)をわずかに含む。

11区32号溝 (3面)

EPA L=62.40m EPA'



11区33号溝 (3面)

EPA L=62.40m EPA'



11区11号溝 (4面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 褐灰色土 砂質。鉄分沈着。
- 2 褐灰色土 シルト質。粘性強。
- 3 褐灰色土 シルト質。砂質を含む。
- 4 褐灰色土 粘質土。地山

11区13号溝 (4面)

SPA L=62.40m SPA'



- 1 褐灰色土 砂質。
- 2 褐灰色土 1と地山粘土との混土。

0 1 : 40 1m

※ポイントは付図

第68図 平安時代11区溝

[3] 中・近世の遺構と遺物

本遺跡からは中・近世の遺構として、堅穴状遺構、土坑、溝を検出した。

中・近世の遺構面が確認されたのは、3～5区、8区、11区である。

(1) 堅穴状遺構

本遺跡からは中・近世の堅穴状遺構が、11区で2基検出された。

11区1号堅穴状遺構 (第69図、PL13)

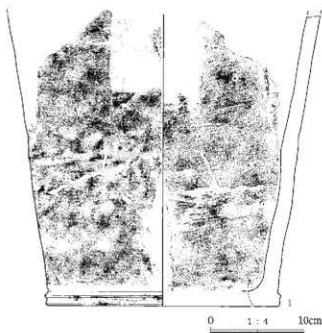
位置 000-336 方位 N-12°-W 形状 長軸2.2m・短軸1.75mの長方形である。中央やや北寄りに直径約68cm、遺構確認面から深さ90cmの円形土坑を検出した。面積 3.95㎡ 深さ 約24cm 重複 11区2号堅穴状遺構と重複する。2号堅穴状遺構より後出。遺物 遺構中央やや南の底面から在地土器が出土した。所見 本住居の時期は、出土遺物より江戸時代以降に比定される。本遺構は2号堅穴状遺構を切っており、本遺構の方が後出である。

11区2号堅穴状遺構 (第71図、PL13)

位置 999-335 方位 N-17°-W 形状 長軸4.2m・短軸3.2mの長方形である。中央やや北寄りに直径約68cm、遺構確認面からの残存が10cm前後と浅く、東側中央が抉れた形状で検出された。面積 13.8㎡ 深さ 約10cm 重複 11区1号堅穴状遺構と重複する。1号堅穴状遺構より前出。遺物 なし



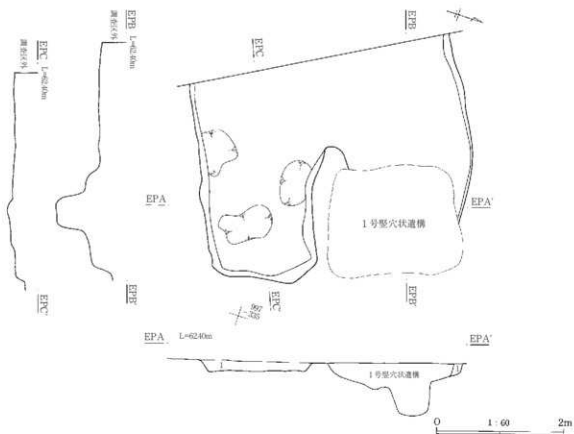
第69図 中・近世11区1号堅穴状遺構



第70図 中・近世11区1号堅穴状遺構出土遺物

11区1号堅穴状遺構 出土遺物観察表

No.	検出No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径 底径	高さ (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴	他	備考
1	第70図 PL16	在地土器 葉?	遺構底面 1/8-1/3	25.0		灰白、器表:黒	いわゆる瓦質。口縁部形状不明。		江戸時代以降



第71図 中・近世11区2号壑穴状遺構

近世の土坑一覧表

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			
				長軸	短軸	深さ	
1	8	1号土坑	046-399	不正円形	1.71	1.12	0.35

所見 本遺構の時期は、出土遺物などから中近世の遺構であると判断した。

(2) 土坑

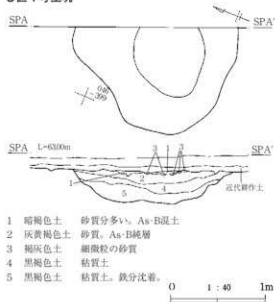
本遺跡からは8区で中・近世の土坑が1基検出している。

8区1号土坑（第72図、PL3） 8区では中・近世の土坑が1基を検出した。

遺構の規模は直径約175cmの円形を呈する。遺構確認面からの深さは42cmを測る。近現代耕作土下層、平安時代水田面上層で検出した。

遺物は検出されなかったが、遺構確認状況や土層断面から近世に比定される。

8区1号土坑



第72図 中・近世8区土坑

- 1 暗褐色土 砂質分多い、As-B混土
- 2 灰黄褐色土 砂質、As-B純層
- 3 褐色土 細粒粒の砂質
- 4 黒褐色土 粘質土
- 5 黒褐色土 粘質土、鉄分沈着

(3) 溝

本遺跡からは中・近世の溝が27条検出された。3区3条、4区3条、5区2条、8区1条、11区18条である。

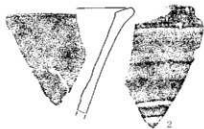
溝の平面図は付図(1/200)、セクション、エレベーション図は以下に掲載した。溝は調査区ごとに遺構の概要・所見をまとめて記載し、計測値については一覧表を作成した。

3区 3区で検出された中・近世の溝は3区2号、3号、6号溝の3条である。3区2号、3号溝は3区南に隣接して位置している。両遺構ともほぼ南北に等高線を直行するように併行して走向している。3区3号溝は4区2号溝は同一の溝である。3区3号溝の北側はほとんどが削平されていると考えられる。3区6号溝は蛇行した自然流路の可能性が高い。

中・近世の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
1	3 2号溝	5.80	0.50	0.12	
2	3 3号溝	6.40	0.50	0.12	
3	3 6号溝	11.30	0.52	0.57	

4区 4区で検出された中・近世の溝は4区1号溝、2号溝、5号溝の3条である。4区1号溝は3区3号溝と同一の溝である。4区1号溝は調査区を



第74図 中・近世4区2号溝出土遺物

4区1号溝 出土遺物観察表

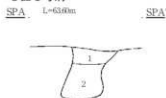
3a	検出No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径(長) 底径(幅)	高さ (厚) cm	色調/焼成	特徴	備考
35	第74図 PL-16	肥前系磁器 仏飯器	4区1号溝覆土	3.6 -	-	不良	釉薬白濁。外面世文?	17C末-18C 後半
36	第74図 PL-16	在土土器 罎	4区1号溝覆土 口縁部片	5.2		純橙、器表:黒	内面口縁部下段あり。口縁端部外反。	17Cか

3区2・3号溝



1 黒褐色土

3区6号溝

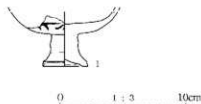


1 黒褐色土
2 暗褐色土



第73図 中・近世3区溝

東西に走向する溝で、東西方向で60mを測る長大な溝である。4区2号溝とはほぼ平行して走向し、一部4区1号溝と2号溝は重複する。4区1号溝は2号に切られており、1号溝が古い。4区2号溝は調査区を東西に走向する直線状の溝で、東西方向で60mを測る長大な区画溝である。検出幅調査区南東で直角に曲がり、3区3号溝へ続く。1号溝はやや蛇行し、2号溝が直角に曲がる区画溝であることから、自然流路に近い1号溝を一部利用しながら区画溝と

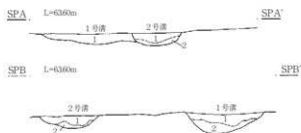


して2号溝を整えたと推測される。1号溝は幅約0.5~2.0m、深さ約0.2m、2号溝は幅約0.5~1.0m、深さ約0.2mで検出された。4区5号溝は南北を直線状に走向する長さ約55mを超える長大な溝である。溝はほぼ直線で、区画溝が想定される。幅約

中・近世の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
4	4	1号溝	65.00	0.83	0.09
5	4	2号溝	66.20	0.63	0.13
6	4	5号溝	57.00	1.31	0.25

4区1・2号溝



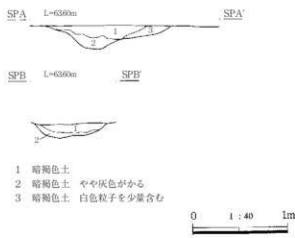
4区1号溝

- 1 暗褐色土 砂質の土層
- 2 暗褐色土 固くしまる

4区2号溝

- 1 暗褐色土
- 2 褐灰色粘質土層 地山の粘土ブロックを主体とする。

4区5号溝



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 やや灰色がかる
- 3 暗褐色土 白色粒子を少量含む

第75図 中・近世4区溝

0.5~1.2m、深さ0.3mで検出された。

5区 5区で検出された中・近世の溝は5区4号溝、8号溝の2条である。5区4号溝は4区2号

溝、5区8号溝は4区1号溝と同一の溝である。5区4号溝は直角に曲がり、南北軸は4区2号溝の南北軸と平行している。西から3区3号溝、4区2号溝、5区4号溝と続く区画溝は、東西方向で約75mを測り、区画が大規模であったことがわかる。

中・近世の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
7	5-2	4号溝	4.90	0.84	0.16
8	5-2	8号溝	11.20	0.60	0.48

5-2区4溝

EPA L=63.00m EPA'



5-2区8溝

EPA L=62.30m EPA'



0 1:40 1m

※ポイントは付図

第76図 中・近世5-2区溝

8区 8区で検出された平安時代の溝は8区1号溝の1条である。8区1号溝は長さ約10.1m、幅約1.0m、深さ0.13mを測り、南北方向に直線状に走向する。3区、4区、11区などその他の近世に比定される溝と平行に走行する。

中・近世の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
9	8	1号溝	10.16	1.00	0.13

8区1号溝

SPA L=63.00m SPA'



- 1 灰黄褐色土 粘質土と砂質土の混土。白色小粒の軽石を多く含む。
- 2 灰黄褐色土 上記1より砂質分多い。白色小粒軽石少ない。
- 3 褐灰色土 上記2より、さらに多く砂質を含む。白色小粒軽石少ない。

0 1:40 1m

※ポイントは付図

第77図 中・近世8区溝

第4章 遺構と遺物

11区 11区で検出された中・近世の溝は11区1号、4号、5号、14～22号、24～27号溝の18条である。11区で検出された溝はほぼ東西・南北を軸として直線状に走向する。幅0.2～1.88m、深さ0.05～0.52mを測り、長さは調査区を横断するほど長大な溝がほとんどである。短い長さで検出された溝も削平により検出されていないだけで、検出長より長大であった可能性が高い。調査区は高低差のほとんどない平坦な低地部で、水田耕作のための水路が直線状に引かれていたと推測される。

中・近世の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
10	11 1号溝	38.70	0.30	0.05	1面
11	11 4号溝	4.20	0.29	0.05	1面
12	11 5号溝	19.30	0.25	0.06	1面
13	11 14号溝	24.00	0.64	0.13	1面
14	11 15号溝	33.10	0.35	0.04	1面
15	11 16号溝	17.40	0.52	0.05	1面
16	11 17号溝	24.45	0.94	0.12	1面
17	11 18号溝	6.60	0.24	0.07	1面
18	11 19号溝	12.40	0.23	0.03	1面
19	11 20号溝	13.05	0.22	0.07	1面
20	11 21-1号溝	19.50	0.67	0.17	1面
21	11 21-2号溝	19.50	1.45	0.20	1面
22	11 22号溝	2.70	0.38	0.08	1面
24	11 24号溝	14.20	0.32	0.05	1面
25	11 25号溝	17.60	0.55	0.06	1面
26	11 26号溝	17.70	0.85	0.18	1面
27	11 27号溝	1.95	0.49	0.09	1面

11区17号溝

SPB L=62.40m



11区18号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区19号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区20号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区24号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区25号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区26号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区27号溝

SPA L=62.40m SPA'



11区21号溝

SPB L=62.40m



SPB'

- 1 褐灰色土 A+Bを含む。
- 2 褐灰色土 1層より少し暗い。白色軽石粒を含む。
- 3 褐色土 鉄分の沈着が認められる。粘性がある。

※ポイントが付図

0 1 : 40 1m

第78図 中・近世11区溝(1)

11区21・22号溝



第79図 中・近世11区溝(2)

[4] 時期不明の遺構

本遺跡からは時期不明の掘立柱建物1棟、土坑1基、溝14条、ピット87基が検出された。

検出された。

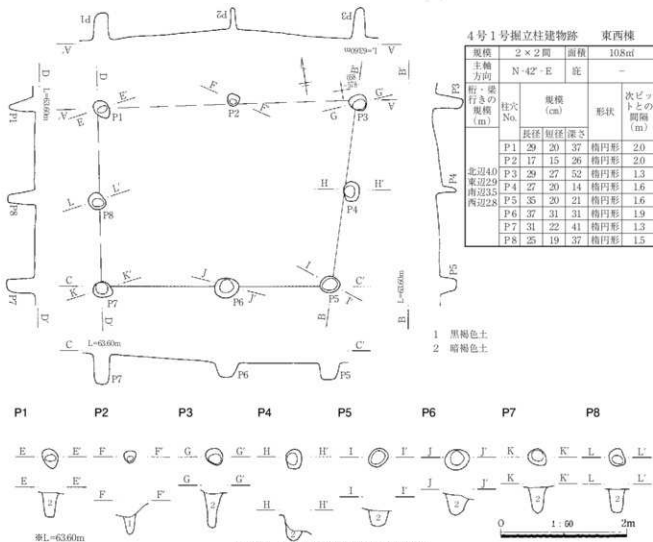
4区1号掘立柱建物(第80図、PL13)

位置 058-578 主軸方向 N-42°-E 重複 なし

形態 身舎部分は1×2間(4.0m×2.8m・13.5尺×9.5尺)、10.8㎡の東西棟か。柱間は桁間1.3~1.6

(1) 掘立柱建物

本遺跡からは4区で時期不明の掘立柱建物が1棟



第80図 時期不明4区1号掘立柱建物

第4章 遺構と遺物

m、梁間1.6～2.0m。西・南・北辺が直線的に穴が並び、東辺の南側が西に歪んでいる不整形を呈す。柱痕跡はない。柱穴は、楕円形で長径17～37cm、短径15～31cm、深さ14～52cmで、ばらつきがある。内部施設 無し 出土遺物 無し

(2) 土坑

本遺跡からは5-1区で時期不明の土坑が1基検出された。

5-1区 8号土坑 (第81図)

遺構の規模は直径約168cmの楕円形を呈する。遺構確認面からの深さは16cmを測る。遺物は検出されなかった。

時期不明の土坑一覧表

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)		
				長軸	短軸	深さ
1	5-1 8号土坑	041-325	楕円形	1.53	1.18	0.15

5-1区 8号土坑



第81図 時期不明5-1区土坑

(3) 溝

本遺跡からは時期不明の溝が12条検出された。3区で2条、4区で10条の検出である。各溝で遺物は出土しなかった。また、3～4区では遺構確認面が1面で、古墳時代から中・近世の遺構が混在する。覆土からも遺構の時期を特定できるような特徴的な土層が確認されず、本報告ではここで時期不明の溝として報告する。

溝の平面図は付図(1/200)、セクション、エレベーション図は以下に掲載した。溝は調査区ごとに遺構の概要・所見をまとめて記載し、計測値については一覧表を作成した。

3区 3区で検出された時期不明の溝は3区4号、5号溝の2条である。3区4号溝は3区西側に位置する蛇行した溝である。長さ8.6m・幅1.3m・深さ0.2mを測る。溝の両端方向は削平されていると考えられ、自然流路の一部が残存した可能性が高い。3区5号溝は3区西側に位置する蛇行した溝である。長さ12.9m・幅0.49m・深さ0.17mを測る。溝の両端方向は削平されていると考えられ、4号溝同様自然流路の可能性が高い。

時期不明の溝一覧表

区	遺構名称	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	その他
1	3 4号溝	8.60	1.30	0.20	
2	3 5号溝	12.90	0.49	0.17	

3区 4号溝

EPA L=6360m

SPA'



- 1 黄褐色砂層 直径1mmの砂を主体。
- 2 褐灰色シルト層

3区 5号溝

EPA L=6360m

SPA'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 灰褐色粘質土 灰色粘土ブロックを主体とする。

0 1:40 1m
※ポイントが付図

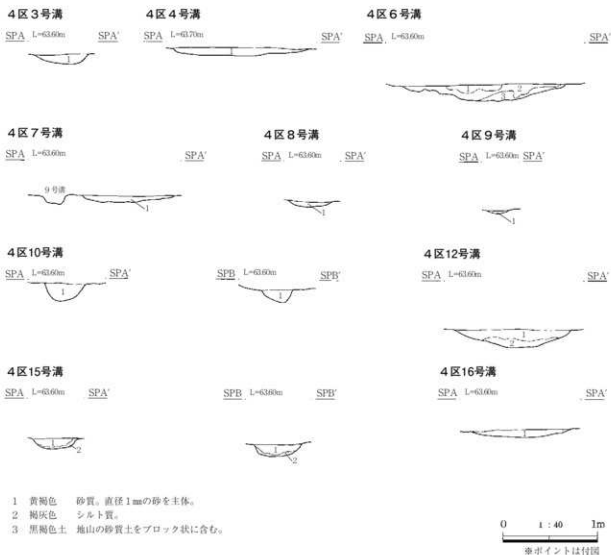
第82図 時期不明3区溝

4区 4区で検出された時期不明の溝は4区3号～6号溝、7～10号溝、12号溝、15号溝、16号溝の10条である。4区3号溝は4区西に位置する溝で幅約0.6、深さ約0.1m、長さ11.4mで検出された。等高線にはほぼ直行するように走向している。4区4号溝は幅約1.4m、深さ約0.1m、長さ8.5mで検出された。時期を確定する根拠がないため時期不明としたが、近世の区画溝（4区1号、2号溝）や、直線的に走向する5区5号溝と軸が同じことから、近世の水田や区画に関連する溝である可能性も考えられる。4区6号溝は4区中央に位置する等高線にはほぼ直行する溝である。6～10号、12号溝は、近世の区画溝（4区1号、2号溝）や、直線的に走向する5

区5号溝と軸が同じことから、近世の水田や区画に関連する溝である可能性も考えられる。4区15号溝は近世の区画溝などと軸が異なり、ほぼ東西軸を走向する。溝は直線的で、長さ約34m検出された。幅

時期不明の溝一覧表

	区	遺構名称	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	その他
1	4	3号溝	11.40	0.56	0.10	
2	4	4号溝	8.50	1.42	0.09	
3	4	6号溝	22.40	1.73	0.18	
4	4	7号溝	8.00	0.97	0.07	
5	4	8号溝	18.80	0.45	0.05	
6	4	9号溝	23.20	0.22	0.03	
7	4	10号溝	18.50	0.43	0.18	
8	4	12号溝	31.50	1.23	0.20	
9	4	15号溝	33.50	0.47	0.11	
10	4	16号溝	10.00	1.02	0.08	



第83図 時期不明4区溝

第4章 遺構と遺物

0.47m深さ0.1mと近世の溝とはほぼ同規模である。
4区16号溝は近世の区画溝とした1号、2号溝と平行する。1号、2号溝とはほぼ等間隔に平行して走行しており、近世の溝の可能性も考えられる。

(4) ビット

本遺跡からは時期不明のビット88基検出された。ビットはすべて4区からの検出である。4区では遺構確認面が1面で、古墳時代から中・近世の遺構が混在する。覆土からも遺構の時期を特定できるような特徴的な土層が確認されず、本報告ではここで時期不明のビットとして報告する。ビットは近世のL字型の区画溝の内側にあり、掘立柱建物などの柱

痕の可能性も想定したが、掘立柱建物と確認できなかった。

ビットの個別の平面図は1/40で以下に掲載し、それぞれの遺構の規模は一覧表で示した。各遺構の位置は付図(1/200)を参照いただきたい。

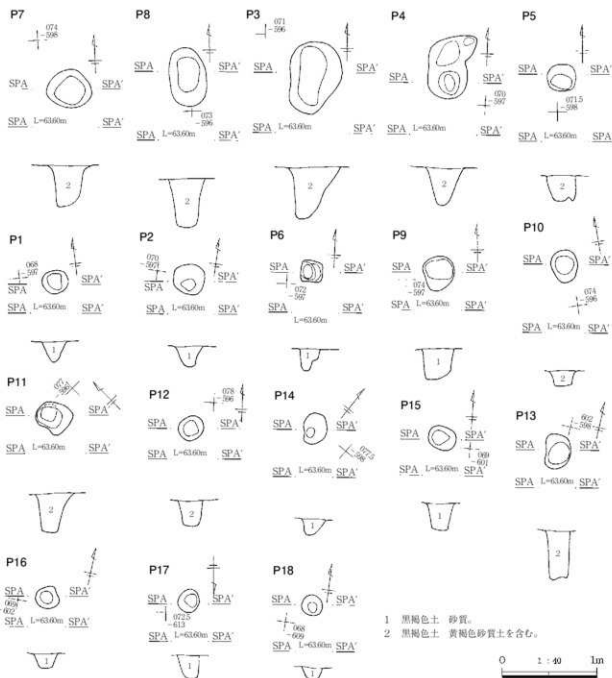
ビットは円形・楕円形・方形・不整形に分類して一覧表に示した。65号、73号、78号、80号、81号、82号、84号、85号ビットで柱痕が確認された。ビットの規模は長軸0.17~0.76m、短軸0.16~0.55m、深さ0.10~0.80mと幅広い。

時期不明のビット一覧表

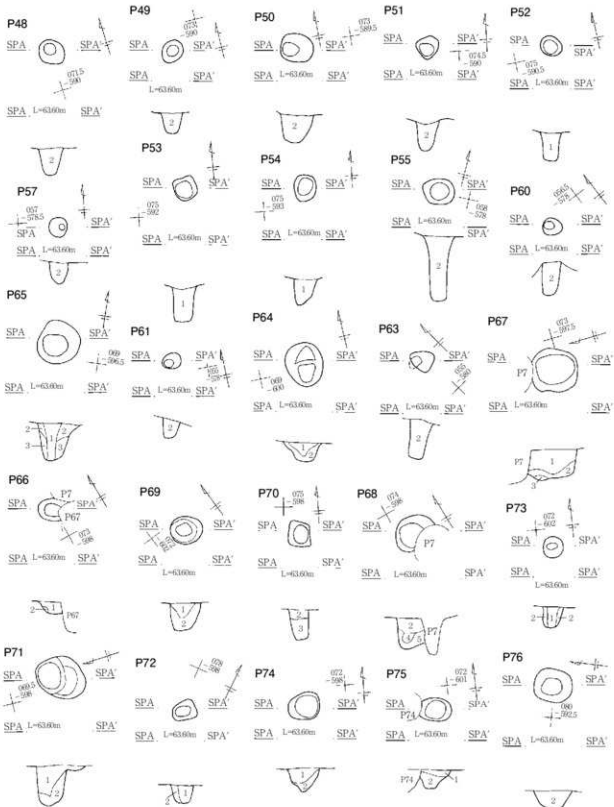
区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			
				長軸	短軸	深さ	
1	4	1号ビット	068-597	円形	0.27	0.25	0.22
2	4	2号ビット	070-597	円形	0.32	0.31	0.22
3	4	3号ビット	071-596	楕円形	0.76	0.55	0.54
4	4	4号ビット	070-597	不整形	0.65	0.40	0.37
5	4	5号ビット	071.5-598	円形	0.29	0.28	0.26
6	4	6号ビット	072-597	方形	0.21	0.21	0.23
7	4	7号ビット	074-598	円形	0.46	0.41	0.44
8	4	8号ビット	073-596	楕円形	0.62	0.37	0.51
9	4	9号ビット	074-597	円形	0.35	0.32	0.32
10	4	10号ビット	074-596	円形	0.35	0.27	0.17
11	4	11号ビット	077-596	円形	0.39	0.35	0.42
12	4	12号ビット	078-596	円形	0.27	0.26	0.26
13	4	13号ビット	602-598	方形	0.37	0.25	0.50
14	4	14号ビット	077.5-598	楕円形	0.34	0.25	0.16
15	4	15号ビット	069-601	円形	0.30	0.25	0.28
16	4	16号ビット	069-602	円形	0.24	0.23	0.16
17	4	17号ビット	072.5-613	円形	0.25	0.23	0.24
18	4	18号ビット	068-609	円形	0.27	0.21	0.13
19	4	19号ビット	067-612	円形	0.30	0.19	0.17
20	4	20号ビット	067.5-597	円形	0.28	0.26	0.31
21	4	21号ビット	068-598	円形	0.18	0.20	0.22
22	4	22号ビット	073.5-596	円形	0.54	0.48	0.50
23	4	23号ビット	070.5-597	不整形	0.25	0.20	0.38
24	4	24号ビット	070.5-597	円形	0.28	0.26	0.30
25	4	25号ビット	055.5-582	円形	0.25	0.20	0.30
26	4	26号ビット	056-582	円形	0.25	0.24	0.48
27	4	30号ビット	058.5-581	円形	0.25	0.23	0.51
28	4	31号ビット	056-583	円形	0.20	0.18	0.15
29	4	32号ビット	056-583	円形	0.17	0.16	0.13
30	4	33号ビット	056-584	円形	0.19	0.19	0.20
31	4	34号ビット	081-599	方形	0.30	0.25	0.21
32	4	35号ビット	081.5-599	方形	0.23	0.22	0.30
33	4	36号ビット	079-598	方形	0.31	0.22	0.37
34	4	37号ビット	082-596.5	円形	0.31	0.30	0.22
35	4	38号ビット	081-596	円形	0.36	0.34	0.26
36	4	39号ビット	081-596	円形	0.36	0.31	0.36
37	4	40号ビット	071.5-591	楕円形	0.43	0.28	0.30
38	4	41号ビット	071-590	楕円形	0.33	0.24	0.32
39	4	42号ビット	071-590	楕円形	0.36	0.24	0.33
40	4	43号ビット	071-590	楕円形	0.31	0.23	0.28
41	4	44号ビット	071-592	円形	0.28	0.27	0.24
42	4	45号ビット	072-591	方形	0.25	0.21	0.32
43	4	46号ビット	073-592	円形	0.34	0.29	0.27
44	4	47号ビット	073-591	楕円形	0.27	0.22	0.19
45	4	48号ビット	071.5-590	円形	0.26	0.26	0.27
46	4	49号ビット	073-590	円形	0.24	0.21	0.21
47	4	50号ビット	073-589.5	円形	0.35	0.31	0.28
48	4	51号ビット	074.5-590	円形	0.24	0.24	0.28
49	4	52号ビット	075-590.5	円形	0.23	0.21	0.29
50	4	53号ビット	075-592	円形	0.25	0.24	0.34
51	4	54号ビット	075-593	円形	0.28	0.23	0.26
52	4	55号ビット	058-578	円形	0.34	0.27	0.67
53	4	57号ビット	057-578.5	円形	0.21	0.20	0.22
54	4	60号ビット	066.5-578	円形	0.19	0.18	0.34
55	4	61号ビット	055-578	円形	0.18	0.17	0.21
56	4	63号ビット	055-580	円形	0.25	0.22	0.42
57	4	64号ビット	069-600	円形	0.47	0.40	0.20
58	4	65号ビット	069-596.5	円形	0.45	0.41	0.39
59	4	66号ビット	073-598	円形	0.23	0.24	0.12
60	4	67号ビット	073-597.5	円形	0.48	0.45	0.33
61	4	68号ビット	074-598	円形	0.37	0.25	0.32
62	4	69号ビット	075-602	円形	0.35	0.31	0.28
63	4	70号ビット	075-598	方形	0.36	0.21	0.32
64	4	71号ビット	069.5-598	円形	0.50	0.46	0.42
65	4	72号ビット	078-598	円形	0.23	0.20	0.18
66	4	73号ビット	072-602	円形	0.23	0.21	0.22
67	4	74号ビット	072-598	円形	0.33	0.29	0.25
68	4	75号ビット	072-601	円形	0.32	0.24	0.20
69	4	76号ビット	080-592.5	円形	0.40	0.36	0.20
70	4	77号ビット	080-592	方形	0.27	0.25	0.55

[4] 時期不明の遺構

区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)			区	遺構名称	位置	平面形状	規模(m)				
				長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
71	4	78号ビット	079-592	円形	0.32	0.24	0.61	80	4	87号ビット	078-289	円形	0.40	0.39	0.32
72	4	79号ビット	080-592	円形	0.42	0.39	0.35	81	4	88号ビット	076-591	方形	0.37	0.33	0.55
73	4	80号ビット	079-590	円形	0.35	0.32	0.51	82	4	89号ビット	075-588	円形	0.19	0.17	0.10
74	4	81号ビット	079-590	方形	0.28	0.23	0.30	83	4	90号ビット	076-586	楕円形	0.36	0.22	0.23
75	4	82号ビット	079-588	円形	0.30	0.30	0.32	84	4	91号ビット	073-600	方形	0.56	0.36	0.67
76	4	83号ビット	077.5-587	円形	0.30	0.28	0.26	85	4	92号ビット	068-580	方形	0.22	0.18	0.53
77	4	84号ビット	076-587	円形	0.38	0.35	0.47	86	4	94号ビット	072-590	円形	0.25	0.25	0.16
78	4	85号ビット	076-590	円形	0.41	0.34	0.55	87	4	95号ビット	074.5-587.5	円形	0.22	0.18	0.80
79	4	86号ビット	080-587.5	円形	0.36	0.32	0.24	88	4	96号ビット	074-590	楕円形	0.25	0.19	0.14



第84図 時期不明4区ビット(1)

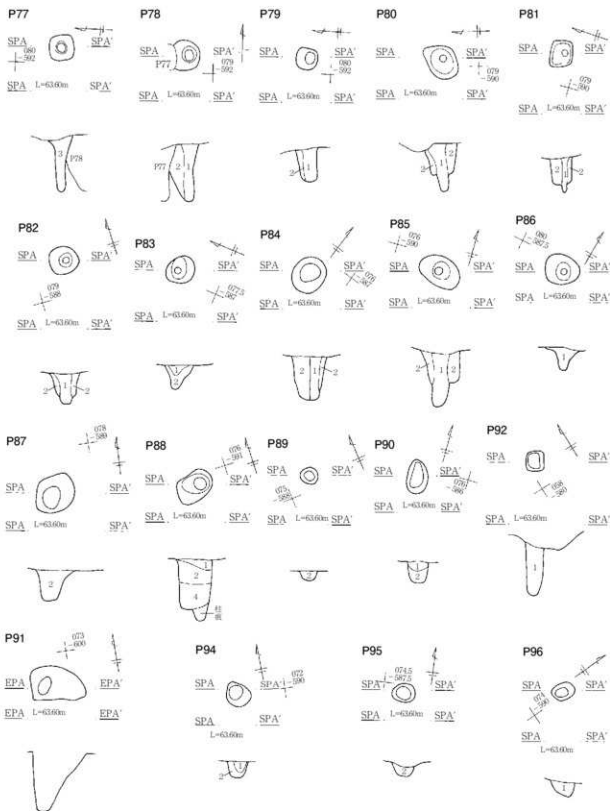


- 1 黒褐色土 砂質。
- 2 黒褐色土 黄褐色砂質土を含む。
- 3 黒褐色土 砂質。白色軽石含む。
- 4 暗褐色土 褐色粘土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土 褐色粘土ブロックを含む。



第86図 時期不明4区ピット (3)

第4章 遺構と遺物



- 1 黒褐色土 砂質。
- 2 黒褐色土 黄褐色砂質土を含む。
- 3 黒褐色土 砂質。白色軽石含む。
- 4 暗褐色土 褐色粘土ブロックを含む。

第87図 時期不明4区ピット(4)

0 1 40 1m

[5] 遺構外出土遺物

本遺跡では遺構外出土遺物として旧石器時代のナイフ形石器1点、縄文時代の石鏃11点、削器1点、石核2点、凹石1点などの石器類、縄文時代の土器4点、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器9点、埴輪片1点、土製品1点、陶磁器や銭貨、五輪塔火輪などを実測遺物として取り上げた。ここでは主に遺構外遺物でしか確認できない旧石器から縄文時代の遺物について以下に記載する。

旧石器 旧石器時代の(南関東編年Ⅱa期)のナイフ形石器が出土した。遺物はやや厚い小型縦長剥片を用いた二側縁加工のナイフ形石器で、平坦面を残置する。裏面基部側の横位線状痕は装着に係わるものと見られる。本遺跡のようなナイフ形石器はAs-BP降下前後(群馬編年Ⅲ期)に出土することが多い。

縄文石器 本遺跡の遺構外から出土した縄文時代の石器組成は42点中34点を石鏃が占める特徴がある。石鏃は34点中30点が完成状態にあり、4点が未製品であった。形態的には凹基無茎鏃18点、平基無茎鏃2点、有茎鏃14点に分類される。凹基無茎鏃の大部分が早・前期の所産であり、有茎鏃が後期以後の所産とされるものが出土している。隣接する峯山遺跡では早期段階の土器群を主体に、草創期爪形文から後期加曾利B式期まで断続的に各時期の土器が出土しており、本遺跡で出土した石鏃も多時期にわたるものと見られるが、機能的に完成された石器のひとつである石鏃は存続時期が長く、帰属時期を断定することは難しい。

器種・石材一覧表

器種	チャート	珪質頁岩	黒色 安山岩	黒曜石	粗粒輝石 安山岩	総計
凹石					1	1
加工済みの剥片	1	1				2
削器		1				1
石核	2			2		4
石鏃	32	1	1			34
総計	35	3	1	2	1	42

縄文土器 本遺跡より出土した縄文土器は全て、細片であり、遺構に伴う例は見られず、また器形や詳細な時期を窺わせる資料は極めて少なかった。本項では、その中で、文様の判別ができた4点を図示した。

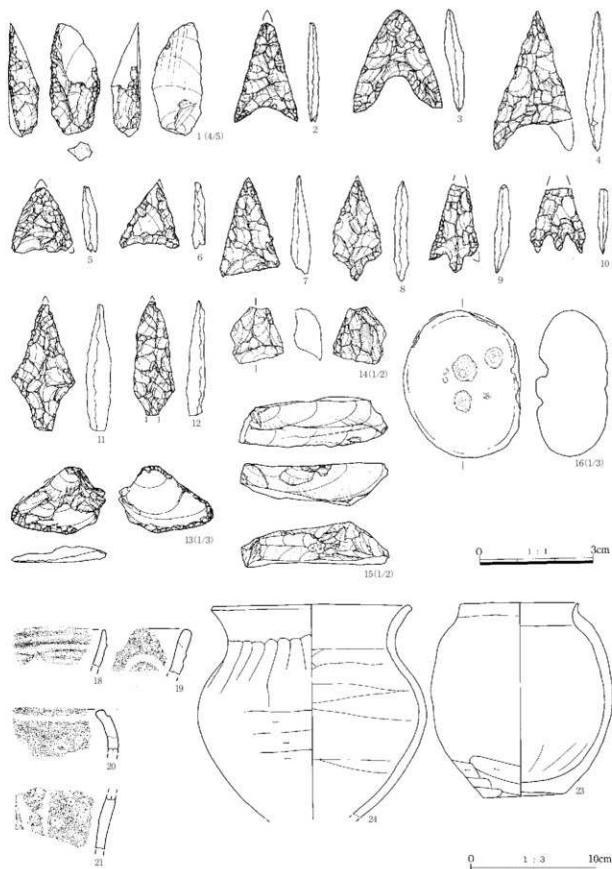
19~21は加曾利EⅢ式の深鉢片と思われる。19は平縁に付される小型の波状突起。突出気味で突起下端に沈線による渦巻文が配される。縄文施文も観察されるが器面摩滅のため判然としない。20も平縁深鉢口縁部破片。口縁部横位沈線を設け、以下縄文あるいは縦位密接条線が施される例と思われるが、摩滅のため施文そのものも確認できない。21は外反する体部破片。沈線による弧線意匠が配されるが、あるいは逆U字状懸垂文上端の可能性を見る。縄文は器面摩滅のため不明である。

18は、千網式と思われる。鉢口縁部破片で口縁部横位細隆線以下に細隆線による浮線網状文2単位を見ることができる。接続した単位であり、体部横位連繋構成を窺わせる。本資料も器面摩滅のため、赤彩痕跡や研磨痕跡は観察できない。

4点とも器表面が著しく摩滅するため、文様の詳細は判然としないが、本遺跡周辺の該期集落より流入した資料と思われる。特に4は、渡良瀬川流域に立地する、桐生市千網谷戸遺跡や太田市(旧藪塚本町)石之塔遺跡との関連も想起されよう。

剥片・礫類一覧表

区	剥片			礫	
	石材	点数	重量	点数	重量
3	チャート	26	641	0	0.0
	ホルンフェルス	1	36.9	0	0.0
	黒色頁岩	2	1.96	0	0.0
4	チャート	6	47.3	0	0.0
	粗粒輝石安山岩	0	0.0	1	700.0
5	滑結凝灰岩	0	0.0	2	5820.0
	チャート	5	45.5	0	0.0
8	チャート	2	36.2	0	0.0
	チャート	1	4.2	2	60.5
10	ホルンフェルス	1	493.4	0	0.0
	チャート	3	17.9	1	434.3
11	ホルンフェルス	1	310.2	0	0.0
	粗粒輝石安山岩	0	0.0	2	2134.3
12	粗粒輝石安山岩	0	0.0	1	194.0
	合計	48	1075.3	9	9343.1

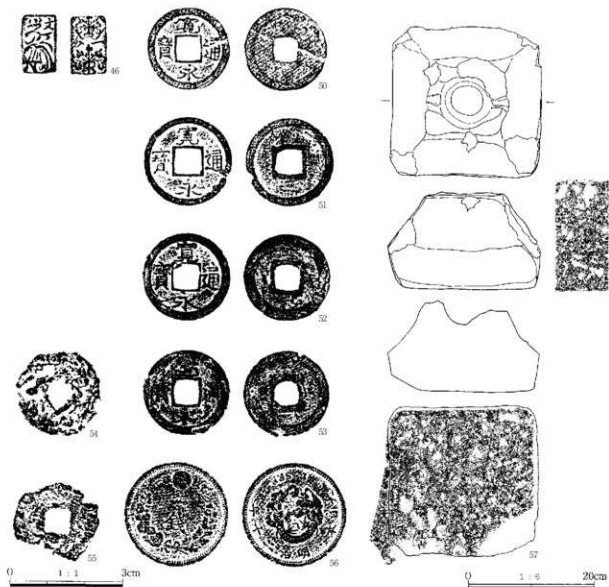


第88回 遺構外出土遺物 (1)



第89回 遺構外出土遺物 (2)

第4章 遺構と遺物



第90図 遺構外出土遺物（3）

遺構外 出土遺物観察表

No.	検出No. 図取No.	種類 器種	出土位置 残存率	長さ 幅	重量 cm・g	石材	特徴	備考
1	第88図 PL-16	ナイフ形石器 二側縁加工	4区覆土	3.7 1.6	4.7	黒曜石	裏面基部側の左辺に横位線状痕・スレ	
2	第88図 PL-16	石鏡 凹基無茎鏡	5区表土	(3.4) (1.1)	2.3	チャート	完成状態、右辺返し欠	
3	第88図 PL-16	石鏡 凹基無茎鏡	4区覆土	(2.6) (2.4)	1.7	球質頁岩	完成状態	
4	第88図 PL-16	石鏡 平基無茎鏡	11区礫土	2.6 1.6	1.5	チャート	完成状態	
5	第88図 PL-16	石鏡 凹基無茎鏡	11区4面	(2.6) 1.7	0.9	チャート	完成状態、先端欠損	
6	第88図 PL-16	石鏡 平基無茎鏡	11区3面礫土	(1.7) (1.6)	1.0	チャート	完成状態?	
7	第88図 PL-16	石鏡 凹基無茎鏡	5区表土	(1.7) 1.6	0.7	チャート	未製品。先端側両側縁には節理面が残る	

[5] 遺構外出土遺物

No.	韓国No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	長さ cm	重量 g	石材	特徴	備考
8	第88回 PL-16	石鏃 凸基有茎鏃	5区表土	(33) 17	24	チャート	完成状態、道跡内製作	
9	第88回 PL-17	石鏃 凸基有茎鏃	11区礫土	(30) 10	15	チャート	完成状態、茎を欠損	
10	第88回 PL-17	石鏃 凸基有茎鏃	4区覆土	(26) 13	11	チャート	完成状態	
11	第88回 PL-17	石鏃 凹基有茎鏃	5区覆土	(24) 13	08	チャート	完成状態	
12	第88回 PL-17	石鏃 凹基有茎鏃	4区覆土	(17) 15	06	チャート	製作最終段階で破損?	
13	第88回 PL-17	削器 横長削片	11区4面	5.3 7.4	35.3	球貫頁岩	削片端部から左辺の表裏面を平坦削離、刃部を作出	
14	第88回 PL-17	石核 削片	3区	30 27	11.5	チャート	表裏両面で小型削片を剥離	
15	第88回 PL-17	石核 柱状	11区4面	26 7.8	51.8	黒曜石	小型削片を剥離、各剥離面の風化度は微妙に異なる	
16	第88回 PL-17	凹石 楕円鏃	11区覆土	11.5 9.3	775.0	粗粒輝石安山岩	鋼線を敲打、表裏面の磨耗は、風化が激しく不明	
17	第88回 PL-17	石鏃 凹基無茎鏃	3区	(34) (23)	26	黒色安山岩	完成状態?先端・左辺返し欠	
No.	韓国No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	粘土/焼成/色調		成・整形の特徴		備考
18	第88回 PL-17	鉢	11区 3面 口縁部破片	細:白色粒・石英・輝石/良好?/ 黄灰色25Y6/1		口縁部横位細隆線以下、体部に細隆線による網目状意匠を配す。単位間は接する。器面摩滅		晩期終末〜弥生
19	第88回 PL-17	深鉢	11区 3面 口縁部突起破片	粗砂粒:白色粒・輝石・チャート/ 良好?/明黄褐色10YR6/6		強く突出する小流状突起。突起下縁に沈線による弧状意匠を配す。黄褐色か。器面摩滅		加曾利EⅢ
20	第88回 PL-17	深鉢	11区 3面 口縁部破片	粗砂粒:白色粒・輝石・チャート/ 良好?/黄褐色25Y5/4		内湾する口縁部に横位沈線を設ける。器面摩滅が著しく、その他の施文は判然としない		加曾利EⅢ が
21	第88回 PL-17	深鉢	11区 3面 体部破片	粗砂粒:白色粒・石英・輝石/ 良好?/明黄褐色25Y7/6		薄手の器厚を呈し、外反する体部中位。沈線による弧状意匠を配す。逆U字状垂文文か。器面摩滅		加曾利EⅢ
No.	韓国No. 図版No.	種類 器種	出土位置 残存率	長さ cm	重量 g	石材	特徴	備考
22	第89回 PL-17	土師器 有孔鉢	7区1面 3/5	138 孔径15	79	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへう割り、体部は器面摩滅のため単位不鮮明。底部中央に穿孔。	
23	第88回 PL-17	土師器 密	7区1面 4/5	9.1 6.3	15.3	粗砂粒/良好/ 浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。内外面とも胴部は器面摩滅のため単位不鮮明。	
24	第88回 PL-17	土師器 壺	5区 口縁・胴部下位片	15.4		細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへう割り。内面胴部はへうナデ。	
25	第89回 PL-17	埴輪 不明	11区 凸帯小片			細砂粒/良好/橙	凸帯に弧がみられないことから形象埴輪の一部か。器面はナデ。	
26	第89回 PL-17	土製品 鉢	11区 2/5	長32 孔02	径15	細砂粒/良好/ にぶい橙	表面はナデ。	
27	第89回 PL-17	土師器 杯	8区 3/4	148	5.5	細砂粒・褐色粒/ やや軟質/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへう割りか。内外面とも器面摩滅のため単位不鮮明。	
28	第89回 PL-17	埴器 杯	11区1～3面 1/4	119 7.0	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焙/灰	ロタロ整形。回転右回り。底部は回転へう割り。	
29	第89回 PL-17	埴器 杯	11区2面	121 7.6	3.6	細砂粒/ 酸化焙きム/灰黄	ロタロ整形。回転右回り。底部は回転へう割り。	
30	第89回 PL-17	埴器 杯	11区3面 1/5	119 5.7	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焙/灰	ロタロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
31	第89回 PL-17	埴器 杯	11区1・2面	134 7.0	3.1	細砂粒/還元焙/ 灰	ロタロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
32	第89回 PL-17	埴器 椀	11区3面 2/5	130 6.4	4.6	細砂粒/酸化焙/ にぶい黄橙	ロタロ整形。回転右回り。高台は貼付、底部は高台貼付時のナデ。	
33	第89回 PL-17	土製品 不明	埋没土中 1/3	104 6.8	厚12	細砂粒/酸化焙/ にぶい橙	周縁部に高さ3mmほどの縁を有す。右上隅に径3mmの穿孔有り。	
34	第89回 PL-17	龍泉原系青磁 碗	5区遺構外 口縁部片				編連弁文様。横田・森田分類1～5類。釉の発色不良。	13C

第4章 遺構と遺物

No.	持国No. 国取No.	種類 器種	出土位置 残存率	口径(径) 底径(幅)		色調	特徴	備考
				器高 (厚) (cm)				
35	第89国 PL-17	瀬戸・美濃 陶器 小坏	4区表土 3/4	4.7 2.6	2.8		内面から高台脇灰釉。	19C前～中
36	第89国 PL-17	製作地不詳 陶器 仏飯器	5区 脚台部	5.2			残存部無文。	19C?
37	第89国 PL-17	製作地不詳 陶器 灯明受皿	5区 口縁一部欠	11.1 5	2.0		内面から口縁部外面透明釉。1箇所枝を「U」字状に挟る。	19C中以降
38	第89国 PL-17	製作地不詳 陶器 小坏	11区30溝 1/2	6.9 3.4	4.6		口縁。内底押印文。	近現代
39	第89国 PL-17	肥前陶器 火入?	7区 1/2～2/3	5.6			京焼風陶器。内面無釉。高台脇以下無釉。高台内「小松古」押印。高台内中心に焼成後の小穴。穴は貫通しない。	17C中～後半
40	第89国 PL-17	在土土器 平り鉢?	4区遺構外 底部片			黒～灰	成形・焼成・器厚は江戸期焙烙と同様。内面すり目。僅かに使用痕あり。	江戸時代?
41	第89国 PL-17	瀬戸・美濃 陶器 輪壳皿	5区 底部	6.0			内面から高台脇鉄釉。内底乾の目録剥ぎ。	17C中～後半
42	第89国 PL-17	在土土器 片口鉢	5区遺構外 口縁部片			灰白、器表：灰	口縁部僅かに玉縁状をなす。	13～14C
43	第89国 PL-17	在土土器 切塔	11区遺構外		5.4	鈍黄褐色	器高高い。	17C～18C
44	第89国 PL-17	瀬戸・美濃 陶器 徳利	5区 完形	2.4 7.8	21.7		外面透明釉。鉄絵具で「土屋」、「へ丁」の文字。底部外面回転糸切り痕一部残る。	近現代
45	第89国 PL-17	瀬戸・美濃 陶器 徳利	5区 胴部欠	8.0			外面透明釉。鉄絵具で「土屋」、「路酒鬼鎮」の文字。埼玉県比企郡嵐山町鬼鎮神社にちなんだ酒か。	近現代
No.	持国No. 国取No.	種類 器種	出土位置 残存率	外径1 外径2	厚み1 厚み2	重さ (g)	特徴	備考
46	第90国 徳27-1	銭貨	7区 完形	15.71 9.67	1.91 1.97	3.24	元文一分筒金 铸造期間、元文元年(1736)から文政元年(1818)。通用期間元文元年から文政10年(1827)。量目は3.28gとされるが、本品は3.24gである。	外径は縦横
47	第89国	銭貨	4区 完形	24.04 24.15	1.37 1.65	2.89	寛永通寶。新寛永。後世の歪みあり。	
48	第89国	銭貨	5区 完形	24.59 24.68	1.06 1.22	2.92	嘉祐通寶。北宋、1056年初鑄。篆書。	
49	第89国	銭貨	5区 完形	23.02 22.99	1.20 1.22	3.30	昭和9年、1銭銅貨。	
50	第90国	銭貨	9区 完形	22.27 22.23	0.89 0.99	1.95	寛永通寶。新寛永。	
51	第90国	銭貨	11区 完形	23.54 23.55	0.90 0.92	2.21	寛永通寶。新寛永。	
52	第90国	銭貨	11区 完形	23.18 23.33	0.97 1.22	2.57	寛永通寶。新寛永。	
53	第90国	銭貨	11区 完形	22.78 22.87	1.01 1.35	2.49	寛永通寶。新寛永。	
54	第90国	銭貨	11区 完形	計測不可能			寛永通寶鉄銭であろう。臍く剥離不可能。	鉄銭2枚隣着
55	第90国	銭貨	11区 完形	計測不可能			寛永通寶鉄銭であろう。臍く剥離不可能。	鉄銭2枚隣着
56	第90国	銭貨	11区 完形	27.82 27.81	1.38	6.78	明治20年1銭銅貨。	厚みは中央計測
No.	持国No. 国取No.	種類 器種	出土位置 残存率	重量 (kg)		石材	法量 (cm)	備考
57	第90国 PL-17	五輪塔火輪	10区	11.8		粗粒輝石安山岩	最大幅 23.8 最小幅 12.6高さ 15.2	

第5章 自然科学分析

[1] 自然科学分析の経緯

本遺跡では、旧石器時代の調査及び平安時代の水田についての自然科学分析を行った。

旧石器時代の調査では、後期旧石器時代の植生及び古環境を復元し変遷過程をとらえるために、検出された粘土層に挟むするテフラと、それに含まれる花粉分析についての自然科学分析を行った。旧石器時代の遺跡はローム台地で検出されることが多く、花粉粒の残存する低地部の調査が行われることがほとんどないため、本遺跡で得られたデータは貴重である。火山灰分析は株式会社古環境研究所、花粉分析は株式会社古環境研究所及び、株式会社パレオ・ラボに委託した。

平安時代の水田の調査では明瞭な水田面が検出されなかった7、6、9区及び、11区の調査区壁面に見られるAs-B下直下及び、混土層で形成された粘土層から採取した植物珪酸体の自然科学分析を行った。植物珪酸体分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。それぞれの分析の成果は第6章 [1] 及び [2] に記載した。本文中の層位は、本文第6図基本土層に対応している。

[2] 萩原遺跡の土層とテフラ（火山灰）

1. はじめに

関東地方北西部に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間、榛名、赤城など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕別物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構や遺物包含層の層位や年代などを推定できるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層などが検出された萩原遺跡においても、地質調査を行って土層を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ検

出分析と屈折率測定を行って指標テフラの検出同定を行い、土層などの層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、6区2号トレンチおよび11区東壁トレンチである。

2. 土層の層序

(1) 6区2号トレンチ

6区2号トレンチでは、下位より青灰色粘土層（層厚10cm以上）、砂混じり褐色泥炭層（層厚28cm）、若干色調が明るい褐色泥炭層（層厚27cm）、暗褐色泥炭層（層厚30cm）、白色軽石混じり灰白色砂質細粒火山灰層（層厚4cm、軽石の最大径4mm）、暗褐色泥層（層厚3cm）、黄灰色粘土層（層厚9cm）、灰色粘土層（層厚12cm）、黒褐色泥層（層厚26cm）、暗褐色泥層（層厚17cm）、正の級化構造が認められる灰白色砂質細粒火山灰層（層厚8cm）、暗褐色泥層（層厚4cm）、灰色細粒軽石層（層厚8cm、軽石の最大径2mm）、暗褐色泥層（層厚2cm）、黒褐色泥層（層厚3cm）、暗褐色泥層（層厚2cm）、黄灰色シルト層（層厚0.3cm）、黒灰褐色泥層（層厚2cm）、灰色砂層（層厚7cm）、砂混じり灰色シルト層（層厚9cm）、若干色調が暗い灰色シルト層（層厚7cm）、灰色砂層（層厚4cm）、灰褐色表土（層厚12cm）が認められる（図1）。

(2) 11区東壁トレンチ

11区東壁トレンチでは、白色シルト層（層厚3cm以上）の上位に、下位より灰色粘質土（層厚16cm、Ⅴ層）、若干黄色をおびた灰色土（層厚7cm、Ⅴ層）、白色軽石混じり暗灰色粘質土（層厚6cm、軽石の最大径5mm、Ⅳ層）、若干色調が暗い灰色砂質土（層厚6cm、Ⅲ層）、黄灰色土（層厚4cm）、灰色土（層厚2cm）、黄灰色土（層厚2cm、以上Ⅱ層）、灰色作土（層厚14cm、Ⅰ層）が認められる（図2）

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

6区2号トレンチおよび11区東壁トレンチにおけるテフラ層序を記載することを目的として、基本的にテフラ層ごとあるいは厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、25点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡により、テフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。6区2号トレンチでは、試料43から試料39にかけて、白色軽石（最大径3.3mm）が含まれている。また試料43から試料37にかけては、この軽石の細粒物である白色の軽石型ガラスが含まれている。軽石の斑晶には、角閃石が認められる。その産状から、この軽石粒子で特徴づけられるテフラの降灰層準は試料43より下位にあると思われる。

試料27のテフラ層には、比較的粗粒の白色軽石（最大径4.1mm）や、その細粒物である白色の軽石型ガラスが多く含まれている。試料25から試料17にかけては、この軽石型ガラスのほか、無色透明の軽石型ガラスも認められる。試料12の火山灰層には、無色透明のバブル型ガラスがとくに多く含まれている。試料10の軽石層には、灰白色軽石（最大径3.3mm）や、その細粒物である軽石型ガラスも比較的多く含まれている。またβ石英もごく少量ながら認められる。さらに試料3や試料1にも、無色透明の軽石型ガラスが少量ずつ認められる。

一方、11区東壁セクションでは、試料3に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径1.8mm）やその細粒物である軽石型ガラスのほか、灰白色の軽石型ガラスも少量含まれている。前者の斑晶には角閃石が認められる。試料2には、比較的良く発泡した淡褐色の軽石（最大径1.8mm）やその細粒物である軽石型ガラスが比較的多く含まれている。この軽石の斑晶としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

6区2号トレンチにおいて認められたテフラ層（試料27）について、指標テフラとの同定を行うために、含まれる角閃石の屈折率測定を行った。測定には、温度変化型屈折率測定装置（RIMS86）を利用した。

(2) 測定結果

試料27に含まれる角閃石の屈折率（ n_2 ）は、1.671-1.679である。

5. 考察

6区2号トレンチの試料27のテフラ層については、その層相、角閃石が含まれていること、その屈折率などから、約3万年前^{*}に榛名火山から噴出した榛名箱田テフラ（Hr-HA, 早田, 1996）^{*}と考えられる。ほかのテフラに関しては、屈折率測定など行われていないために、同定精度が高いとはいえないが、試料13および試料12が採取されたテフラ層については、層相や火山ガラスの色調および形態などから、約2.4~2.5万年前^{*}に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰（AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995）と思われる。その上位の試料10の軽石層については、層位や層相かどから、約2.0~2.4万年前^{*}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 早田, 未公表資料）のうち、下部の室田軽石（MP, 森山, 1972, 早田, 1990）とも呼ばれるテフラと考えられる。

なお、試料5や試料3には斜方輝石が多く含まれており、As-BP Groupに由来するテフラ粒子が多いと思われる。また試料0の砂層には斜長石が多く含まれており、斜方輝石や単斜輝石も認められる。したがって、この試料には、約1.7万年前^{*}に浅間火山から噴出した浅間大窪第1軽石（As-Ok1, 中沢ほか, 1985, 町田・新井, 1992, 早田, 1996）あるいは約1.3~1.4万年前^{*}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・

新井, 1992)に由来するテフラ粒子の混在している可能性が考えられる。

今回のように、関東平野北西部において、後期更新世後半の泥炭層が断面で良好な状態で認められる機会は非常に少ない。今後採取されたテフラ試料を対象とした屈折率測定などによる指標テフラとの同定精度の向上を図るとともに、加速器質量分析計(AMS)の利用により、より古い年代の測定が可能になった放射性炭素(^{14}C)年代測定を行って泥炭の形成年代を明らかにしておく必要があろう。

11区東壁セクションの試料3(IV層)に含まれる白色軽石やその細粒物は、その岩相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。テフラの分布と本遺跡の位置関係からは、前者の可能性が高いように思われる。また同試料に含まれる灰白色の軽石型ガラスについては、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来する可能性が考えられる。さらに試料2(III層)に含まれる淡褐色軽石やその細粒物については、岩相や斑晶鉱物などから、1108(天仁元年)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

6. 小結

萩原遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名箱田テフラ(Hr-HA, 約3万年前^{*})、始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前^{*})、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約2.0~2.4万年前^{*})の下部の室田軽石(MP)、浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)など多くのテ

フラ層やそれらに由来すると考えられるテフラ粒子を検出できた。

- *1 放射性炭素(^{14}C)年代。
- *2 1980年代後半には、新井房夫群馬大学名誉教授により八輪火山灰(HA)と呼ばれていたようであるが(たとえば群馬県北碓村教育委員会ほか, 1986, 新井, 1989)、名称上、八輪軽石(Hr-HP, 新井, 1962)との識別が難しいことから、早田(1996)は舊式地の名称を使って榛名箱田テフラ(Hr-HA)と呼んでいる。

文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 新井房夫(1989) テフラの同定。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編「勝保中ノ山遺跡Ⅱ - 岡地自動車道(新吾線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書-」, p.265-266.
- 荒牧重雄(1968) 浅間火山の地質。地質研報, no.45, 65p.
- 群馬県北碓村教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団(1986) 分郷八輪遺跡-岡地自動車道(新吾線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(本文編), 693p.
- 池田見子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995) 南九州。始良カルテラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕堆中の炭化樹木の加速器質量分析法による ^{14}C 年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 2, 76p.
- 町田 洋・新井房夫(2003) 新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 松本英二・前田保夫・竹村忠二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の ^{14}C 年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田高登・平 朝彦(1993) 四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンタロム加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の ^{14}C 年代。地質報, 99, p.787-798.
- 森山昭雄(1971) 榛名火山東-山南部の地形-とくに軽石流の地形について-。地理学報告, no.36・37, p.107-116.
- 中沢英哉・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山。黒塚-前掛期のテフラ層序。第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 坂口 一(1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土層器と墳墓器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 37, p.297-312.
- 早田 勉(1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史通史編, 1, p.37-129.
- 早田 勉(1996) 関東地方-東北地方南部の指標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 友廣哲也(1988) 古式土器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 機(2000) 群馬の弥生土器が替わるとき。かみつひの里博物館「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

第5章 自然科学分析

表1 テフラ検出分析

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス	
		量	色調	最大径	量	色調
6区2号トレンチ	1	-	-	-	+	透明
	3	-	-	-	+	透明
	5	-	-	-	-	-
	10	**	灰白	3.3	**	透明
	12	-	-	-	++++	透明
	15	-	-	-	-	-
	17	-	-	-	+	透明
	19	-	-	-	+	透明
	21	-	-	-	**	透明
	23	-	-	-	**	白透明
	25	-	-	-	**	透明
	27	**	白	4.1	+++	透明
	29	-	-	-	-	-
	31	-	-	-	-	-
	33	-	-	-	-	-
35	-	-	-	-	-	
37	-	-	-	+	透明	
39	-	白	1.4	+	透明	
41	**	白	2.3	**	透明	
43	**	白	3.3	**	透明	
11区東壁セクション	2	**	灰褐色	1.8	**	透明
	3	+	白	1.8	+	透明
	4	-	-	-	-	-
	6	-	-	-	-	-

++++) 上にて多い, +++) 多い, **) 中程度, +) 少ない, -) 認められない, 最大径の単位はmm, tr) トラップ岩, pm) 軽石質.

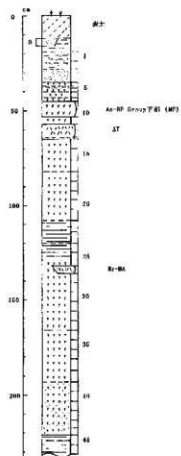


図1 6区2号トレンチの地質柱状図
数字はテフラ分析の試料番号。



図2 11区東壁トレンチの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号。

[3] 萩原遺跡における花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

ここでは、萩原遺跡における植生と環境について花粉分析から検討を行う。

2. 試料

試料は、萩原遺跡の6区2号トレンチより採取された堆積物、試料1（黒灰褐色泥）、試料2（黄灰色シルト）、試料3（黒褐色泥）、試料4（暗褐色泥）、試料5（暗褐色泥）、試料6（暗褐色泥）、試料7（暗褐色泥）、試料9（黒褐色泥）、試料12（灰色粘土）、試料13（黄灰色粘土）、試料14（暗褐色泥）、試料15（暗褐色泥）、試料17（暗褐色泥）、試料20（褐色泥炭）、試料23（砂混じり褐色泥炭）、以上計15点である。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理・化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるといった操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉30、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉21、シダ植物胞子2形態の計56である。これらの学名と和名および粒数を表2に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図3に示す。なお、森林植生を詳細にとらえるために、樹木花粉のみの結果を表3と図4に示す。樹木花粉総数が200個に達しなかった試料はプレパラートを追加してデータを補完した。ただし、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。

以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、キハダ属、ウルシ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、シナノキ属、トネリコ属、ツツジ科、ニワトコ属-ガマズミ属、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、ネ

ギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ワレモコウ属、フウロソウ属、ツリフネソウ属、セリ亜科、シソ科、オミナエシ科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

6区2号トレンチの花粉構成と花粉組成の変化から、下位より以下に示す5帯の花粉帯を設定した。

1) HGS-I帯(試料15'、17、20、23)

樹木花粉ではハンノキ属の出現率が高く、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキの落葉広葉樹とトウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の常緑針葉樹が伴われる。上位にむかって樹木花粉の占める割合が草本花粉より高くなり、シダ植物胞子の割合が高くなる。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が優占する。

2) HGS-II帯(試料12-14)

ハンノキ属が優占し、トウヒ属、ツガ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属の常緑針葉樹がやや高い出現率を示し、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキの落葉広葉樹は低率となる。樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が優占する。

3) HGS-III帯(試料6、7、9)

ハンノキ属が著しく減少し、コナラ属コナラ亜属、カバノキ属の落葉広葉樹が増加する。トウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属の常緑針葉樹が伴われる。下位より草本花粉の占める割合が高くなり、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が増加し、セリ亜科、ヨモギ属、キク亜科などが伴われる。

4) HGS-IV帯(試料5)

カバノキ属、トウヒ属がやや高率になることで特徴付けられる。ハンノキ属の出現率も下位と同程度を示す、草本花粉の占める割合がやや高くなり、カヤツリグサ科が増加優占し、イネ科などが伴われ

る。

5) HGS-V帯(試料1-4)

マツ属単維管束亜属を含むマツ属、トウヒ属、ツガ属を主とする常緑針葉樹の占める割合がやや高くなり、カバノキ属、コナラ属コナラ亜属を主にニレ属-ケヤキ、クマシデ属-アサダの落葉広葉樹とハンノキ属が伴われる。樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、シダ植物胞子が約40%占め上位に向かい減少する。草本花粉ではカヤツリグサ科が優占し、次いでイネ科が多く、ヨモギ属、セリ亜科などが伴われる。

5. 考察

(1) 推定される植生と環境

6区2号トレンチの植生と環境は花粉帯に沿って以下のように推定される。

1) HGS-I帯期(Hr-HA降灰以前)

コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキを主とする冷温帯落葉広葉樹林が分布し、近隣山地にはトウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の重高山(亜寒)帯常緑針葉樹林が分布していた。以上のことから冷涼な気候が示唆される。また、落葉広葉樹林要素のブナ属が極めて少ないことから、やや乾燥した気候が示唆される。採取地点周辺は、イネ科、カヤツリグサ科の湿地性草本が生育し、ハンノキ属の湿地林が分布する湿原が広がっていたと推定される。

2) HGS-II帯期(Hr-HA降灰後~AT降灰前の前期)

トウヒ属、ツガ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属の重高山(亜寒)帯常緑針葉樹林がやや拡大し、落葉広葉樹林は縮小する。こうしたことから、気候の寒冷化が示唆される。採取地点の湿原では、ハンノキの湿地林が拡大する。

3) HGS-III帯期(Hr-HA降灰後~AT降灰後の後期)

コナラ属コナラ亜属、カバノキ属の冷温帯落葉広葉樹林が拡大し、トウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属の重高山(亜寒)帯常緑針葉樹林も比較的多く分布する。気候の寒冷化と乾燥化が示唆される。採取地点の湿原ではハンノキ属の湿地

林が縮小し、イネ科、カヤツリグサ科を主に、セリ亜科、ヨモギ属、キク亜科などが生育する。

4) HGS-IV 帯期 (AT 降灰～As-BP Group 降灰)

カバノキ属とトウヒ属が高率となり、それぞれ常緑針葉樹林と落葉広葉樹林の要素で主要となる。このことから、気候の寒冷化と乾燥化が示唆される。採取地点の湿原では、カヤツリグサ科を主にイネ科の湿地性草本が生育する。

5) HGS-V 帯期 (As-BP Group 降灰以降)

マツ属単維管束亜属を含むマツ属、トウヒ属、ツガ属を主とする亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林が拡大し、カバノキ属、コナラ属コナラ亜属を主にニレ属-ケヤキ、クマシデ属-アサダの落葉広葉樹林も分布する。こうしたことから、寒冷で乾燥した気候が示唆される。採取地点の湿原はカヤツリグサ科とイネ科シダ植物の湿地性草本を主にヨモギ属、セリ亜科などが生育する。シダ植物胞子が多くなり、周囲でシダ植物の分布する乾燥地が拡大する。

(2) 堆積環境と花粉遺体の性格

Hr-HA 降灰直後の粘土層 (HGS-II 帯) の花粉群集をみると、ハンノキ属が特徴的に高率となり、樹木および草本の種類が下位の泥炭層 (HGS-I 帯) に比べて乏しくなる。火山灰降灰による土壌の悪化と乾燥化によって、周辺でハンノキ属が増加したと考えられる。HGS-I 帯期から HGS-V 帯期 (約 50,000 年前以前から約 22,000 年頃以後) の 5 万年間は、概ねコナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキやカバノキ属を主とする冷温帯落葉広葉樹林とトウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林が分布し、冷温帯から亜高山(亜寒)帯の気候で成立した森林と判断される。なお、ブナ属が低率であり、ブナ属の生育に適さない乾燥した気候であったと考えられる。トウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林の拡大は、HGS-V 帯期に行われ、栃木県二宮町の立川期極寒期の花粉群集(辻ほか、1984)等と類似する。立川期極寒期には本遺跡を含む北関東の地域に

トウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林要素を主にコナラ属コナラ亜属、カバノキ属を主とする冷温帯落葉広葉樹林要素とハンノキ属を主要素とする森林が成立していたと考えられる。

6. まとめ

以下に、萩原遺跡 6 区 2 号トレンチで花粉分析を行い得られた植生と環境をまとめる。

1) Hr-HA 降灰以前 (HGS-I 帯)

コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキの冷温帯落葉広葉樹林を主にトウヒ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属、ツガ属、モミ属の亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林が分布する。冷涼でやや乾燥した気候が示唆される。採取地点の湿原は、イネ科、カヤツリグサ科の湿地性草本とハンノキ属の湿地林が分布する。

2) Hr-HA 降灰～AT 降灰の前期 (HGS-II 帯)

トウヒ属、ツガ属、マツ属単維管束亜属を含むマツ属の亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林がやや拡大する。気候の寒冷化が示唆される。採取地点の湿原ではハンノキの湿地林が拡大する。

3) Hr-HA 降灰～AT 降灰の後期 (HGS-III 帯)

コナラ属コナラ亜属、カバノキ属の冷温帯落葉広葉樹林が拡大する。気候の冷涼化とやや乾燥化が示唆される。採取地点の湿原ではハンノキ属の湿地林が縮小する。

4) AT 降灰～As-BP Group 降灰期 (HGS-IV 帯)

カバノキ属とトウヒ属が増加する。気候の寒冷化と乾燥化が示唆される。

5) As-BP Group 降灰以後 (HGS-V 帯)

マツ属単維管束亜属を含むマツ属、トウヒ属、ツガ属を主とする亜高山(亜寒)帯常緑針葉樹林が拡大する。寒冷で乾燥した気候が示唆される。周囲でシダ植物の分布する乾燥地が拡大する。

第5章 自然科学分析

参考文献

中村 純 (1973) 花粉分析, 古今書院, p.82-110.
 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス, 東京大学出版会, p.269.
 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原, 新版古代の日本 第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
 鳥倉三郎 (1973) 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村 純 (1980) 日本産花粉の標鑑, 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
 辻誠一郎・南木睦彦・鈴木三男 (1984) 栃木県南部, ニノ宮町における立川期の植物遺体群集, 第四紀研究, 23, p.21-29.
 安田喜恵・三好教夫 (1998) 関東地方の植生史, 図説日本列島植生史朝倉書店, p.73-81.

表3 森原遺跡における顕木花粉分析結果

学名	和名	6区2層トレンチ															
		1	2	3	4	5	6	7	9	12	13	14	15	17	20	23	
顕木花粉																	
<i>Aster</i>	アスター	10	7	18	13	6	5	4	13			1	3	9	11	3	5
<i>Alnus</i>	トウヒ	33	21	66	94	50	16	15	21			19	16	32	28	26	13
<i>Fagus</i>	ワケ	63	47	54	16	17	24	40	41			6	23	12	19	12	19
<i>Pinus</i>	マツ	15	3	15	26	9	9	12	17			9	8	7	5	8	4
<i>Pinus subgen. Diphylon</i>	マツ属亜属管束亜属	31	43	56	41	9	20	26	24			8	2	4	22	15	24
<i>Pinus subgen. Haploxylon</i>	マツ属亜属管束亜属	4	8	19	53	15	14	5	5			1	7	8	6	13	7
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	15	2	13	4	2	9	10	6			1	3	4	5	11	8
イナギ科-イヌギヤ科-ヒノキ科																	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae																	
<i>Saier</i>	ヤナギ	1	1	1	5	1	1	2	1			1	1	1	1	1	1
<i>Juglans</i>	クルミ											1	1	1	2	5	2
<i>Parocorys huebii</i>	サワグルミ	2	1										3	2	3	6	
<i>Alnus</i>	ハンノキ	56	36	34	35	73	63	68	85	99	253	261	179	124	173	190	
<i>Betula</i>	カハハキ	24	34	26	17	96	56	30	24	1	6	10	6	7	10	10	
<i>Corylus</i>	ハシバミ	5	1	1	1	5								2			
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシロノミ	16	7	4	7	19	12	11	9	1	3	2	2	5	4	2	
<i>Castanea errata</i>	タリ	6	3	2	5	16	4					2		9	2	2	
<i>Fagus</i>	ブナ	5	1	2	1	4	2	3				4	2	2			
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	28	32	44	24	27	82	93	72	1	9	16	23	35	37	23	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	17	10	13	8	7	16	13	19	2	4	13	32	28	33	24	
<i>Celtis-Alanoides otopora</i>	エノキ属-ムクノキ	6	4									1		1	1	3	1
<i>Phellodendron</i>	キハダ	1															
<i>Bass</i>	ウルシ	1															
<i>Celastraceae</i>	ニシキギ科																
<i>Acer</i>	カエデ	1	2	2	1	3	2	3				1	2	2	6	1	
<i>Acerulus tarbinata</i>	トチノキ																
<i>Vitis</i>	ブドウ																
<i>Tilia</i>	シナノキ	1	1	1	2	1	2	4									
<i>Fraxinus</i>	トネリコ	1												2	4	12	4
<i>Ericaceae</i>	ワツジ科																
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガヤズミ属																
<i>Lonicera</i>	スイカズラ																
Total Aheral pollen	顕木花粉総数	339	263	373	348	351	356	342	349	111	343	362	346	326	376	339	

[3] 萩原遺跡における花粉分析

表2 萩原遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	6区全層トレンチ															
		1	2	3	4	5	6	7	9	12	13	14	17	17	20	20	
Arboreal pollen	樹木花粉																
<i>Alnus</i>	ヤシ風	1	2	6	6	1	2	3	4	1	3	2	6	3	1		
<i>Pinus</i>	トウヒ風	6	3	19	43	25	9	7	2	19	16	27	24	12	7		
<i>Taxus</i>	ツグ風	13	15	17	7	11	15	20	18	6	23	12	17	6	8		
<i>Pinus</i>	マツ風	1	1	2	16	5	5	8	4	9	8	3	2	3			
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属亜属管葉実系属	7	12	11	23	3	9	13	11	6	2	2	3	17	9		
<i>Pinus subgen. Haploxylon</i>	マツ属亜属管葉実系属	1	4	9	20	8	5	3	1	1	7	6	5	4	11		
<i>Corylmopsis japonica</i>	スズガ	3	1	3	1	1	6	6	1	1	3	4	4	6	4		
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae</i>	イヌササ科-イヌササ科-ヒノキ科	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
<i>Sida</i>	ナナハシ風																
<i>Agelaea</i>	カスミ草																
<i>Paracarya rakuhiensis</i>	ナナハシ	1	1							1	1	1	1	3	1		
<i>Alnus</i>	ヤシ風	14	15	9	20	32	22	41	28	99	253	261	134	79	86		
<i>Betula</i>	カバノキ風	9	14	9	9	46	27	18	11	6	10	4	5	7	3		
<i>Corylus</i>	ハシバミ風	1	1	1	1												
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	ナツハシバミ-アザミ	6	2	1	6	11	9	4	1	1	3	2	2	1	1		
<i>Castanea cretata</i>	ナツハシ	3	2	2	2	5	9	3									
<i>Fagus</i>	ブナ風	1	1	1	1	3	2	1									
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属-コナラ属	13	20	18	14	11	52	58	21	1	9	16	17	25	22		
<i>Quercus subgen. sessilis</i>	クニ風-ナカヤシ	4	2	4	6	2	10	11	8	2	4	13	22	10	17		
<i>Celtis-Japaneseae caryna</i>	エノキ属-ムクノキ	3	4														
<i>Phellodendron</i>	キハダ風																
<i>Elm</i>	ウルシ風																
<i>Coltraxaceae</i>	コシキザ科																
<i>Acer</i>	カエデ風	1	1	2													
<i>Aucularia arborea</i>	トチノキ																
<i>Vitis</i>	ブドウ風																
<i>Vitis</i>	ブドウ風	1	1	1	1	3	2	1									
<i>Fraxinus</i>	トネリコ風	1															
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科																
<i>Sambucus-Jambosum</i>	ヒヨドリバナ科-ヤマブシ風																
<i>Lenticeae</i>	スイカズラ風																
Arboreal + Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																
Moraceae-Urticaceae	ナツハシ-イワナギ科																
Leguminosae	マメ科	2	1														
Araliaceae	ウラボシ科	1															
Nonarboreal pollen	草本花粉																
<i>Poly-Sporopollenin</i>	ポリースポロポレンリン	1															
<i>Cyperaceae</i>	イネ科	110	92	129	47	23	83	77	94	34	81	47	70	76	127		
<i>Cyperaceae</i>	イネ科	120	218	175	237	290	122	102	134	18	27	47	86	34	68		
<i>Alliaceae</i>	オニユリ風	1															
<i>Polygonaceae</i>	タデ風	1															
<i>Polygonaceae sect. Persicaria</i>	タデ属ナナエタデ属																
<i>Cheopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アザミ科-ヒヨドリ																
<i>Caryophyllaceae</i>	ナズナ科																
<i>Ranunculaceae</i>	キンギョウ草																
<i>Thalictrum</i>	ネリウツク草																
<i>Cruciferae</i>	アブラナ科																
<i>Singonanthus</i>	ウラボシ科																
<i>Geraniaceae</i>	ウラボシ科	1	1	7													
<i>Delphinium</i>	コリヤネツク草	1	2	1													
<i>Aspidistra</i>	セリ科	18	12	19	1	1	21	32	24	1	2	3	2	4	3		
<i>Labiatae</i>	シソ科																
<i>Valerianaceae</i>	オミナシ科																
<i>Actinostemon labatum</i>	ゴキウ草	1															
<i>Lacustrinae</i>	タンゴの産物																
<i>Asteroidaceae</i>	キク科	2	15	4	1	1	14	12	11	5	2	1	1	7	11		
<i>Asteroidaceae</i>	キク科	19	12	23	6	7	19	24	37	19	4	15	7	9	15		
Fern spore	シダ類胞子																
<i>Mosslike type spore</i>	蘚類胞子	40	194	237	298	75	69	62	73	21	43	194	176	90	28		
<i>Tritile type spore</i>	三葉蘚胞子	5	7	6	1												
Arboreal pollen	樹木花粉	87	103	111	188	170	208	203	124	111	343	362	258	230	188		
Arboreal + Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0		
Nonarboreal pollen	草本花粉	272	354	358	293	324	277	255	303	68	117	126	170	136	194		
Total pollen	花粉総数	361	459	470	481	494	485	460	427	179	460	489	427	367	394		
Unknown pollen	未同定花粉	4	8	2	7	8	8	5	8	4	3	13	12	15	12		
Fern spore	シダ類胞子	45	201	243	299	75	69	62	75	21	43	194	176	90	28		
Blennium eggs	葉巻虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
Digestion residue	消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		

[4] 萩原遺跡の植物珪酸体

1. はじめに

群馬県太田市吉沢に所在する萩原遺跡において発掘調査が行われ、浅間Bテフラ直下等より水田層と推測される土層が認められたものの、明瞭な水田遺構は検出されなかった。こうしたことから植物珪酸体分析より稲作の有無について検証する目的で、水田層と推測される土層を中心に土壌試料が採取された。以下にこの土壌試料について行った植物珪酸体分析の結果を示し、稲作の有無について検討した。

2. 試料

試料は、調査7区の深堀地点北壁より採取された6試料(1~6)、調査9区の北壁より採取された4試料(9-1~9-4)、調査11区の東壁の8試料(1~8)、同北壁の7試料(9~15)、同南壁の3試料(S-1~S-3)、同Aベルトの5試料(試料A-1~A-5)、同Dベルトの1試料(D-1)の総計34試料である(図1)。以下に各試料について簡単に示す。

調査7区深堀北壁：試料1(IV層)は浅間Bテフラ(As-B)混じりの黒~黒褐色粘土である(B混)。その直下のV層は浅間Bテフラの純層で、一部レンズ状に堆積している。試料2(VI層)は黒色粘土、試料3(VII層)は褐色粘土、試料4(VIII層)はオリブ灰色粘土、試料5(IX層)は暗緑灰色粘土、試料6(X層)は青灰色粘土で、さらにその直下は灰白色のテフラ層である。

調査9区北壁：最上部II層は黒褐色の砂質粘土、I層は黒灰色の砂質粘土である。1層(試料9-1)は黒褐色粘土で、浅間Bテフラが多量に混入している(B混)。2層(9-2)は黒褐色粘土、3層(9-3)も黒褐色粘土である。4層(9-4)は黒灰色砂に灰白色粘土が混じっている。

調査11区東壁・北壁：最上部I層(試料1)は黒褐色の砂質シルト(現耕作土)で、赤褐色の酸化鉄が点状に散在している。II層(試料2, 9)は灰黄褐色の砂質粘土で、赤褐色酸化鉄が全体に集積している。III層(試料3, 10)は黒褐色の砂質粘土で、浅間Bテフラが混入しており、赤褐色酸化鉄の

弱い集積が認められる。IV層(試料4, 11)は褐色の粘土で、上半部に白色粒子(榛名二ツ岳洗川テフラ:FA)が散在しており、強い赤褐色酸化鉄の集積が下部で認められる。V層(試料5, 12)は洪水層と考えられているやや砂質の褐色粘土で、赤褐色の酸化鉄が強く集積している。VI層(試料6, 13)は褐色の砂質粘土で、赤褐色の酸化鉄が塊状に散在している。また本層は洪水土を耕作した土と推測されている。最下層(試料7, 8, 14, 15)は黒灰色の粘土で、最下部は砂が混入しており、赤褐色酸化鉄の集積が上部に認められる。また灰白色粘土が塊状に東壁では多量に、北壁では上部で多量に、他は散在した状態で認められる。

調査11区南壁：埋土層の下は黒褐色砂質粘土(II層)、さらに下位のI層は黒褐色粘土、1層も黒褐色粘土で浅間Bテフラが多量に含まれている(B混)。2層(試料S-1)も黒褐色の粘土である。3層(S-2)も黒褐色の粘土で、下位の粘土が混入している。最下部4層(S-3)は青黒色の粘土である。

調査11区Aベルト：最上部I層は黒褐色粘土で、浅間Bテフラが多量に混入している(B混)。2層(試料A-1)は黒褐色粘土(2面耕土)、4層(A-2)は暗灰色粘土(3面耕土)、6層(A-3)は黒褐色砂質粘土、7層(洪水砂)は灰白色砂で、さらに下位(A-4)は黒褐色粘土(4面構成土)である。また本地点より南へ2m強の地点に畦畔状の高まりが認められ、その8層(黒褐色粘土)より1試料(A-5)が採取された。

調査11区Dベルト：畦畔状に認められる5層より1試料(試料D-1)が採取された。

3. 分析方法

上記した34試料について以下のような手順にしたがって植物珪酸体分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈

降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが300個に達するまで行った。

4. 分析結果

同定・計数された各植物の機動細胞珪酸体個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各機動細胞珪酸体個数を求め(表1)、それらの分布を図2(7区深堀北壁)、図3(11区東壁)、図4(9区北壁)、図5(11区北壁)、図6(11区南壁)、図7(11区Aベルト)、図8(11区Dベルト)に示した。以下に示す各分類群の機動細胞珪酸体個数は試料1g当りの検出個数である。

調査7区深堀北壁：検鏡の結果、最下部試料6を除く上位5試料よりイネの機動細胞珪酸体が検出された。そのうち5,000個を越えているのは1, 3, 4の3試料で、2と5は1,500個前後を示している。また最上部試料1よりイネの類に形成される珪酸体の破片がわずかながら観察された。

調査9区北壁：全試料よりイネの機動細胞珪酸体が検出された。個数としては、上位3試料が約30,000個～約40,000個を示しており、最下部試料が最も少なく、2,600個得られている。また穎部珪酸体の破片が9-1より若干観察されている。

イネ以外ではやはりネザサ節型が最も多く、最上部試料9-1では100,000個を超えるなど、大まかな傾向としては上部に向かい増加している。同様の傾向がキビ族やウシクサ族にみられるが、ヨシ属は反対に上部に向かいほぼ減少している。

調査11区東壁：検鏡の結果、下部3試料を除く上位5試料よりイネの機動細胞珪酸体が検出された。個数としては、最も少ないのは試料5(V層)の3,500個で、他の4試料はいずれも10,000個を超えており、試料1では約63,000個を示している。またイネの穎の部分(初殻)に形成される珪酸体の破片が上位2試料で観察されている。

イネ以外について、ネザサ節型が最も多く検出されており、上位2試料では100,000個を超えるな

ど、試料4(IV層)より上位で急増している。クマザサ属型やウシクサ族も同様の産出傾向を示しており、そのうちウシクサ族は上位4試料で10,000個以上を示している。キビ族が下部で非常に多く検出され、最下部試料8では50,000個を超えるなど生産量の小さいキビ族としては非常に高い数値を示している。ヨシ属は中央部試料4, 5(IV層, V層)で多産しているが、その上位では急減している。その他、シバ属が上部2試料で観察されている。

調査11区北壁：下部2試料を除く上位5試料よりイネの機動細胞珪酸体が検出された。個数としては、最も少ないのは試料13(VI層)の2,500個で、他の4試料は20,000個前後を示している。

イネ以外ではやはりネザサ節型が最も多く、最上部試料9(II層)では150,000個を超えるなど、上部に向かい増加している。ウシクサ族もネザサ節型と同様にほぼ上部に向かい増加している。本地点においても下部試料でキビ族が多産しており、最下層上部の試料14では30,000個近くに達している。ヨシ属は中央部試料で多く、試料11, 12(IV層, V層)では50,000個を超えるがその直上では急減している。その他クマザサ属型、サヤカグサ属、シバ属が検出されており、そのうちシバ属は上部試料のみの産出である。

調査11区南壁：検鏡の結果、上位2試料で多くのイネの機動細胞珪酸体が検出された。個数としては、S-1が17,000個、S-2が16,000個である。またS-1ではイネの穎の部分に形成される珪酸体の破片が観察されている。

イネ以外ではネザサ節型が最も多く、試料S-2では100,000個を超えている。次いで40,000個前後を示しているウシクサ族が多く、ヨシ属も全試料25,000個以上と非常に多く得られている。クマザサ属型は上部に向かい減少しており、キビ族は中央部試料S-2で10,000個を超えている。またシバ属が若干検出されている。

調査11区Aベルト：検鏡の結果、最下部試料A-4を除く上位3試料と畦畔状試料A-5よりイネの機動

細胞珪酸体が検出された。個数としては、最も少ないのは試料A-3（6層）の約9,000個で、他の4試料はいずれも10,000個を超えており、上部2試料では約35,000個前後を示している。

イネ以外ではネザサ節型が最も多く検出されており、上位2試料では150,000個を越えている。傾向としては上部に向かい急増しており、同様の傾向がキビ族に認められ、上部2試料では10,000個を超えている。ヨシ属が全試料40,000個以上と非常に多く、上部2試料では90,000個近くと、珪酸体の生産量が低いヨシ属としては非常に大きな数値を示している。ウシクサ族も全試料20,000個以上と多く検出されており、その他クマザサ属型、シバ属、サヤスカグサ属などが得られている。

調査11区Dベルト：イネは観察されず、また全体に機動細胞珪酸体の検出個数は少なかった。そのなかでヨシ属は約30,000個と非常に多く検出されている。その他、ネザサ節型が約10,000個で、クマザサ属型やキビ族、ウシクサ族は5,000個前後を示している。

5. 稲作について

上記したように、イネの機動細胞珪酸体は下部試料を除き検出されており、その多くが10,000個以上を示している。ここで検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、イネの機動細胞珪酸体が試料1g当たり5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原、1984）。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、イネの機動細胞珪酸体の産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。

調査7区深堀北壁：試料1, 3, 4において稲作が行われていた可能性は高いと判断され、よってIV層、VI層、VII層が水田層と推察される。一方、試料2, 5, 6においてはその結果から稲作が行われていた可能性は低いと判断される。そのうち試料2のVI層について、水田層と判断される直下のVII層の含水比約38%に比べ、試料2のVI層は約90%とかな

り高くなっている。参考として同じく水田層と判断された試料1の含水比は約39%、試料4は約51%であった。こうしたことから何らかの要因で水田が行われなくなり、湿地化し、そこに浅間Bテフラが降下・堆積したものと推測される。

また試料5のIX層における花粉分析結果（試料7-2）をみると、イネ科花粉が多く観察されており、その中にイネと推測される表面模様を持つ花粉が認められている。また水田雑草を含む分類群であるオモダカ属も比較的多く得られている。こうしたことから機動細胞珪酸体の個数は少なかったものの、7区の一部地域で稲作が行われていた可能性はあると推測されよう。

以上のように本地点においてはIX層堆積期頃より水田稲作が行われるようになり、要因は不明であるが一時期水田稲作は中断され、浅間Bテフラ降下後再び水田稲作が行われるようになったとみられる。

調査9区北壁：3層より上位で上記5,000個を超えるイネの機動細胞珪酸体が検出されており、この3層より上位の層については稲作を指示する結果が得られたと判断される。なお最下部試料からもイネの機動細胞珪酸体が若干検出されているものの個数的には5,000個以下と少なく、稲作について、その可能性は低いと判断されよう。おそらく直上の3層より動植物の擾乱によりもたらされたものと推測されよう。

調査11区東壁：試料4より上位で上記5,000個を超えるイネの機動細胞珪酸体が検出されており、この試料4すなわちIV層より上位の層については水田稲作を指示する結果が得られたと判断される。また、さらに下位の試料5からもイネの機動細胞珪酸体が若干検出されている。しかしながらV層は洪水層と考えられていることから、このイネの機動細胞珪酸体は他の地点の稲作地よりもたらされたものと推測される。

調査11区北壁：試料12より上位で5,000個を超えるイネの機動細胞珪酸体が検出されており、この試料12のV層より上位の層については水田稲作を指示す

る結果が得られたと判断される。また試料13からもイネの機動細胞珪酸体が若干検出されている。この試料13のVI層は洪水土を耕作した土ではないかと考えられており、畦畔と推測される部分も検出されている。よって検出個数は少ないもののこうした遺構の状況を考え合わせるとこのVI層においても水田稲作が行われていた可能性は高いと推察される。なおイネの機動細胞珪酸体が少ない要因として、洪水などの影響で耕作期間が短くなってしまい、その結果として機動細胞珪酸体の密度が低くなっていたことが考えられる。また洪水で機動細胞珪酸体密度の濃い部分が流されてしまっていることも考えられる。

以上のように、調査11区東壁・北壁の水田遺構面が考えられている1～3面についてはそれを支持する結果が得られたと判断され、4面についてもその可能性は高いと推察される。しかしながらこの4面における水田稲作については、東壁試料からイネの機動細胞珪酸体が検出されていないことから、部分的であった可能性も考えられる。

調査11区南壁試料：上部2試料、すなわち3層より上部でイネの機動細胞珪酸体が多く得られており、稲作が行われていた可能性は高いと検出個数のみからは判断される。

調査11区Aベルト：最下部試料A-4を除く上位3試料で上記5,000個を超えるイネの機動細胞珪酸体が発見されており、試料A-3の6層より上位の層については水田稲作を指示する結果が得られたと判断される。また畦畔が考えられている試料A-5からもイネの機動細胞珪酸体が多量に検出されており、周辺で水田稲作が行われていたことが予想される。

調査11区Dベルト：イネの機動細胞珪酸体は全く検出されず、試料採取地点付近ではヨシ属が多く生育していたと推測される。

6. 萩原遺跡周辺のイネ科植物

ここでは調査11区東壁・北壁試料の植物珪酸体分析結果を基に萩原遺跡周辺のイネ科植物について示す。

最下層においてキビ族が多産している。このキビ

族について、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培植物であるのか、エノコログサやイヌビエなどの雑草類であるのかを区別するのは難しいのが現状である。土相は粘性の非常に高い粘土であり、畑作土とは考え難い様相を示している。こうしたことからこのキビ族については湿地などに生育するイヌビエやチゴザサといった雑草類ではないかと思われる。

その後水田稲作が行われ始める頃においてヨシ属が非常に多く検出されており、水田内やその周辺の水路などにヨシやツルヨシといったヨシ属が多く生育するようになり、こうした状況は榛名二ツ岳洪川テフラ（FA）が混じるIV層堆積期頃まで続いたとみられる。また同時期にネザサ節型やウシクサ族も増加している。アズマネザサが推測されるこのネザサ節型のササ類やススキ、チガヤなどのウシクサ族は日のあたる開けたところでの生育が考えられ、水田稲作にともなう人間の活発な活動により開けた空き地の広がりも推測され、そうしたところにネザサ節型のササ類やウシクサ族が侵入し分布を拡大したことが考えられる。

浅間Bテフラが混じるIII層堆積期になるとヨシ属は急減しており、これは水田稲作地の整備などでヨシ属の生育地は狭められたことが考えられる。反対にこの頃よりシバ属が検出され始めその後増加しており、水田周辺の畦道などにノシバなどが侵入し生育地を広げたと推測される。

なお東壁試料においてクマザサ属型が上部に向い増加している。このクマザサ属型のササ類（ミヤコザサやスズダケなど）は主に森林の下草的存在での生育が考えられ、遺跡周辺の丘陵部などに成立していたであろう森林下に分布を広げていたとみられる。

引用文献

- 藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探索－、考古学ジャーナル、227、2-7。

第5章 自然科学分析

表1 試料1g当たりの機動細胞珪酸体個数

調査区	試料 番号	イネ (個/g)	イネ 細破片 (個/g)	ネギ等 節型 (個/g)	クマザサ 属型 (個/g)	他の タケ亜科 (個/g)	ヤマスカ ダサ属 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ属 (個/g)	ウシタサ 属 (個/g)	ジュズ ダマ属 (個/g)	不明 (個/g)
7区深淵北壁	1	11,400	1,300	20,200	1,300	0	0	15,200	0	5,100	8,800	0	17,700
	2	1,700	0	58,500	0	0	0	43,000	0	12,000	75,700	0	39,600
	3	17,100	0	81,900	0	1,100	0	132,000	0	5,700	34,100	0	54,600
	4	8,200	0	28,800	2,700	1,400	0	122,200	0	1,400	46,700	0	30,200
	5	1,200	0	29,500	1,300	1,300	0	91,100	0	0	33,500	0	22,800
9区北壁	6	0	0	10,200	1,500	0	0	24,800	0	13,100	10,200	0	13,100
	9-1	43,700	1,200	117,700	14,600	4,900	0	34,000	1,200	9,700	30,300	0	23,100
	9-2	27,300	0	99,200	9,900	2,500	0	70,700	0	6,200	23,600	0	19,900
	9-3	30,000	0	71,100	23,700	3,700	0	71,100	0	5,000	37,400	0	16,200
11区東壁	9-4	2,600	0	73,100	13,000	5,200	0	116,100	0	2,600	15,700	0	14,300
	1	63,400	26,300	129,100	10,800	8,400	1,200	4,800	6,000	16,700	22,700	0	19,100
	2	32,900	1,100	145,200	11,300	1,100	0	14,700	5,700	10,200	22,700	0	25,000
	3	15,800	0	79,100	5,700	2,300	0	11,300	0	7,900	14,700	0	9,000
	4	13,800	0	85,000	5,700	1,100	0	48,300	0	12,600	23,000	0	36,800
	5	3,500	0	13,000	2,400	1,200	1,200	33,000	0	5,900	7,100	0	4,700
	6	0	0	3,900	1,300	0	0	15,500	0	6,500	3,900	0	2,600
	7	0	0	5,200	0	0	0	2,600	0	28,600	3,900	0	13,000
11区北壁	8	0	0	7,100	0	0	0	12,800	0	56,600	5,700	0	11,400
	9	18,600	0	150,100	3,500	3,500	0	8,100	7,000	4,700	32,600	0	30,300
	10	25,200	0	96,500	2,100	2,100	0	10,500	1,000	8,400	11,500	0	19,900
	11	28,700	0	69,200	8,400	4,800	0	52,600	0	6,000	20,300	0	39,400
	12	14,000	0	71,000	3,800	2,500	1,300	62,100	0	3,800	12,700	0	27,900
	13	2,500	0	23,700	1,200	0	1,200	31,200	0	10,000	8,700	0	17,500
	14	0	0	3,900	0	0	0	6,500	0	28,400	3,900	0	6,500
11区南壁	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400	1,400	0	1,400
	S-1	17,000	1,100	73,100	8,500	0	0	33,000	0	7,500	45,800	0	22,400
	S-2	16,000	0	100,500	13,700	5,700	0	26,300	0	13,700	33,100	0	18,300
11区Aベルト	S-3	1,100	0	77,200	18,200	1,100	0	46,500	2,300	6,800	40,900	0	25,000
	A-1	35,500	0	167,700	14,700	4,900	1,200	86,900	1,200	22,000	57,500	1,200	39,200
	A-2	34,100	0	151,400	18,900	15,100	1,200	89,600	1,300	12,600	41,600	0	32,800
	A-3	8,700	0	96,200	13,700	6,200	0	66,200	0	5,000	47,500	1,200	18,700
	A-4	0	0	12,000	2,700	0	0	42,800	0	2,700	22,800	0	6,700
	A-5	23,100	0	97,500	9,000	6,400	0	65,400	0	7,700	33,400	0	23,100
11区Dベルト	D-1	0	0	9,500	6,800	0	0	27,100	0	4,100	5,400	0	9,500

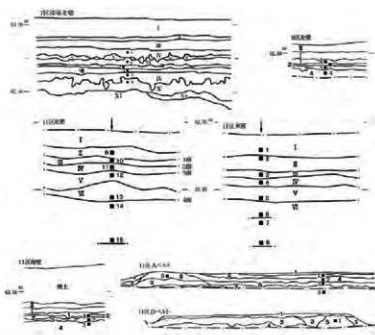


図1 試料採取地点付近の土層断面と試料採取層準 (■)

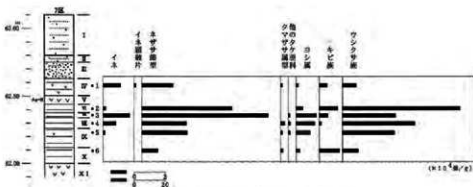


図2 7区深堀断面上位層の機動細胞珪酸体分布図

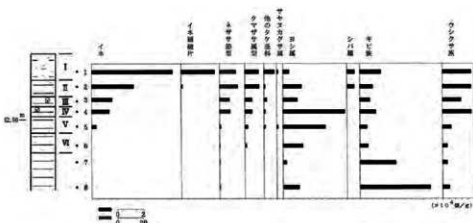


図3 11区東壁の機動細胞珪酸体分布図



図4 9区北壁の機動細胞珪酸体分布図

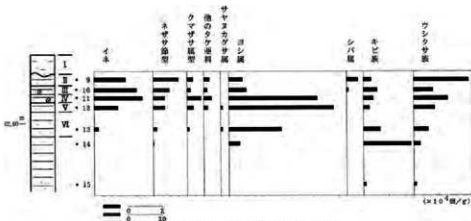


図5 11区北壁の機動細胞珪酸体分布図



図6 11区南壁の機動細胞珪酸体分布図

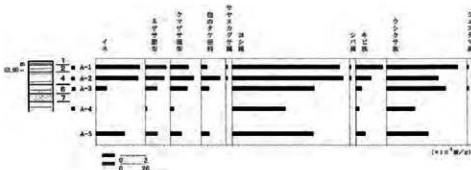


図7 11区Aベルトの機動細胞珪酸体分布図



図8 11区KDベルトの機動細胞珪酸体分布図

第6章 成果

[1] 自然科学分析の成果

1. はじめに

関東平野西北部に位置する群馬県太田市萩原遺跡の発掘調査において自然科学分析（火山灰分析・花粉分析）を行った。分析に関する詳細は第5章〔2〕〔3〕に報告した。本稿では、各分析報告のうち後期旧石器時代に関連する成果についてまとめ、分析結果に関する若干の考察を行うこととする。

2. 経緯

2004年4月から2005年3月に行われた萩原遺跡の発掘調査で低地部から良好な堆積状態の粘土層が検出された。粘土層には一次堆積層のテフラが複数挟まれていた。

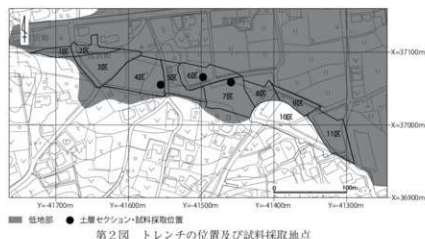
発掘当時、調査担当者は粘土層に挟在するテフラは肉眼観察により、浅間板敷褐色軽石群（As-BPGroup）、始良丹沢火山灰（AT）、榛名箱田火山灰（Hr-HA）あるいは榛名八崎軽石（Hr-HP）に相当する可能性があると予測し、これらのテフラが挟在する粘土層は約3年前から2万年前に相当する後期旧石器時代の堆積物であると推測した。さらに、このような良好な堆積を示す粘土層は、ローム台地に立地する一般的な旧石器遺跡ではほとんど期待できない貴重な堆積物であり、水成堆積を示すその堆積物からはローム台地の旧石器遺跡よりも保存状態の良い花粉化石が採取できる可能性

が高く、そこから得られた分析データは後期旧石器時代の植生および古環境を復元し、その変遷過程を捉える上で大きな意義を持つと考えた。

そこで、火山灰分析と花粉分析を行うこととした。なお、火山灰分析は株式会社古環境研究所、花粉分析も株式会社古環境研究所に委託した〔註1〕。

3. 萩原遺跡の立地環境

萩原遺跡は、群馬県太田市緑町に所在する。北緯 $36^{\circ} 20' 11''$ 、東経 $139^{\circ} 22' 03''$ （世界測地系）。標高は低地部で約64mである。関東平野西北部のなかの独立峰である金山の最北端部に位置する。金山か



ら延びる裾野末端部の丘陵部と渡良瀬川扇状地の最西端部の低地部から遺跡は構成される。西側の丘陵上には峯山遺跡が隣接し、2時期の旧石器文化層が検出されている。北側から北東側は低地部で、低地部を挟んで八王子丘陵となる。

4. 火山灰分析

低地部に立地する調査区で粘土層の堆積が確認された。粘土層やテフラの堆積状態は調査区毎に若干の違いが見られたもののほぼ同じであった。

火山灰分析試料は6区2号トレンチで採取した。次に4区・6区・7区の土層堆積状況について説明する。

(1) 4区の土層堆積 (第3図・表1)

4区東端部にトレンチを設定した。4区ではV層より下層で粘土層が堆積し、一次堆積層のテフラがXI層・XII層・XIII層上部で確認された。XI層は浅間室田軽石(As-BPGroup (As-MP))の一次堆積層で層厚は概ね5~10cm、XIV層はATの一次堆積層で層厚は概ね2~8cm、XIII層上部にはHr-HAがブロック状(層厚2~4cm)に堆積していた。また、ATとAs-BPGroup (As-MP)の間層には、灰色粘土層(XII層・層厚2~8cm)が堆積していた。現地表面の標高は64.2m、ATの標高は63.0m、Hr-HAの標高は62.2mである。

(2) 6区の土層堆積 (第4図・表2)

6区中央部にトレンチを2本設定した。6区では、IIa層より下層で砂質層及び粘土層が堆積し、

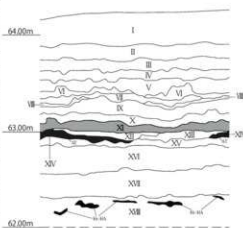
一次堆積層のテフラがV層・VI層・XII層で確認された。V層はAs-BPGroup (As-MP)の一次堆積層で層厚は概ね4~12cm、VI層はATの一次堆積層で層厚は概ね4~10cm、XII層はHr-HAの一次堆積層でブロック状に堆積していた。また、発掘調査段階ではIIa層・II層・III層は細粒砂質のシルト質土層でテフラに由来すると判断したが、火山灰分析の結果、IIa層はAs-Ok1・As-YPを混入する砂質層、III層はAs-BPGroupに由来するテフラを含む砂質層であることがわかった。XIII層は泥炭層で植物繊維を多量に含んでいた。また、ATとAs-BPGroup (As-MP)の間層には、褐色粘土層(VI層・層厚2~10cm)が堆積していた。現地表面の標高63.1m、ATの標高62.4m、Hr-HAの標高61.7mである。

(3) 7区の土層堆積 (第5図・表3)

7区北端部にトレンチを設定した7区では、VI層より下層で粘土層が堆積し、V層・XV層・XIII層・XII層上部で一次堆積層のテフラが確認された。V層は浅間B軽石(As-B)の一次堆積層で層厚は概ね2~8cm、XV層はAs-BPGroup (As-MP)の一次堆積層で層厚は概ね2~12cm、XIII層はATの一次堆積層で層厚は概ね2~10cm、XII層上部には一次堆積層のHr-HAがブロック状に堆積していた。また、ATとAs-BPGroup (As-MP)の間には暗灰色粘土層(XIII層・層厚2~10cm)が堆積していた。現地表面の標高63.1m、ATの標高61.5m、Hr-HAの標高60.7mである。

表1 4区の土層堆積

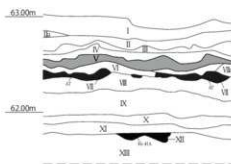
土層No	色調	土層	備考
I層	10YR3/2	黒褐色土層	
II層	10YR4/4	褐色土層	
III層	10YR4/4	褐色土層	
IV層	10YR3/1	黒褐色土層	Hr-FAを含む
V層	10YR4/6	褐色粘土層	4区土塊群の覆土
VI層	10BG6/1	青灰色粘土層	4区土塊群の被覆層
VII層	10YR5/2	灰黄褐色シルト質層	
VIII層	10Y6/1	灰色粘土層	
IX層	10Y5/1	灰色シルト質層	
X層	N3/	暗灰色粘土層	
XI層	7.5Y7/3	浅黄色火山灰層	As-BPGroup (As-MP)の一次堆積層
XII層	10Y6/1	灰色粘土層	
XIII層	7.5Y6/3	オリーブ黄色シルト質層	XII層がシルト化した土層
XIV層	10Y8/2	灰白色火山灰層	ATの一次堆積層
XV層	10BG6/1	青灰色粘土層	
XVI層	N3/	暗灰色粘土層	
XVII層	5G4/1	暗緑灰色粘土層	
XVIII層	10YR3/3	暗褐色粘土層	上部にHr-HA(一次堆積)を含む



第3図 4区土層セクション

表2 6区の土層堆積

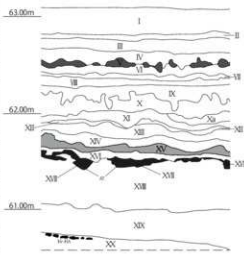
土層No	色調	土層	備考
I層	10YR3/4	暗褐色土層	表土
IIa層	10YR6/2	灰黄褐色砂質層	二次堆積のAs-Ok1, As-YPの混入
II層	10YR6/1	褐色シルト質層	
III層	10YR6/2	灰黄褐色砂質層	As-BPGroup由来のテフラを含む
IV層	10YR3/1	黒褐色粘土層	
V層	10YR6/2	灰黄褐色火山灰層	As-BPGroup (As-MP)の一次堆積層
VI層	10YR4/4	褐色粘土層	
VIIa層	10YR5/2	灰黄褐色粘土層	
VII層	10YR8/1	灰白色火山灰層	ATの一次堆積層
VIII層	10YR3/2	黒褐色粘土層	
IX層	10YR3/1	黒褐色粘土層	VII層より暗色
X層	10Y4/2	オリーブ灰色粘土層	
XI層	10Y6/2	オリーブ灰色粘土層	
XII層	10YR7/1	灰白色火山灰層	Hr-HAの一次堆積層
XIII層	10YR3/4	暗褐色泥炭層	植物繊維を多量に含む



第4図 6区2号トレンチセクション

表3 7区の土層堆積

土層No	色調	土層	備考
I層	10YR3/4	暗褐色土層	表土
II層	2.5Y4/2	暗灰黄色土層	
III層	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色土層	
IV層	10YR3/1	黒褐色土層	As-B混土層
V層	10YR6/1	褐色火山灰層	As-Bの一次堆積層
VI層	N2/	黒色粘土層	
VII層	5YR5/1	褐色粘土層	
VIII層	2.5GY5/1	オリーブ灰色粘土層	Hr-FA, As-C混土層
IX層	10GY4/1	暗緑灰色粘土層	
X層	10BG6/1	青灰色粘土層	
Xa層	10BG6/1	青灰色シルト質粘土層	
XI層	10YR5/2	灰黄褐色シルト質層	
XII層	10YR5/2	灰黄褐色シルト質層	
XIII層	10Y5/1	灰色シルト質層	
XIV層	N3/	暗灰色粘土層	
XV層	7.5Y7/3	浅黄色火山灰層	As-BPGroup (As-MP)の一次堆積層
XVI層	N3/	暗灰色粘土層	
XVII層	10Y8/2	灰白色火山灰層	ATの一次堆積層
XVIII層	N3/	暗灰色粘土層	
XIX層	5G4/1	暗緑灰色粘土層	
XX層	10YR3/3	暗褐色粘土層	上部にHr-HA(一次堆積)を含む



第5図 7区トレンチセクション

(4) 小結

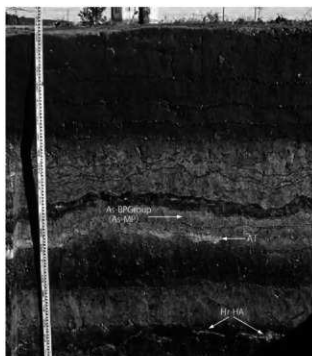
発掘調査段階で①As-BPGroup、②AT、③Hr-HAあるいはHr-HPと推定していた一次堆積層のテフラは、分析の結果、①が浅間板鼻褐色軽石群下部に相当する浅間室田軽石 (As-BPGroup (As-MP))、②がAT、③がHr-HAであることが判明した。As-BPGroup (As-MP) とATは成層で堆積し、Hr-HAはブロック状で堆積していた。これ以外のテフラについては、As-BPGroup、As-Ok1、As-YPに由来するテフラ粒子がAs-BPGroup (As-MP) よりも上層の粘土層に二次堆積で包含されていたことが判明したものの、いずれの調査区でも一次堆積層では確認できなかった。

ATの標高は4区で63.0m、6区で62.4m、7区で61.5mであった。このことから、ATが堆積した当時の低地は現地表面と同様に西から東に向かって傾斜した地形であったと考えられる。

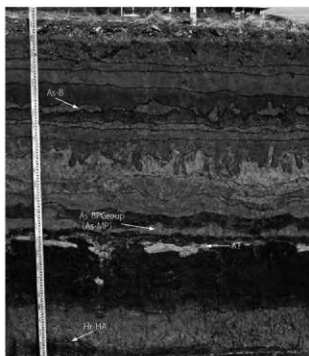
なお、今回の調査での掘削深度は地表面から約2mで、Hr-HAの約20cm下層までである。これより下層にも粘土層の堆積が続いていたが、安全面に配慮してこの掘削深度までとした。

5. 花粉分析

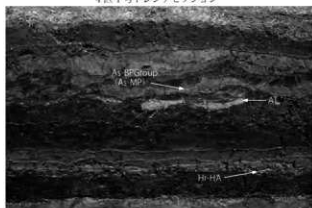
火山灰分析によって粘土層に挟んでいたテフラはHr-HA、AT、As-BPGroup (As-MP) である



4区1号トレンチセクション



7区トレンチセクション



6区2号トレンチセクション



6区2号トレンチ火山灰分析・花粉分析試料採取状況

第3図 トレンチセクション

ことが判明した。

これにより、調査で確認した範囲の粘土層はHr-HA降下以前を含む後期旧石器時代の約3万年前以降の堆積物であることが確実となった。そして火山灰分析に続き、後期旧石器時代の植生ならびに古環境を復元するために花粉分析を行った。花粉分析試料は6区2号トレンチから採取した。

表4は火山灰分析と花粉分析報告をまとめたものである。挟在した一次堆積層のテフラにより、花粉帯をHGS-I帯期・HGS-II帯期・HGS-III帯期・HGS-IV帯期・HGS-V帯期の5期に区分した。各期の花粉帯

は一次堆積層のテフラによって堆積年代の範囲が限定されたものである。したがって、特定の年代の古環境を復元する上で有効性の高い分析データといえる。

Hr-HAとATに挟まれた間には、暗灰色・黒褐色・暗褐色を呈する粘土層が堆積し2層から3層に分層した。この間の堆積土層は関東平野北西部におけるローム台地のAT降下以前の暗色帯に相当する土層であり、当該地域で最も旧石器遺跡が多くなる時期に対比される土層である。

また、ATとAs-BPGroup (As-MP) に挟まれた土層はAT降下以後(約2.5万年前以後)からAs-

表4 6区2号トレンチ採取試料により推定された植生及び古環境

花粉帯	テフラ及び層位	年代	植生及び自然環境の推定	周辺の旧石器遺跡
HGS-V帯期	As-BPGroup (As-MP) 降下以後	2.4万年前後	亜寒帯常緑針葉樹林 (マツ属、トウヒ属、ツガ属) が拡大、亜寒帯常緑針葉樹林 (カバノキ属、コナラ属) が分布する寒冷化と乾燥化、シダ植物が分布する乾燥地拡大	八ヶ入遺跡 東長岡戸井口遺跡 峯山遺跡第1文化層
HGS-IV帯期	AT降下以後から As-BPGroup (As-MP) 降下以前	2.5万年前から 2.4万年前	冷温帯落葉広葉樹林 (カバノキ属)、亜寒帯常緑針葉樹林 (トウヒ属) の拡大、気候の寒冷化と乾燥化。カヤツリダサ科を主とするイネ科の湿性草本	
HGS-III帯期	Hr-HA降下以後から AT降下以前の後半期	3万年前から 2.5万年前までの後半	冷温帯落葉広葉樹林 (コナラ属コナラ亜属、カバノキ属) が拡大、亜寒帯常緑針葉樹林 (マツ属、ツガ属) も多く分布。ハンノキ属の湿地林が縮小、気候の寒冷化と乾燥化	峯山遺跡第2文化層 下触牛伏遺跡第II文化層、 浪志江西宿遺跡第3文化層、 三和工業団地I遺跡第4文化層、大上遺跡第3文化層・第4文化層、天ヶ瀬遺跡第3文化層、書上遺跡第3文化層
HGS-II帯期	Hr-HA降下以後から AT降下以前の前半期	3万年前から 2.5万年前までの前半	亜寒帯常緑針葉樹林 (トウヒ属、ツガ属、マツ属) がやや拡大。冷温帯落葉広葉樹林の縮小、ハンノキ属の湿地林拡大、気候の寒冷化	
HGS-I帯期	Hr-HA降下以前	3万年前以前	冷温帯落葉広葉樹林 (コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ) の分布。亜寒帯常緑針葉樹林 (マツ属、ツガ属、モミ属) の分布、ブナ属 (落葉広葉樹林) が極めて少ない。寒冷でやや乾燥した気候	

*年代はテフラのC14年代値による。

BPGroup (As-MP) 降下以前 (約2.4万年前以後) のおよそ1千年間の短期間の堆積物であり、この年代の古環境復元に大きな意義を持つ分析データである。分析結果から、AT降下以後は亜寒帯常緑針葉樹林の拡大、気候の寒冷化と乾燥化が推定されたが、これが広域テフラによる影響によるものかどうかを検証する上でも貴重な分析データの一例といえる。これは、関東地方北西部のAs-BPGroupなどローカルテフラ降下の影響を考察する際も同じであり、一次堆積層のテフラの上下で採取された分析データは、今後それを検証する上での一例になるであろう。

6. 周辺の旧石器遺跡との対比

萩原遺跡周辺の主な旧石器遺跡として峯山遺跡、八ヶ入遺跡があげられる。

峯山遺跡は、萩原遺跡西側の丘陵上に隣接する遺跡で2時期の旧石器文化層が検出された (関口編2009)。第1文化層は黒曜石製の切出形ナイフ形石器、角錐状石器、横長剥片を組成する石器群で、編年的には群馬旧石器編年III期、武蔵野台地立川ロームIV層下部・V層上部段階に位置付けられる。HGS-V帯期に相当するが、層位的にはAs-BPGroup中・上部降下前後付近

に相当するため、HGS-V帯期の前半への位置付けが可能である。第2文化層はチャート製の剥片を主体とした石器群で、層位的にはAT降下以前の暗色帯に相当するため、HGS-II帯期・HGS-III帯期に位置付けられる。

八ヶ入遺跡では、良好な石器組成を持つ削片系細石刃石器群が検出された (関口編2010)。遺物包含層の上層には一次堆積層のAs-YPが覆い、また遺物包含層の下層には二次堆積のAs-Ok1・Ok2由来のテフラ粒子が検出されたことから、層位的にはAs-Ok1・Ok2降下以後からAs-YP降下以前、編年的には群馬旧石器編年V期に位置付けられる。HGS-V帯期に相当することは確実であるが、萩原遺跡では一次堆積層のAs-YPが確認できなかったため、削片系細石刃石器群の形成時期に直接対比可能な分析データを得ることはできなかった。

また、萩原遺跡から約14km西方の大間々扇状地 (桐原面) 地域や赤城山南麓地域では下触牛伏遺跡、浪志江西宿遺跡、大上遺跡、三和工業団地I遺跡など著名な旧石器遺跡が多数発見されている。これらの遺跡の多くは層位的にAT降下以前の暗色帯層単に帰属し、編年的には群馬旧石器編年I期・II

第6章 成果

期に位置付けられ、HGS-I 帯期・HGS-II 帯期・HGS-III 帯期に相当する(註2)。

暗色帯層率は上下2時期に分離できる。暗色帯下部の時期は群馬編年I期に位置付けられ、環状ブロック群の遺跡が多いことが特徴である。一方、暗色帯上部の時期は群馬編年II期前半に位置付けられ、石刃素材ナイフ形石器や楔形石器、大型石刃の組成を特徴とし、大上遺跡第3文化層を典型とする大規模ブロック群を形成する遺跡が多くなることが特徴である(関口2009)。

HGS-I 帯期・HGS-II 帯期・HGS-III 帯期から得られた分析データは、大間々扇状地(桐原面)地域や赤城山南麓地域を含む関東平野北西部に最も多くの旧石器遺跡が残され、環状ブロック群や大規模ブロック群のように大型の遺物分布構造を持つ遺跡が形成された後期旧石器時代前半期の古環境を復元する上で重要なデータといえる。

7. まとめ

関東平野北西部に位置する萩原遺跡において、後期旧石器時代に堆積した粘土層が検出され、火山灰分析と花粉分析を実施した。火山灰分析の結果、一次堆積層のテフラはHr-HA、AT、As-BPGroup (As-MP)であることが判明した。また、花粉分析の結果、およそ3万年前以前から2万年前に相当する約1万年間に及ぶの植生の変遷を復元できる花粉化石が抽出され、古環境を復元する手がかりが得られた。一次堆積層のテフラに挟まれた土層は堆積年代が特定され、また年代幅が限定された堆積物であるから、そこから得られた分析データは特定の年代に焦点を当てて古環境を復元する上で有効性が高いといえる。

これまで後期旧石器時代の古環境復元のための花粉分析は、陸上の風成ローム台地に立地する旧石器遺跡の調査に伴って実施されてきたのが一般的である。旧石器遺跡が水成堆積土壌中から発見されることはほとんどないため、こうした条件下で分析せざるを得なかったのが実情である。このため、そこか

ら採取された花粉化石も水成堆積土壌のものに比べ保存状態に限られたものが多かった。

今回報告した萩原遺跡から得られた分析データは、通常の旧石器遺跡よりも保存状態のよい水成堆積土壌採取の試料に基づく良好な分析データである。したがって、後期旧石器時代の人類を取り巻く自然環境を客観的なデータに基づいて復元していく際に今後幅広く活用されるものと期待される。

また、後期旧石器時代の古環境復元のためには、引き続き有効な試料を採取して分析を積み重ね、確かな証拠を着実に揃えていかなければならない。その場合、広い面積をより深く掘削する埋蔵文化財の発掘調査は、有効な試料を採取できる絶好の機会であることを調査担当者は常に認識しておくことが大切で、その機会を広く周知する努力も必要であろう。同時に、組織的にも発掘調査機関と行政機関、そして研究機関との幅広い協力のもとで効率的に有効性の高い調査と分析を行うことが望まれる。

註

(1) 花粉分析については、株式会社パレオ・ラボにも委託したが本報告書では紙数の都合により分析報告を掲載できなかった。分析データの蓄積ならびに株式会社古環境研究所が実施した分析データと比較検討する上で今後機会を改めて報告する必要がある。

(2) ここではHGS-I 帯期に帰属する遺跡とも想定している。ただし、これまで暗色帯下部に出土層を持つ遺跡で一次堆積層のHr-HAとの前後関係を明確に把握できた遺跡はない。このため、現時点では暗色帯下部の遺跡にHGS-I 帯期以前の遺跡があるのか、あるいはすべてHGS-II 帯期以降つまりHr-HA以降の遺跡なのか厳密には決定できていない。

引用参考文献

- 小菅将夫 2003 「北関東地方との対比」『第15回長野県旧石器文化研究交流会シンポジウム「野尻遺跡群の旧石器時代編年-発表資料-」』117頁-128頁
- 関口博幸 2009 「大間々扇状地桐原面における暗色帯上部段階の旧石器遺跡群」『石器文化研究15-岩宿発掘60周年記念号-』石器文化研究会 92頁-99頁
- 関口博幸編 2009 「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第460集 塚山遺跡I-旧石器・縄文時代編- 北関東自動車道(伊勢崎-県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関口博幸編 2010 「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第491集 ハッ入遺跡I-旧石器時代編- 北関東自動車道(伊勢崎-県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 町田 洋・新井厚夫 2003 「新編火成岩アトラス-日本列島とその周辺」東京大学出版会

[2] 調査の成果

(1) はじめに

本遺跡は、旧石器時代から近世までの複合遺跡である。遺構は古墳時代の土坑群や平安時代の水田、井戸、中・近世の溝などが検出された。

特徴的な遺物としては、平安時代の柄杓曲物や近世の元文一分判金がある。また、後期旧石器時代の調査では低地部という立地環境を生かした自然科学分析を行うことにより、本地域の後期旧石器時代の環境を復元するのに有効な調査を行うことができた。成果は前項である第6章 [1] に掲載した。

本稿ではこれら特徴的な遺構や遺物をまとめ、本遺跡の調査成果としたい。

(2) 遺構

1. **古墳時代の土坑群** 検出された土坑群は金山の台地状の地形から低地部に向かう縁辺に沿うように立地している。遺構に共存する遺物から、土坑群は5世紀前半に比定される。遺構の立地や青灰色粘土層（基本土層Ⅳ層）を掘り込んでいることから、粘土探掘坑の可能性が高いと考えらる。県内の粘土探掘坑研究は、みなかみ町葦田東遺跡を端緒とする。粘土探掘坑の存在は調査担当者の相京建史氏により県内では初めて指摘され、報告書編集担当の原雅信氏が抽出した。相京氏によると、代表的な粘土探掘坑の断面は目的とする粘土層付近でフラスコ状に膨らんでおり、土層断面の特徴から探掘作業の手順がわかるという。また、原雅信氏は、土器の胎土分析や地質調査などの自然科学分析を含めて総合的に粘土探掘坑を考察し、こうした葦田東遺跡の調査が、その後の県内の粘土探掘坑の調査・研究目的を確立したといえる（中東2004）。

本遺跡で検出された粘土探掘坑は、粘土層付近まで掘り込んでいるが、遺構確認面が粘土層上面付近であるために上層の土層断面が確認できない。そのため、作業手順の理解はできなかったが、僅かに底部に残るブロック状の土層断面が、底部の掘削と埋戻しの様子を示している可能性がある。

本遺跡周辺は峯山遺跡の鉄生産（7世紀末～8世紀前半）、埴輪生産の胸形神社埴輪産跡（6世紀後半）、須恵器生産の菅ノ沢産跡群（6世紀後半）、瓦生産の萩原産跡・落内産跡（7世紀後半～8世紀前半）など、古代の鉄生産や窯業が盛んな地域として知られており、いずれの生産にも良質な粘土が必要であるといわれている。本遺跡群は5世紀前半に比定され、同時期に該当する粘土を必要とする生産跡の発見例がなく、採掘された粘土の用途を推定することは難しい。

2. **平安時代の水田跡** 本遺跡からは平安時代の水田跡が検出された。検出された水田跡はいずれも畦状の高まりや溝で区画されている。本遺跡周辺には東に古水条里水田遺跡、西に上強戸遺跡群があり、平安時代の水田を検出している。

古水条里水田は、1936年深谷正秋氏、1960年代の三友園五郎氏により、古くから条理地割りが存在する地点として注目されていた。この地域の水田跡の発掘調査は太田市教育委員会による「渡良瀬川流域遺跡群発掘調査」の一貫として実施されたことに始まり、As-B層が確認され、当地地表面に残っていた条里範囲とはほぼ一致することが確認された。周辺の大規模な調査は本調査と同事業の北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う発掘調査で2003年から行われ、2009年に「古水条理水田跡 二の宮遺跡」として報告されている。報告者の山田精一氏は検出された古水条理水田跡の大畦畔1号畦畔を南北軸、2号畦畔を南北軸を東西軸の起点に置き、ほぼ109m間隔で3号～6号畦畔が検出されたとし、この地点での少なくとも平安時代前半からの条里区画があったとしている。

上強戸遺跡群の水田調査は同事業の北関東自動車道関連で発掘調査され、広範囲で水田跡が検出されている。上強戸遺跡群は現在整理中であり、その成果については報告書の刊行を待ちたい。

本調査では平安時代の水田跡を最大3面、29区画検出した。水田は5区、9区、11区で検出され、5区で1面8区画、8区で1面4区画、9区で1面4区

画、11区で3面13区画が明らかとなった。それぞれの水田面は、畦状の高まりや溝の配置などで水田面と確認できる。As-B層や洪水層などで完全に残存している箇所は少なく、水田面に残された耕作痕の状況で畦を推定している箇所が多い。また、11区は水田面の残存状況が比較的良好で、第5区画では溝から水田面の水を供給する水口跡が2か所確認された。平安時代の遺物を伴う土坑や井戸の覆土と水田面を覆う洪水層が近似することから、水田面はいずれも平安時代の所産であると考えられるが、条里区画を検証できるような遺構の残存状況ではなかった。

3. 中・近世の溝 本遺跡で検出された中・近世の溝は機能的に①区画、②水田の導水に大別できる。区画溝である4区1号溝やそれ以外の水田の導水用の溝と想定される溝は、ほぼ東西南北を軸に走行しており、区画溝、水田導水用の溝とも同時期である可能性が高い。本遺跡は低地に立地し、旧地形はほぼ平坦な地形であったと考えられることから、水田区画は比較的大規模であったことが想定される。

(3) 遺物

1. 柄杓曲物 柄杓曲物は4区1号井戸から出土した。身のみを検出であるが、残存状況が良好で、底板と側板の接合や、身と柄の装着方法などの構造が理解できる。

身の側板上寄りには1.5×1.0cm大の長方形の明確な孔と中位に直径0.3cm大の小さな孔があり、身の内側を柄杓の柄が斜めに横断していたことがわかる。底板の直径は約11.4cmのほぼ円形で側板の高さは約10.0cmを測る。側板は二重に巻いており、樺皮接合部のみ三重になっている。上寄りの柄の孔は側板の樺皮接合部の脇にあげられており、側板の頭文な箇所柄の孔を開けていることがわかる。対面する小さな孔は0.3cm大と非常に小さいことから、柄の先端が細く成形されていたことがわかる。「水器集成図録」(近畿古代編1985奈良国立文化財研究所)によると、曲物柄杓では側板と底板の接合は木釘による釘結合の出土例が確認できるとのことであ

るが、本遺物は底板側面に側板を強く締め付けることにより接合している。

2. 元文一分判金 一分判金の出土例は県内では遺跡からの出土としては吾妻郡長野原町九々戸遺跡が知られている。九々戸遺跡は1997年八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された遺跡で、天明3(1783)年浅間山噴火に伴う天明泥流下の「草津みち」と呼ばれる街道や畑跡が調査された。一分判金は畑のサク部分から出土している。一分判金は慶長一分判金で慶長六(1601)年から元禄八(1695)年までの製造であるという。

萩原遺跡で発掘された一分判金は元文一分判金といわれる元文元年(1736年)から文政元年(1818年)の間に製造されている。表面には「五三の桐紋」と「一分」の文字、裏面には製造を請け負っていた金屋の後藤庄三郎光次の印「光次(みつづく)」の署名と「花押」が刻印されている。初代後藤庄三郎光次(1571-1625)は家康の厚い信任を得て、江戸幕府の金貨を製造した人物で、以後代々、金屋の主催者が後藤庄三郎を継承した。発掘された一分金の重さは0.875g=3.28gといわれているが本遺物は3.24gである。元文一分金は65.7%の金の含有率と言われている。一分判金は伝世品がほとんどで、遺跡からの出土は珍しい。

(4) おわりに

以上、今回の調査で得られた遺構・遺物についての所見を列記した。今回の調査で解明できなかった多くの課題を周辺の今後の調査と再検討により解明していく必要があり、本報告が広く活用されることを期待したい。

引用参考文献

- 岡 俊明 2003『小結(久々戸遺跡)』『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 中東謙志 2004『古代群馬の粘土探掘坑』『研究紀要』22 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 原 雅信 1982『戦国東遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 山田精一 2009『まとめ』『古水発掘水田跡 二の宮遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

写真図版



萩原道跡



3区全景



4区全景



5区全景 (西から)



8区全景



9区全景 (第3面)



11区全景 (第1面)



11区全景 (第2面)



11区全景 (第3面)



11区全景 (第4面)



3区1・2号土坑全景



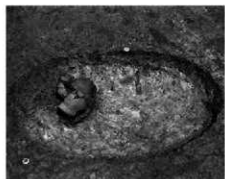
3区3号土坑全景



4区1号土坑遺物出土状況



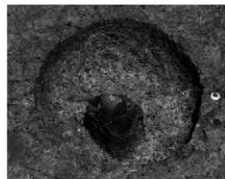
4区4号土坑遺物出土状況



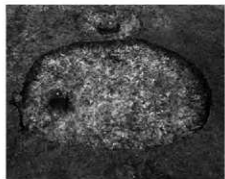
4区6号土坑遺物出土状況



4区7号土坑遺物出土状況



4区8号土坑遺物出土状況



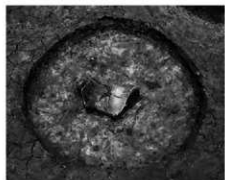
4区9号土坑遺物出土状況



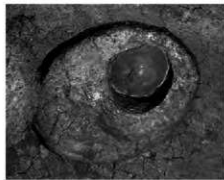
4区14号土坑遺物出土状況



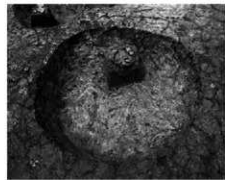
4区16～18号土坑遺物出土状況



4区21号土坑遺物出土状況



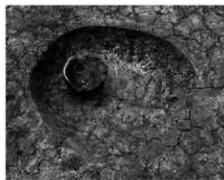
4区28号土坑遺物出土状況



4区33号土坑遺物出土状況



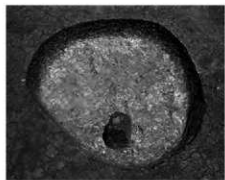
4区39号土坑遺物出土状況



4区79号土坑遺物出土状況



4区95号土坑遺物出土状況



4区100号土坑遺物出土状況



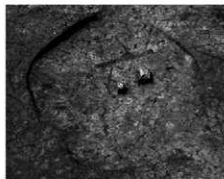
4区101号土坑遺物出土狀況



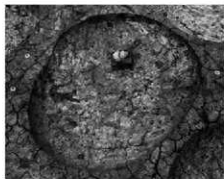
4区103号土坑遺物出土狀況



4区114号土坑遺物出土狀況



4区158号土坑遺物出土狀況



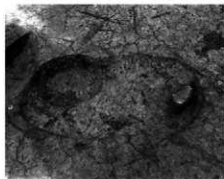
4区198号土坑遺物出土狀況



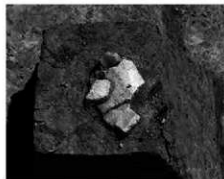
4区276号土坑遺物出土狀況



4区534号土坑遺物出土狀況



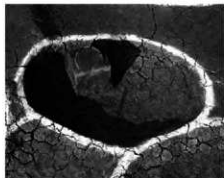
4区287号土坑遺物出土狀況



4区365号土坑遺物出土狀況



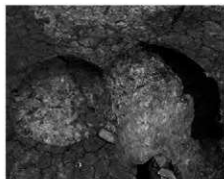
4区399号土坑遺物出土狀況



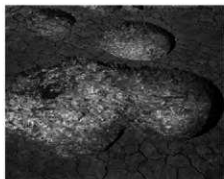
4区534号土坑遺物出土狀況



9区2号土坑遺物出土狀況



4区44・45号土坑全景



4区58・59号土坑全景



4区88号土坑全景



4区10・11・132・133号土坑全景



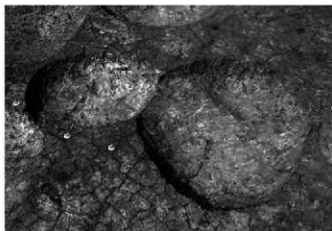
4区69～72号土坑全景



4区104～106号土坑セクション



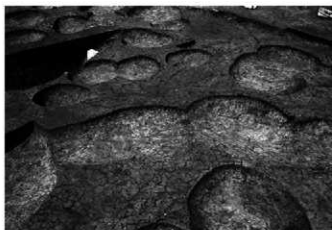
4区126・127・136号土坑全景



4区150・151号土坑全景



4区159・160号土坑全景



4区220・221号土坑全景



4区303・304・307号土坑全景



4区365号土坑全景



4区395号土坑全景



4区276号土坑周辺



4区211・212号土坑セクション



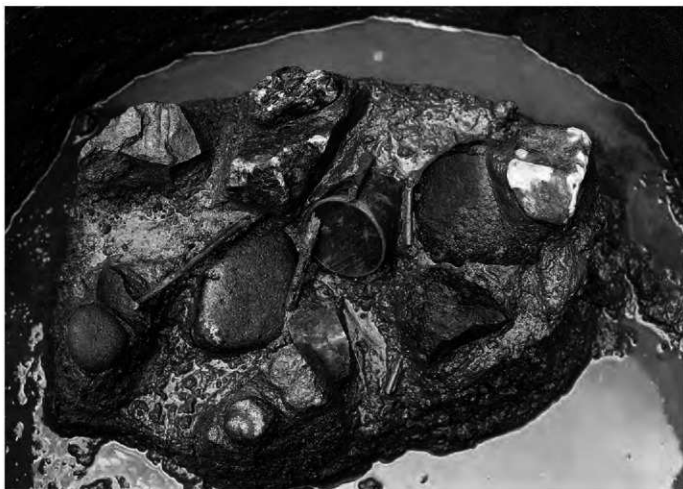
4区365号土坑セクション



4区350号土坑周辺



4区1号井戸全景



4区1号井戸遺物出土状況



11区1号井戸全景



11区2号井戸セクション



3区1号溝全景



3区2・3号溝全景



3区1・4号溝(西から)



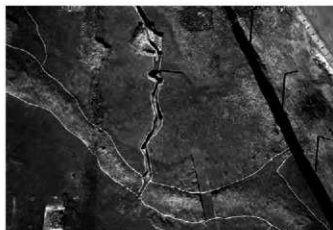
3区4号溝全景



3区4号溝セクション



3区1号溝全景



3区1号溝全景



3区6号溝全景(東から)



4区1・2号満全景



4区3号満全景



4区4号満全景



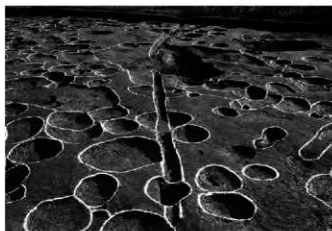
4区5号満全景



4区6号満全景



4区9号満全景



4区10号満全景



4区8号溝全景



4区11号溝全景



4区12号溝全景



4区13・14号溝全景



4区15号溝全景



4区16号溝全景



5区4号溝セクション



11区1~3号溝全景



11区2号溝



11区2・3・7・8号溝全景



11区3・24号溝全景



11区14・15号溝全景



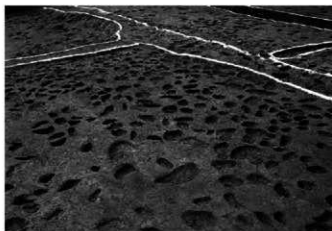
11区16号溝全景



11区17・20号溝全景



11区18・19号溝全景



5区水田面近景



11区2面(水田面)



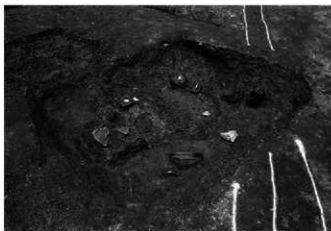
11区2面(水田面)



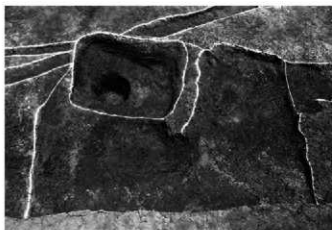
11区3面(水田面)



4区1号掘立柱建物



11区1号竪穴状遺構



11区1・2号竪穴状遺構



11区2号竪穴状遺構遺物出土状況



4区基本土層



5区基本土層



7区基本土層



6区基本土層



4区1土-1



4区4土-1



4区6土-1



4区7土-1



4区8土-1



4区21土-1



4区14土-1



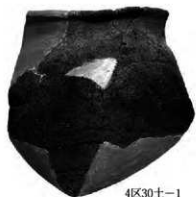
4区33土-1



4区39土-1



4区28土-1



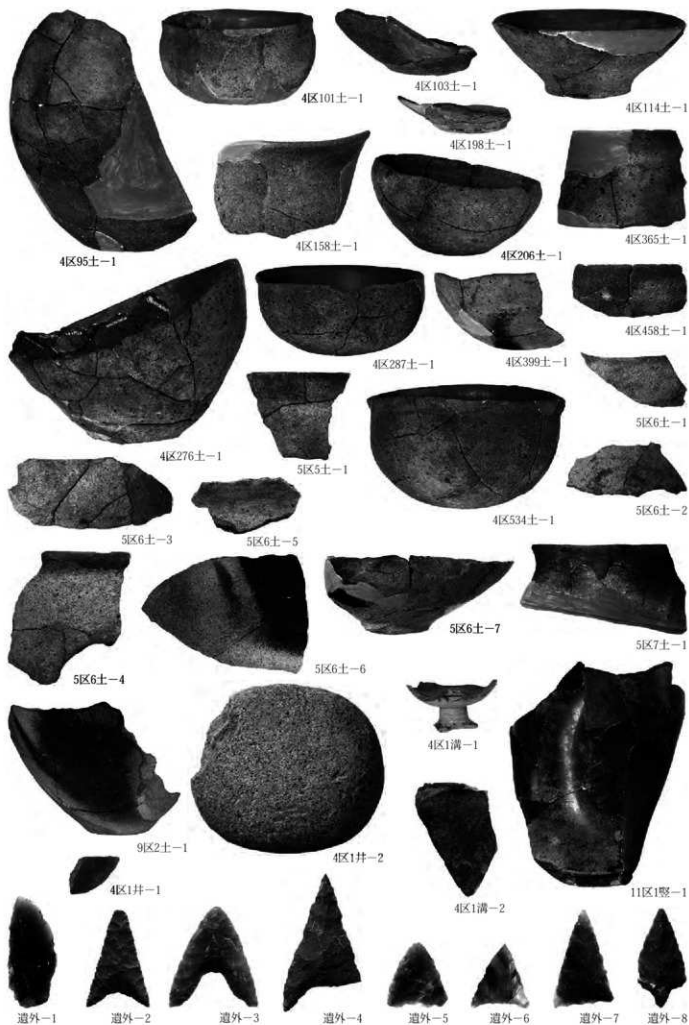
4区30土-1

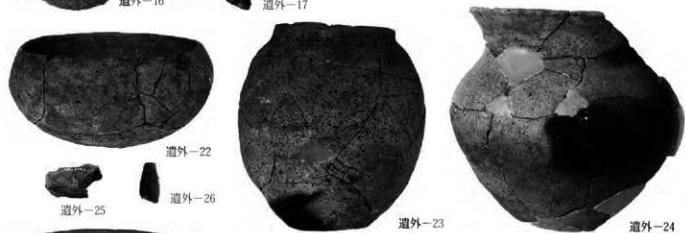


4区79土-1



4区78土-1





報告書抄録

書名ふりがな	はぎわら
書名	萩原遺跡
副書名	北関東自動車道(伊勢崎-県境地域)埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第500巻
編著者名	笹澤泰史・関口博幸
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	201009025
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	はぎわら
遺跡名	萩原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしみどりまち
遺跡所在地	群馬県太田市緑町
市町村コード	10205
遺跡ID	459
北緯(日本測地系)	361958
東経(日本測地系)	1392235
北緯(世界測地系)	3612010
東経(世界測地系)	1392350
調査期間	20040501-20050331/20061101-20061122/20070305-20070328
調査面積	16.707
調査原因	道路建設
種別	生産(水田)
主な時代	古墳/平安/中近世
遺跡概要	古墳-土坑/生産-平安-水田+溝+土坑+井戸/中近世-溝+懸穴状遺構+土坑
特記事項	近世の一分金と平安時代の柄杓曲物の出土。古墳時代の547基の土坑群、平安時代の水田の検出。
要約	県内2例目の近世の一分金の出土と、井戸からの残存状況良好な平安時代の柄杓曲物の出土。古墳時代の545基の土坑群は粘土探掘坑の可能性が高い。平安時代の水田面が検出され、周辺の水田遺構との関連が注目される。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第500集

萩原遺跡

北関東自動車道（伊勢崎～県境地域）
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年9月24日 印刷

平成22年9月30日 発行

編集／発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

電話 0279-52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

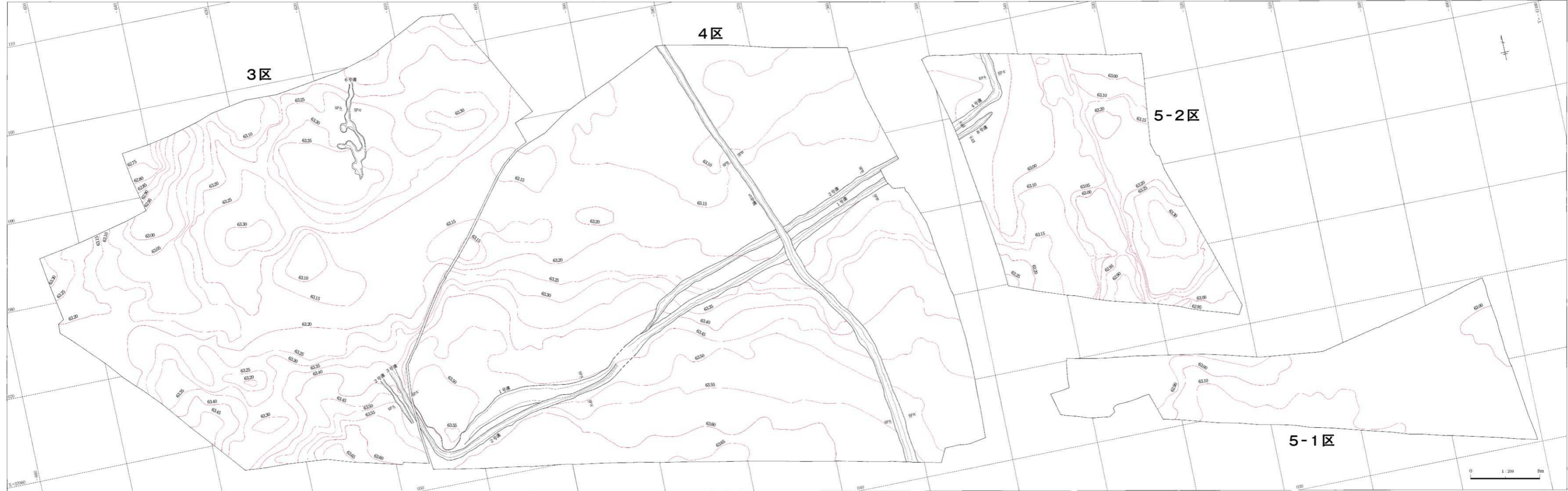
印刷／松本印刷工業株式会社

萩原遺跡

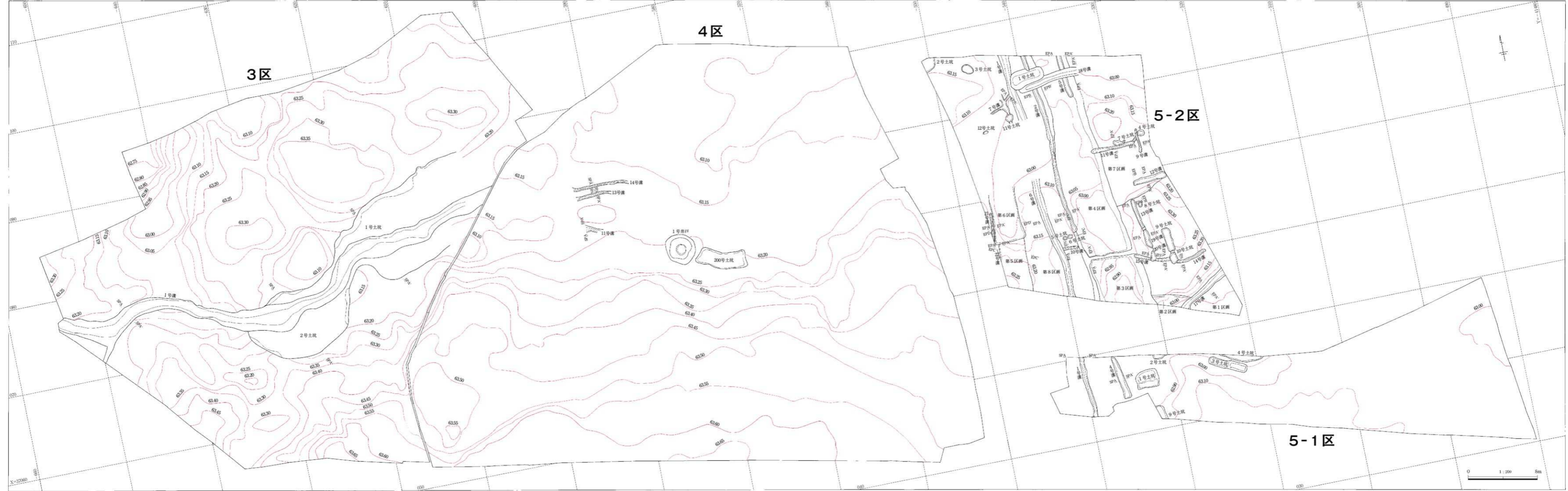
付 図

- 付図1 3～5区（中・近世）1/200
付図2 3～5区（平安時代）1/200
付図3 3～5区（古墳時代）1/200
付図4 3～5区（時期不明）1/200
付図5 11区1面（近世）1/200
付図6 11区2面（平安時代）1/200
付図7 11区3面（平安時代）1/200
付図8 11区4面（平安時代）1/200
付図9 8区（中・近世）1/200
9区2面（平安時代）水田面 1/200
9区3面（平安時代）1/200

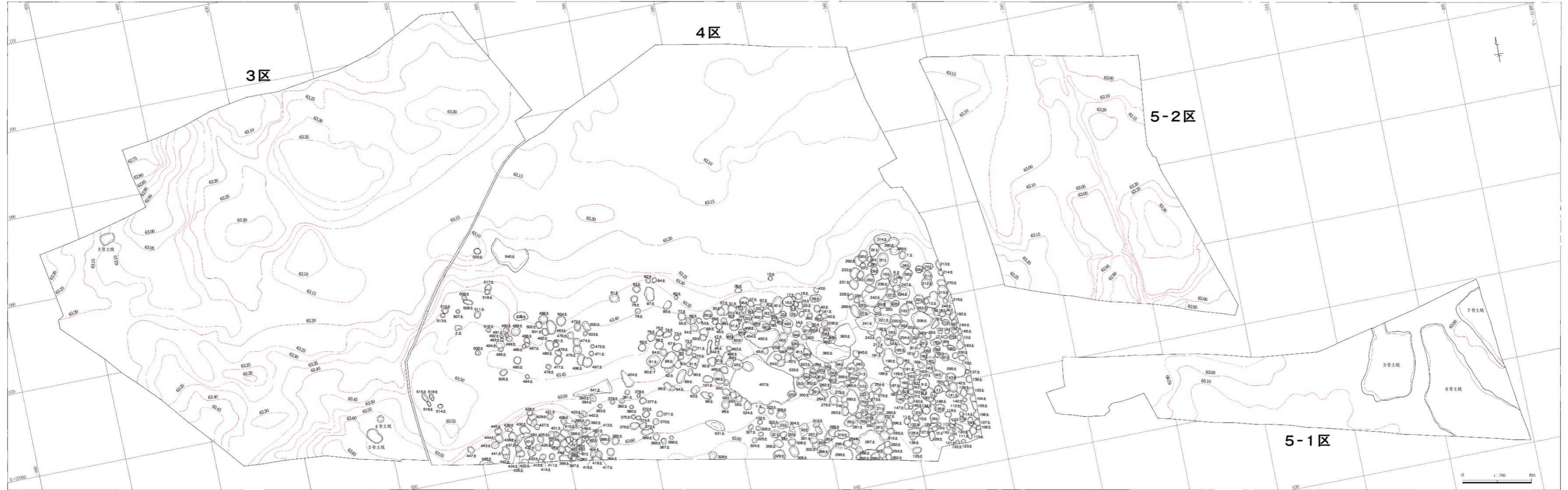
萩原遺跡 付図1 3～5区 (中・近世) 1/200



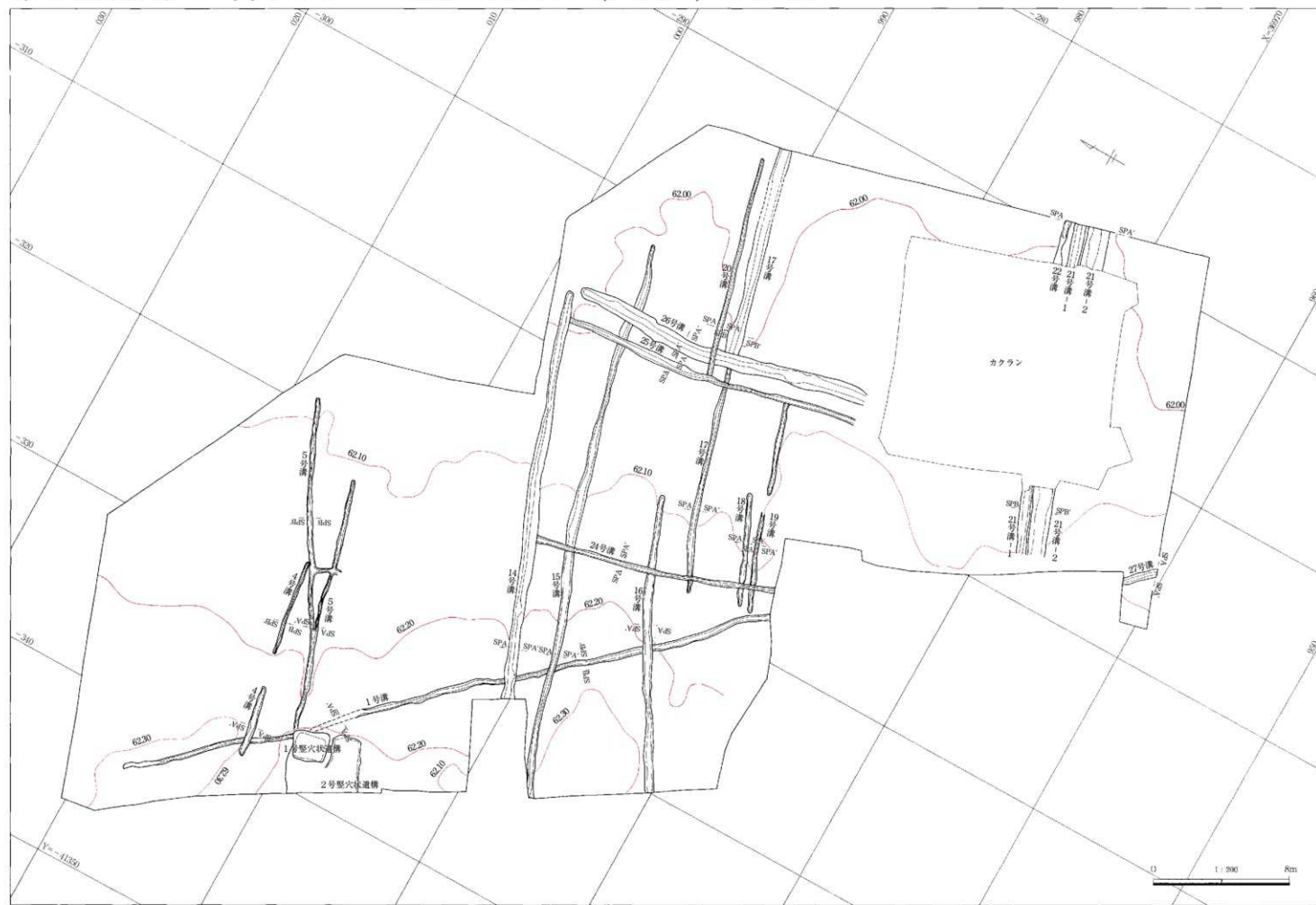
萩原遺跡 付図2 3～5区 (平安時代) 1/200



萩原遺跡 付図3 3～5区 (古墳時代) 1/200



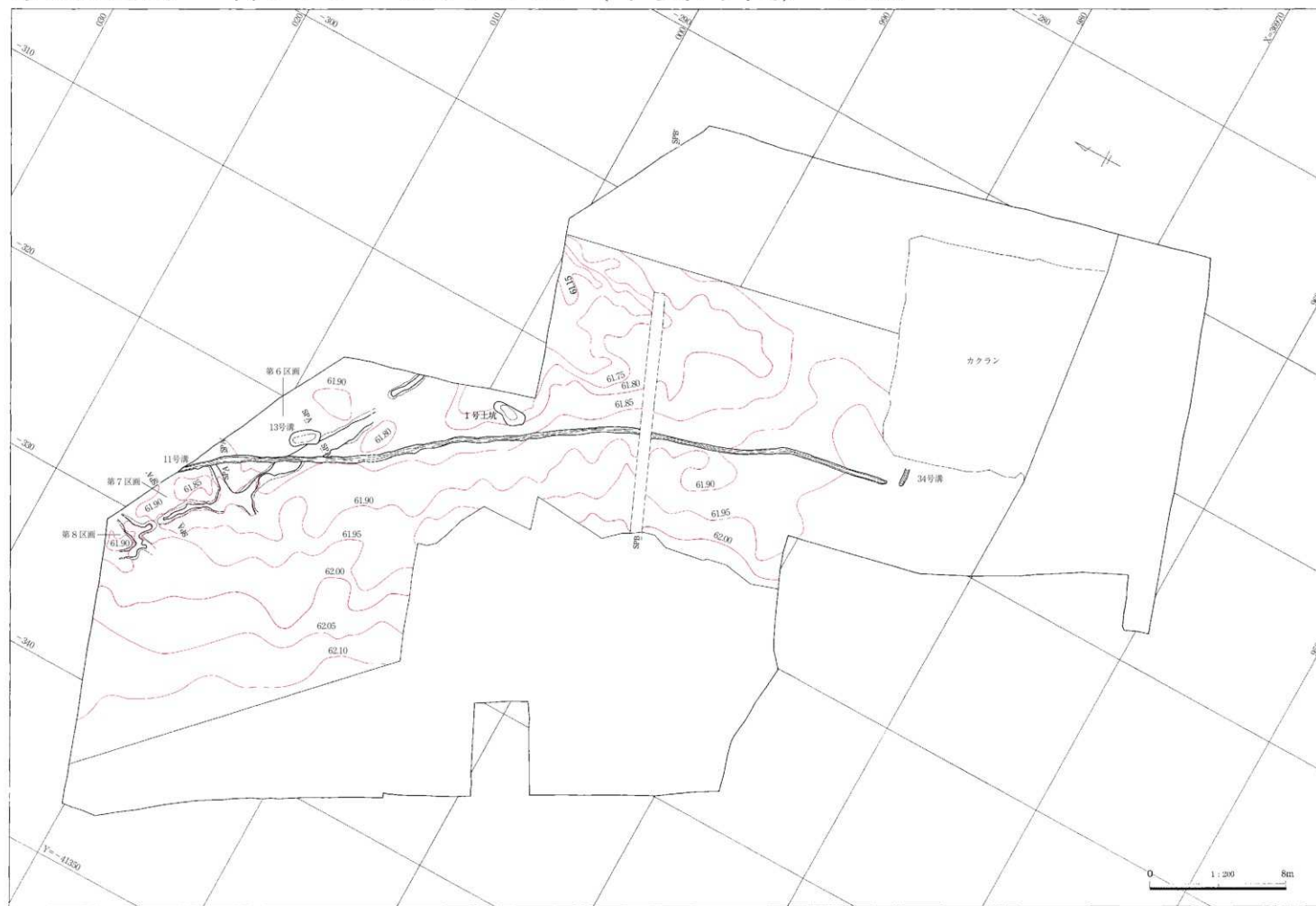
萩原遺跡 付図5 11区1面 (近世) 1/200



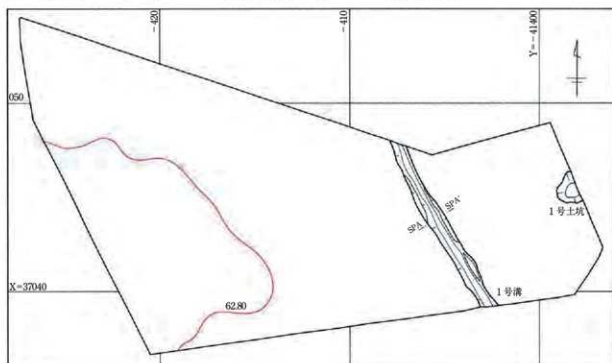
萩原遺跡 付図6 11区2面（平安時代） 1/200



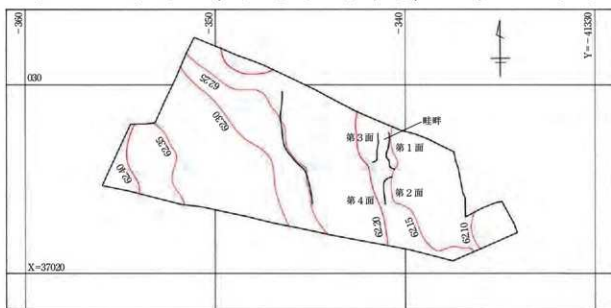
萩原遺跡 付図8 11区4面 (平安時代) 1/200



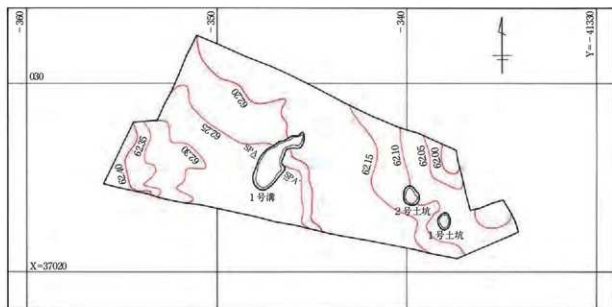
8区 (中・近世) 1/200



9区 2面 (平安時代) 水田面 1/200



9区 3面 (平安時代) 1/200



萩原遺跡 付図9

